文部科学省委託調査
令和５年度「公的統計調査等を活用した教育施策の改善の推進するための取組」

# 子どもの成長過程を解明するための
# 長期的な縦断調査に関する調査分析

# 報告書

令和６年３月

株式会社浜銀総合研究所

# 目　次

Ⅰ　調査研究の概要 ..... 1

1. 背景・目的 ..... 1
2. 実施内容 ..... 2

Ⅱ　教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析 ..... 4

1. 検討・実施事項の概要 ..... 4
2. テーマ設定 ..... 4
   A　性格特性（いわゆる「ビッグファイブ」の項目）に関する集計・分析 ..... 5
   B　読書習慣（読書冊数）に関する集計・分析 ..... 13
   C　中学校卒業後の進路（中退経験を含む）に関する集計・分析 ..... 20
   D　大学生の授業外学修時間に関する集計・分析 ..... 30
   E　大学生の大学院進学意向に関する集計・分析 ..... 42
   F　大学生世代の精神的健康に関する集計・分析 ..... 53

Ⅲ　回顧的な調査項目に関する予備調査の実施 ..... 61

1. 検討・実施事項の概要 ..... 61
2. 回答者の現在の状況について ..... 65
3. 過去の教育経験等 ..... 69
4. 尺度作成の検討 ..... 74
5. 項目間の関連性 ..... 83
6. 小括、調査・分析方法等についての提案等 ..... 89

Ⅳ　21 世紀出生児縦断調査の継続実施にあたっての検討課題等 ..... 91

1. 検討・実施事項の概要 ..... 91
2. 21 世紀出生児縦断調査について検討すべき事項 ..... 92
3. 国内外のパネル調査の実施・継続体制について ..... 99
4. 小括 ..... 105

Ⅴ　参考資料 ..... 106

1. 「若者の生活や意識に関する調査」調査票 ..... 106
2. 「若者の生活や意識に関する調査」集計表 ..... 122

# Ⅰ　調査研究の概要

## 1. 背景･目的

本調査研究では、文部科学省及び厚生労働省が共管で実施している「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児)」（以下、「平成 13 年児縦断調査」という。）について、第 21 回調査までのデータを活用した集計・分析の方向性について検討を行うとともに、新たに盛り込むと有用になると考えられる質問項目（学校卒業後の状況把握に関する項目や初等中等教育機関に在学中のことに関する回顧質問項目等）について、実際の調査データを基に検討を行った。

「経済財政運営と改革の基本方針 2023」[1]においては、「各政策分野における KPI への Well-being 指標の導入を進める」ことが求められている。また、教育再生実行会議第 12 次提言[2]では、データによる政策立案として、「子供の成長過程を解明するための長期的な縦断調査」が求められている。さらに、「教育振興基本計画」[3]には、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げるとともに、客観的な根拠を重視した教育政策の推進が求められている。

本調査研究は、これらの観点も踏まえつつ、「子供の成長過程を解明するための長期的な縦断調査」の実現に向けた、基礎的・予備的な調査の実施・分析を行うことを目的とした。

[1]「経済財政運営と改革の基本方針 2023　加速する新しい資本主義～未来への投資の拡大と構造的賃上げの実現～」(令和5年6月 16 日閣議決定)
[2]「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について(第十二次提言)」(令和3年6月3日)
[3] 文部科学省「教育振興基本計画」(令和5年6月16日閣議決定)

## 2. 実施内容

本調査研究では、主に「教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析」と「回顧的な調査項目に関する予備調査の実施」について検討を行い、その結果について本報告書に取りまとめた。

なお、調査の実施・分析にあたっては、文部科学省が設けている「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）研究会」の有識者委員など、複数の有識者に対してヒアリングをし、助言を受けた。

### ①教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

これまで蓄積・公開されてきた第 21 回までの平成 13 年児縦断調査の結果を基にした分析を検討・実施した。

「教育振興基本計画」の記載内容を踏まえていくつかの分析テーマを検討・設定し、今後分析を深めていくことを想定し、基礎的なデータの集計・分析を実施した。

### ②回顧的な調査項目に関する予備調査の実施

令和４年度「EBPM をはじめとした統計改革を推進するための調査研究」（子どもの成長過程を解明するための長期的な縦断調査に関する調査分析）[4]で検討された予備調査の実施方法等を踏まえ、「若者の生活と意識に関する調査」として、実際に調査を行った。

また、得られたデータを基に、回顧的な調査項目に関する「わからない・覚えていない」の回答割合の把握や、尺度作成の検討、想定される分析内容の試行などの検討を行った。

[4] 浜銀総合研究所（2023）「子どもの成長過程を解明するための長期的な縦断調査に関する調査分析　報告書」（令和５年３月）

### ③有識者に対するヒアリング

主に「回顧的な調査項目に関する予備調査の実施」について検討を進めるにあたり、下記の有識者にヒアリングを行い、助言を受けた。ヒアリングは、令和 5 年 10 月、令和 6 年 3 月の時期に実施した。

図表 1-1 ヒアリングを実施した有識者一覧

| 氏名（50 音順） | 所属等 |
|---|---|
| 石田浩 | 東京大学特別教授室・社会科学研究所特別教授 |
| 遠藤利彦 | 東京大学大学院教育学研究科教授 |
| 佐藤香 | 東京大学社会科学研究所社会調査・データアーカイブ研究センター教授 |
| 土屋隆裕 | 横浜市立大学データサイエンス研究科長 |
| 濱中義隆 | 国立教育政策研究所高等教育研究部部長 |

### ④報告書の作成

本調査研究で得られた成果について、本報告書にとりまとめた。

「教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析」の結果は本報告書第Ⅱ章に、「回顧的な調査項目に関する予備調査の実施」の結果は本報告書第Ⅲ章に掲載した。

また、第Ⅳ章「21 世紀出生児縦断調査の継続実施にあたっての検討課題等」として、21 世紀出生児縦断調査について長期的な縦断調査の実施体制や調査項目等に関する提案・留意点の整理等を行うとともに、今後の長期的な縦断調査の実施体制について検討できるようにするため、既存の文献等から、パネル調査の実施・継続にあたっての体制面等に関する情報を収集し、整理した結果も盛り込んだ。

# Ⅱ　教育政策の立案に資する縦断調査の結果等の分析

## 1. 検討・実施事項の概要

平成 13 年児縦断調査のデータについて、令和 4 年度には「社会関係資本・学校適応」、「体験活動・非認知能力」、「スーパーサイエンスハイスクール・理系進路選択」、「修学支援新制度」の各テーマに関して「特別報告」が行われている[5]。

本調査研究では、今後あらためて教育施策に関連する分析を深めていくことを想定し、いくつかのテーマに関して基礎的なデータを得ることを目的とした集計・分析を行った。

## 2. テーマ設定

教育振興基本計画に記載されている内容も参照し、第 21 回調査のデータを含み、複数時点間の変化が把握可能な内容の分析テーマとして、次の A～F の各テーマについて検討を行った。

図表 2-1-1　集計・分析の検討を行ったテーマ一覧

| | テーマ内容 | 観点 |
|---|---|---|
| A | 性格特性（いわゆる「ビッグファイブ」の項目）に関する集計・分析 | 第 16 回・第 17 回・第 18 回・第 21 回で調査が行われている、いわゆる「ビッグファイブ」の性格特性は、成長後にはあまり変化しないものと考えられているが、性格特性に関する各指標がどのような推移をみせたのかに着目した集計を行った。 |
| B | 読書習慣（読書冊数）に関する集計・分析 | 読書習慣は、第 7 回・第 8 回・第 10 回で、保護者調査にて回答が得られている。第 21 回調査では対象者本人に対して調査が行われているが、小学生段階の読書習慣と、大学生等の時期の読書習慣との関連性に着目した集計を行った。 |
| C | 中学校卒業後の進路（中退経験を含む）に関する集計・分析 | 中学校卒業後、多くの者は高等学校に進学するが、その後の進路は多様化していく。第 16 回調査～第 21 回調査のデータを用いることで、中学校卒業後の進路の状況（中退経験を含む）について、集計を行った。 |
| D | 大学生の授業外学修時間に関する集計・分析 | 第 19 回調査以降の段階で把握される、大学生の授業外学修時間に着目して集計を行った。学年が上がるにつれて授業外学修時間が増加した（または減少した）学生の特徴について検討した。 |
| E | 大学生の大学院進学意向に関する集計・分析 | 第 19 回調査以降の段階で把握される、大学生の大学院進学意向に着目して集計を行った。大学院への進学を希望する学生の特徴や、大学院への進学希望の変動に影響を与える可能性のある要因について検討した。 |
| F | 大学生世代の精神的健康に関する集計・分析 | 精神的健康については、第 16 回調査以降継続的に調査が行われている。第 19 回調査までのデータを用いた集計は令和 3 年度報告書でも実施されているが、あらためて大学生世代の精神的健康状態に着目して集計を行った。 |

[5] 浜銀総合研究所（2023）「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）特別報告」（令和 5 年 3 月）

## A 性格特性（いわゆる「ビッグファイブ」の項目）に関する集計・分析

### 1. 分析の背景・目的

平成 13 年児縦断調査には、第 16 回調査以降の調査回において、いくつかの観点からいわゆる「非認知能力」に関する項目が設定されている。

「非認知能力」については、教育振興基本計画において、ウェルビーイングの向上に関する論点の中で「社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育成する視点も重要である」とされている。

「非認知能力」を育成するという視点を踏まえた分析として、令和 4 年度の「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）特別報告」においては、「自尊感情」、「精神的回復力（レジリエンス）」、「がまん強さ（やりぬく力、グリット）」（及び「精神的健康」）のそれぞれについて、体験活動との関連性について分析が行われている。

他方、平成 13 年児縦断調査には、性格特性に関する、いわゆる「ビッグファイブ」に関する調査項目も設定されている（第 16 回・17 回・18 回・21 回調査において設定）。「ビッグファイブ」は、人のパーソナリティを「外向性」、「協調性（調和性）」、「勤勉性（誠実性）」、「神経症傾向（情緒安定性）」、「開放性」の5つの観点（特性）からおおまかに理解しようとするもので、平成 13 年児縦断調査には、日本語版 Ten Item Personality Inventory（日本語版として小塩・阿部・カトローニ（2012）[6]）に基づく項目が設定されている。

このような性格特性についても、広くは「非認知能力」に含まれて扱われるものであるという見方ができるが、一般的に「高ければ高いほど望ましい」ものと考えられる「能力」とは異なるものであると位置付けられる（国立教育政策研究所（2017）[7]）。成人期の所得や昇進と関連性があるという研究もされている（Lee＆ Ohtake（2014）[8]）が、性格特性に関する可変性は年齢とともに減じていくとされており、教育施策による介入も、年齢が高くなると「高コスト」なものになると考えられている（国立教育政策研究所（2017））。

このような議論がある中ではあるが、21 世紀出生児縦断調査の第 16 回調査～第 18 回調査で把握される高校生等の段階、及び、第 21 回調査で把握される成人期の時点で、調査対象者の性格特性に関する各指標は、果たしてどのように推移しているのだろうか。特に変化していないのか、変化をしているの

---

[6] 小塩・阿部・カトローニ（2012）「日本語版 Ten Item Personality Inventory（TIPI-J）作成の試み」、『パーソナリティ研究』（21(1)p.40-52）

[7] 国立教育政策研究所（2017）「非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書」

[8] Lee,S.Y., & Ohtake,F(2014) The Effects of Personality Traits and Behavioral Characteristics on Schooling, Earnings, and Career Promotion, RIETI DP, 14-E-023

か。変化をしているとしたら、「高くなる」変化なのか、「低くなる」変化なのか。また、5つの指標がいずれも同じような変化の特徴をみせるのであろうか。

本稿では、「非認知能力」に対する教育施策による介入の可能性等を探るためにも、上記のような関心から、「ビッグファイブ」に関する回答結果の推移・変化に着目した集計・分析を行った。

## 2. 分析結果

### (1)「ビッグファイブ」の各指標に関する各調査回の回答

#### ①「ビッグファイブ」の各指標について

「ビッグファイブ」の 5 つの指標は、小塩・阿部・カトローニ(2012)にならい、調査票において設定されている計 10 の項目を 2 項目ずつ単純加算(ただし、うち 1 項目は逆転項目として処理)して作成した(各指標とも最小値 2、最大値 14)。なお、「神経症傾向」は、値が高いほうが神経性傾向が高いことを意味する。

図表 2-A-1 「ビッグファイブ」に関する調査項目と 5 つの指標

| 指標 | 調査項目 |
|---|---|
| 外向性 | 活発で、外向的だと思う |
| | ひかえめで、おとなしいと思う(逆転項目) |
| 協調性 | 他人に不満をもち、もめごとを起こしやすいと思う(逆転項目) |
| | 人に気をつかう、やさしい人間だと思う |
| 勤勉性 | しっかりしていて、自分に厳しいと思う |
| | だらしなく、うっかりしていると思う(逆転項目) |
| 神経症傾向 | 心配性で、うろたえやすいと思う |
| | 冷静で、気分が安定していると思う(逆転項目) |
| 開放性 | 新しいことが好きで、変わった考えをもつと思う |
| | 発想力に欠けた、平凡な人間だと思う(逆転項目) |

第 16 回調査での回答の結果は、図表 2-A-2 のようになっている。なお、ここでの集計は第 16 回調査時点で、「ビッグファイブ」の 5 つの指標のいずれにも回答があった者に限った集計結果である。

全体の平均値としてみると、「協調性」が約 9.6 と値として高く、「勤勉性」が約 6.7 と低い値となっている。ただし、このような結果が、必ずしも性格特性として「協調性」が優位であるということを意味するわけ

ではない点には留意が必要である。

図表 2-A-2 第 16 回調査での「ビッグファイブ」の 5 つの指標

| | 外向性<br>（n=26,257） | 協調性<br>（n=26,257） | 勤勉性<br>（n=26,257） | 神経症傾向<br>（n=26,257） | 開放性<br>（n=26,257） |
|---|---|---|---|---|---|
| 平均値 | 8.84 | 9.58 | 6.66 | 8.34 | 8.17 |
| 標準偏差 | 2.89 | 2.22 | 2.33 | 2.30 | 2.23 |

②各調査回での回答変化

続いて、第 16 回・第 17 回・第 18 回・第 21 回の各調査回で、5 つの指標の値がどのような結果であったのかを示したものが図表 2-A-3である。なお、ここでの集計は、各調査回において、「ビッグファイブ」の 5 つの指標のいずれにも回答があった者に限った集計結果である。

単純に平均値を見比べてわかることとして、調査回を経るごとに、「外向性」については値が低くなっており、「協調性」については値が高くなっている。「勤勉性」や「神経症傾向」についても値が若干高くなっているが、数値の変動幅としては、「外向性」や「協調性」に関する変化よりもその幅は小さい[9]。「開放性」については、変化の方向性が明確ではないことがうかがえる。

図表 2-A-3 第 16 回・第 17 回・第 18 回・第 21 回調査時点での「ビッグファイブ」の 5 つの指標

| | 外向性<br>（n=16,313） | 協調性<br>（n=16,313） | 勤勉性<br>（n=16,313） | 神経症傾向<br>（n=16,313） | 開放性<br>（n=16,313） |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 16 回平均値 | 8.75 | 9.63 | 6.68 | 8.37 | 8.15 |
| 第 17 回平均値 | 8.58 | 9.62 | 6.61 | 8.45 | 8.09 |
| 第 18 回平均値 | 8.52 | 9.85 | 6.74 | 8.44 | 8.25 |
| 第 21 回平均値 | 8.10 | 10.27 | 6.80 | 8.54 | 8.17 |

第 16 回から第 21 回調査にかけての変化量（値の差分）をとった値、及び値の変化について検定[10]を行った結果が図表 2-A-4 である。

検定の結果として、「外向性」、「協調性」、「勤勉性」、「神経症傾向」については統計的に有意な変化で

[9] ただし、1 単位の持つ意味が指標間によって異なるため、解釈には留意が必要である。
[10] 対応のあるサンプルの t 検定。

あり、「開放性」については有意なものではなかった。

このような結果から、第 16 回・第 17 回・第 18 回・第 21 回の各調査回からの変化の状況として、「ビッグファイブ」の 5 つの指標について、「開放性」以外の 4 つの指標については変化の傾向がみられること、また、変化の方向性として、「外向性」に関しては「低くなる」変化、「協調性」、「勤勉性」、「神経症傾向」に関しては「高くなる」変化が確認されることが明らかになった。

図表 2-A-4 第 16 回から第 21 回調査にかけての「ビッグファイブ」の 5 つの指標の変化量

| | 外向性<br>（n=16,313） | 協調性<br>（n=16,313） | 勤勉性<br>（n=16,313） | 神経症傾向<br>（n=16,313） | 開放性<br>（n=16,313） |
|---|---|---|---|---|---|
| 変化量 | -0.65 | 0.63 | 0.12 | 0.18 | 0.02 |
| 検定結果 | p<0.001 | p<0.001 | p<0.001 | p<0.001 | ns |

## （2）他変数との関連性

次に、「ビッグファイブ」の 5 つの指標にみられた、調査時点間の変化（あるいは変化しないこと）が、調査対象者の属性等によって異なる様相をみせるのか否かについて検討を行った。検討にあたって、ここでは、「性別」、「保護者の学歴別」、「進路の状況別」の集計を行った[11]。

### ①性別の集計

第 16 回・第 17 回・第 18 回・第 21 回の各調査回の 5 つの指標の値を性別に集計すると（図表 2-A-5）、まず、一部の指標については値の水準が男性と女性とで異なっており、「外向性」と「神経症傾向」については、男性よりも女性のほうが 0.5 ポイント程度値の水準が高いことがうかがえる。「開放性」については、女性よりも男性のほうが値の水準が 0.2～0.3 ポイント程度高い傾向にあることがわかる。

その上で各指標の変化の状況についてみると、「外向性」については調査回を経るごとに値が低くなり、「協調性」については値が高くなる傾向であるということは性別に共通してみられる。また、「勤勉性」や「神経症傾向」が高くなる変化の幅は男性よりも女性において若干大きいこともみてとれる。

[11] 以降の集計結果については、煩雑になることから、変化の度合いについての検定は行わず、単に数値上にみられる変化について言及する形としている。

図表 2-A-5 性別、各調査時点での「ビッグファイブ」の 5 つの指標

| 男性 | 外向性（n=7,942） | 協調性（n=7,942） | 勤勉性（n=7,942） | 神経症傾向（n=7,942） | 開放性（n=7,942） |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 16 回平均値 | 8.55 | 9.64 | 6.76 | 8.11 | 8.22 |
| 第 17 回平均値 | 8.35 | 9.65 | 6.71 | 8.17 | 8.20 |
| 第 18 回平均値 | 8.28 | 9.82 | 6.81 | 8.16 | 8.38 |
| 第 21 回平均値 | 7.94 | 10.16 | 6.79 | 8.20 | 8.33 |
| **女性** | **外向性（n=8,371）** | **協調性（n=8,371）** | **勤勉性（n=8,371）** | **神経症傾向（n=8,371）** | **開放性（n=8,371）** |
| 第 16 回平均値 | 8.94 | 9.63 | 6.60 | 8.61 | 8.08 |
| 第 17 回平均値 | 8.81 | 9.60 | 6.52 | 8.70 | 7.98 |
| 第 18 回平均値 | 8.75 | 9.88 | 6.67 | 8.70 | 8.13 |
| 第 21 回平均値 | 8.25 | 10.36 | 6.80 | 8.87 | 8.02 |

②保護者の学歴別の集計

同様の集計を保護者の学歴別[12]に行うと（図表 2-A-6）、まず、各指標の値の水準について、「外向性」や「開放性」については「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」である場合に若干値が高く、他方で「神経症傾向」については値が低い傾向にあることがうかがえる。第 21 回調査に限ってみると、「協調性」についても、「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」である場合に若干値が高くなっている。

その上で、変化の傾向としては、「外向性」については調査回を経るごとに値が低くなり、「協調性」については値が高くなる傾向であるということは保護者の学歴別に共通してみられる。また、「神経症傾向」が高くなる変化の幅は「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」である場合には若干小さいこともみてとれる。

[12] 父母の学歴は 21 世紀出生児縦断調査では第 2 回調査においてのみ情報が得られている。本稿では、父親・母親に関する回答を基に、「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」、「母・父いずれかが大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」、「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）以外を卒業」の 3 分類で整理して集計・分析に用いた。なお、父親・母親の学歴について無回答（不詳）であった場合には、「大学等（短大・高専、大学、大学院）以外を卒業」とみなして分類した。

図表 2-A-6 保護者の学歴別、各調査時点での「ビッグファイブ」の 5 つの指標

| ともに大学等を卒業 | 外向性（n=4,921） | 協調性（n=4,921） | 勤勉性（n=4,921） | 神経症傾向（n=4,921） | 開放性（n=4,921） |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 16 回平均値 | 8.84 | 9.60 | 6.63 | 8.32 | 8.27 |
| 第 17 回平均値 | 8.68 | 9.63 | 6.59 | 8.39 | 8.20 |
| 第 18 回平均値 | 8.61 | 9.86 | 6.68 | 8.37 | 8.40 |
| 第 21 回平均値 | 8.16 | 10.36 | 6.83 | 8.44 | 8.28 |
| いずれかが大学等を卒業 | 外向性（n=4,870） | 協調性（n=4,870） | 勤勉性（n=4,870） | 神経症傾向（n=4,870） | 開放性（n=4,870） |
| 第 16 回平均値 | 8.73 | 9.69 | 6.67 | 8.36 | 8.15 |
| 第 17 回平均値 | 8.59 | 9.60 | 6.59 | 8.46 | 8.06 |
| 第 18 回平均値 | 8.49 | 9.85 | 6.72 | 8.43 | 8.19 |
| 第 21 回平均値 | 8.06 | 10.28 | 6.80 | 8.56 | 8.12 |
| ともに大学等以外を卒業 | 外向性（n=6,522） | 協調性（n=6,522） | 勤勉性（n=6,522） | 神経症傾向（n=6,522） | 開放性（n=6,522） |
| 第 16 回平均値 | 8.69 | 9.62 | 6.71 | 8.41 | 8.06 |
| 第 17 回平均値 | 8.51 | 9.64 | 6.64 | 8.48 | 8.03 |
| 第 18 回平均値 | 8.48 | 9.83 | 6.79 | 8.50 | 8.19 |
| 第 21 回平均値 | 8.08 | 10.18 | 6.77 | 8.62 | 8.13 |

③進路の状況別の集計

最後に、進路の状況別[13]に集計を行った（図表 2-A-7）。第 21 回調査時点での進路が「その他」の場合には、「外向性」、「協調性」、「勤勉性」の値の水準が低く、「神経症傾向」の値の水準が高くなっている。また、「外向性」について、「就業」の者に比べ「在学」の者の値のほうが若干高くなっている。

変化の傾向としては、「外向性」については調査回を経るごとに値が低くなり、「協調性」については値が高くなる傾向であるということは進路の状況別に共通してみられる。また、「協調性」に関しては、高くなる変化の幅は「在学」である場合に大きいこともみてとれる。「神経症傾向」が高くなる変化の幅は「在学」で

[13] 第 21 回調査時点で把握される現在の状況を基に、「在学（「主に通学している（通学していて、働いていない）」、「通学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている」、「通学しながら、就業（常勤の仕事）をしている」）」、「就業（「就業（常勤の仕事）をしている」、「パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている」）」、「その他（「就業していない」、「公共職業能力開発施設等で訓練している」、「その他」）」の 3 分類で整理して集計・分析に用いた。第 21 回調査時点での情報を基に判別をしているため、例えば高校卒業後に短期大学に進学し、その後第 21 回時点では就職をしている場合には、ここでは「就業」の分類に含まれる。なお、現在の状況について無回答（不詳）であった場合には、集計の対象外とした。

ある場合には若干小さいこともみてとれる。

図表 2-A-7 進路の状況別、各調査時点での「ビッグファイブ」の 5 つの指標

| 在学 | 外向性<br>（n=11,512） | 協調性<br>（n=11,512） | 勤勉性<br>（n=11,512） | 神経症傾向<br>（n=11,512） | 開放性<br>（n=11,512） |
|---|---|---|---|---|---|
| 第 16 回平均値 | 8.85 | 9.64 | 6.70 | 8.37 | 8.17 |
| 第 17 回平均値 | 8.67 | 9.65 | 6.63 | 8.42 | 8.09 |
| 第 18 回平均値 | 8.58 | 9.89 | 6.73 | 8.39 | 8.29 |
| 第 21 回平均値 | 8.16 | 10.39 | 6.83 | 8.46 | 8.21 |
| 就業 | 外向性<br>（n=4,202） | 協調性<br>（n=4,202） | 勤勉性<br>（n=4,202） | 神経症傾向<br>（n=4,202） | 開放性<br>（n=4,202） |
| 第 16 回平均値 | 8.62 | 9.66 | 6.67 | 8.35 | 8.08 |
| 第 17 回平均値 | 8.47 | 9.58 | 6.60 | 8.45 | 8.06 |
| 第 18 回平均値 | 8.47 | 9.79 | 6.79 | 8.51 | 8.17 |
| 第 21 回平均値 | 8.08 | 10.01 | 6.79 | 8.65 | 8.06 |
| その他 | 外向性<br>（n=572） | 協調性<br>（n=572） | 勤勉性<br>（n=572） | 神経症傾向<br>（n=572） | 開放性<br>（n=572） |
| 第 16 回平均値 | 7.82 | 9.30 | 6.25 | 8.64 | 8.14 |
| 第 17 回平均値 | 7.69 | 9.34 | 6.23 | 8.93 | 8.10 |
| 第 18 回平均値 | 7.64 | 9.46 | 6.35 | 8.92 | 8.12 |
| 第 21 回平均値 | 6.93 | 9.56 | 6.22 | 9.44 | 8.19 |

## 3. 小括

以上のように、本稿では、「ビッグファイブ」に関する項目・指標の回答結果の推移・変化に着目した集計・分析を行った。

第 16 回・第 17 回・第 18 回・第 21 回の各調査回からの変化の状況として、「ビッグファイブ」の 5 つの指標について、「開放性」以外の 4 つの指標については変化の傾向がみられること、また、変化の方向性として、「外向性」に関しては「低くなる」変化、「協調性」、「勤勉性」、「神経症傾向」に関しては「高くなる」変化が確認されることが明らかになった。

また、「性別」、「保護者の学歴別」、「進路の状況別」に行った集計からは、指標によってはこれらの属性・状況等の別によって値の水準自体が異なることが明らかになった。また、一部の指標については、第 16 回調査から第 21 回調査にかけてこれらの属性・状況等の別によって若干違いがある指標があるのではないかということもうかがえた。

これらのように、「性格特性」については、成長の過程において変化がみられる内容もあること、必ずしも「高くなる」変化ばかりとは限らないこと、個人の属性や社会経済的背景、あるいはライフイベント等の違いによってその変化の状況も異なりうることを示唆する結果が得られた。

## B 読書習慣（読書冊数）に関する集計・分析

### 1. 分析の背景・目的

教育振興基本計画では、「目標2 豊かな心の育成」に関して、「読書活動の充実」が挙げられている。また、その中で、「不読率」の低減に向けて子供の読書活動を推進すること、電子書籍の活用等を推進することなどが示されている。

「不読率」は、「1か月に本を1冊も読まない子どもの割合」[14]を意味する指標であり、その値は学校段階が上がるにつれて高くなること、特に高校段階において高くなることが明らかになっている[15]。他方で、読書活動は子供の学力水準とも関連性があることが示されており[16]、体験活動と連動する側面もあるとされている[17]。子供の成長過程において、特定の知識の取得という点だけでなく、「豊かな心の育成」という観点から、読書は重要なものであると考えられる。

ただし、子供が本を読む／読まないということの背景には、就学前段階での読み聞かせの実施が影響しているということが指摘されており[18]、平成 13 年児縦断調査のデータを使った研究として、保護者の読書量が子供の読書量と関連しているということも示されている（松岡・中室・乾（2014）[19]）。また、同じ親子を 7 年間追跡したデータの分析により、小学生の 1 年生段階で読書習慣を身につけている子供は、中学生段階でも相対的に高い読書量を維持するという結果も示されている（ベネッセ教育総合研究所（2023）[20]）。これらのように、読書という行動の背景要因として、幼少期における習慣や、家庭・保護者の影響が大きいことが明らかになっている。

ただし、高校生段階の不読には、背景として高校生活の中で「時間がないこと」が大きく影響していると考えられ（浜銀総合研究所（2015）[21]）、成長過程の中で「読まなくなる」（あるいは「読むようになる」）ことには、家庭・保護者からの影響だけでなく、その時々の環境的な要因・社会的な要因が影響している可能性が考えられる。

平成 13 年児縦断調査では、第 7 回・第 8 回・第 10 回の調査の保護者調査において、子供の読書習慣（1 か月間に読んだ本の冊数）に関する回答を得ており、また、第 21 回調査において、調査対象本人か

---

[14] 文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（令和 5 年 3 月）。なお、もともとは公益社団法人全国学校図書館協議会「学校読書調査」において、「5月1か月間に読んだ本の冊数が0冊」の児童生徒の割合を指す。
[15] 公益社団法人全国学校図書館協議会「学校読書調査」
[16] 静岡大学「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究 C. 読書活動と学力・学習状況の関係に関する調査研究分析報告書」（平成 21 年度文部科学省委託調査研究）
[17] 文部科学省「教育振興基本計画」（令和5年6月16日閣議決定）
[18] 文部科学省「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（令和 5 年 3 月）
[19] 松岡亮二・中室牧子・乾友彦（2014）「縦断データを用いた文化資本相続過程の実証的検討」、『教育社会学研究』95,p.89-110）
[20] ベネッセ教育総合研究所「子どもの読書行動の実態－調査結果からわかること―」（2023 年 10 月 19 日）
[21] 浜銀総合研究所「高校生の読書に関する意識等調査報告書」（平成 27 年 3 月）

ら、同様の情報を得るための項目設定がされている。これらのデータを用いて、本稿では、小学生段階の読書習慣（読書冊数）と、成人期の読書習慣（読書冊数）とがどのような関係にあるのかに着目した集計・分析を行った。

## 2. 分析結果

### (1)読書冊数に関する各調査回の回答

#### ①第 7 回、第 8 回、第 21 回調査の回答状況

第 7 回・第 8 回の各調査における、子供の 1 か月間の読書冊数に関する回答分布は図表 2-B-1 のようになっている[22]。また、第 21 回調査は「紙の書籍」と「電子書籍」に分けて調査がされており、それぞれの回答結果、及び合算した形での冊数の回答分布は図表 2-B-2 のようになっている[23]。なお、ここで示しているのは、各調査回のいずれの項目にも回答があった者に限った集計結果である。

まず、第 7 回・第 8 回調査の結果からは、「読まない」の回答割合（＝不読率）は、いずれも約 6%という結果となっている。全体の傾向としては、第 7 回調査から第 8 回調査にかけて、若干「読まなくなる」方向性での変化がみられるが、それでも 4 冊以上読んでいる者が約半数となっている。

他方で第 21 回調査の結果において、「紙・電子の合算」の冊数でみると、「0 冊」の割合（＝不読率）は 54.9%である。「1 冊」までの回答を含めると該当する者の割合は約 7 割となっており、全体としては本をあまり読まない者が多いことがわかる。

なお、電子書籍を 1 か月に 1 冊以上読んでいる者は約 22%である。別途集計を行うと、紙の書籍では 0 冊だが電子書籍では 1 冊以上読んでいる者が全体の約 7%いるという結果になっている。

---

[22] 保護者による回答で、「雑誌・マンガ」以外の、「本（小説、絵本など）」の読書冊数について、6 つの選択肢から回答を得たもの。なお、第 10 回調査の結果については、一部のデータに不備があると考えられたことから、本稿では第 7 回・第 8 回の調査結果を参照した。

[23] 調査対象本人による回答で、紙の書籍・電子書籍それぞれ、「雑誌・マンガ」以外の、「本（文庫・単行本など）」の読書冊数について、5 つの選択肢（第 7 回・第 8 回調査とは選択肢が異なる）から回答を得たもの。合算した形での冊数は、「2, 3 冊」の選択肢の回答は「2.5 冊」、「4, 5 冊」は「4.5 冊」として考え、再集計・再分類を行ったもの。なお、再集計・再分類を行う際には、「3.5 冊」は「2, 3 冊」の分類として、「5.5 冊」は「4, 5 冊」の分類として集計を行った。

図表 2-B-1　第 7 回･第 8 回調査の 1 か月間の読書冊数

| | 第 7 回<br>（n=19,740） | 第 8 回<br>（n=19,740） |
|---|---|---|
| 読まない | 5.9% | 6.4% |
| 1 冊 | 11.1% | 13.5% |
| 2, 3 冊 | 28.5% | 30.5% |
| 4 冊～7 冊 | 27.4% | 24.8% |
| 8 冊～11 冊 | 9.7% | 9.3% |
| 12 冊以上 | 17.3% | 15.6% |

図表 2-B-2　第 21 回調査の 1 か月間の読書冊数

| | 紙の書籍<br>（n=19,740） | 電子書籍<br>（n=19,740） | 紙･電子の合算<br>（n=19,740） |
|---|---|---|---|
| 0 冊 | 62.3% | 78.1% | 54.9% |
| 1 冊 | 19.7% | 9.3% | 16.3% |
| 2, 3 冊 | 12.2% | 6.6% | 16.4% |
| 4, 5 冊 | 2.7% | 1.8% | 5.0% |
| 6 冊以上 | 3.1% | 4.3% | 7.3% |

②第 7 回調査と第 21 回調査の関係

全体の状況として、小学生低学年においては 1 か月間に本を 1 冊以上読む（家庭として読ませている）者が大半（図表2－B-1）だが、他方で成人段階では 1 冊も読まない者が半数以上（図表 2-B-2）という結果である。これらの両時点の読書冊数の回答には関連性がみられるのかについて、第 7 回調査と第 21 回調査の結果のクロス集計を行ったものが図表 2-B-3 である。なお、第 21 回調査の結果は「紙･電子の合算」によるものである。

結果として、第 7 回調査と第 21 回調査の回答の間には有意な関連性があることが明らかになった。第 21 回調査で「0 冊」と回答された割合に着目すると、第 7 回調査時点で「読まない」との回答であった場合には 64.2%、「1 冊」であった場合には 56.8%と、10 ポイント近くの違いがある。同様に、第 7 回調査時点で「12 冊以上」であった場合に、第 21 回調査で「0 冊」の回答は 49.4%であり、小学生低学年時により多くの本を読むほど、成人期に不読である割合が低いという傾向がみられる。

図表 2-B-3 第 7 回調査と第 21 回調査の読書冊数のクロス集計

| | 第 21 回(紙・電子の合算の冊数) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 0 冊 | 1 冊 | 2,3 冊 | 4, 5冊 | 6 冊以上 | 合計 |
| 第 7 回:読まない (n=1,174) | 64.2% | 14.0% | 14.0% | 3.2% | 4.6% | 100.0% |
| 第 7 回:1 冊 (n=2,199) | 56.8% | 14.6% | 16.5% | 5.0% | 7.0% | 100.0% |
| 第 7 回:2, 3 冊 (n=5,625) | 57.7% | 15.8% | 15.6% | 4.6% | 6.3% | 100.0% |
| 第 7 回:4 冊～7 冊 (n=5,413) | 54.5% | 16.5% | 16.5% | 5.2% | 7.3% | 100.0% |
| 第 7 回:8 冊～11 冊 (n=1,907) | 49.8% | 18.6% | 17.7% | 5.1% | 8.8% | 100.0% |
| 第 7 回:12 冊以上 (n=3,422) | 49.4% | 17.4% | 17.6% | 6.2% | 9.5% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定:p<0.001

## (2)他変数との関係

上記のように、クロス集計の結果から、成人後の、第 21 回調査時点で 1 か月に 1 冊以上本を読むか、読まないかということについては、その背景として、小学生低学年時点の(あるいは、それ以前の時点から続く)読書習慣が影響している可能性があることが明らかになった。このような関連性があることは他の調査研究でも示されているところであるが、平成 13 年児縦断調査のデータにおいても関連性があることが示された。

ただし、「第 7 回調査時点では『読まない』との回答であったが、第 21 回調査では 1 冊以上本を読んでいる」という回答も一定数みられるところであり、小学生低学年時点で本を読んでいなかった場合に成人後もそのまま読まない習慣が継続するかといえば、必ずしもそういうわけではない。

そこで、次に、このような回答時点間の変化の状況について、調査対象者の属性等によって異なる様相をみせるのか否かについて検討を行った。集計は、第 7 回調査時点で「読まない」と回答した者に限定し、その後第 21 回調査時点で 1 冊以上の本を読んでいると回答する割合について、「性別」、「保護者の学歴別」、「進路の状況別」に関連性がみられるか否かについて検討した。

なお、一部集計対象件数が少なくなってしまうケースがあったことから、第 21 回調査の回答結果については、「0 冊」か「1 冊以上」かの 2 つに再分類して集計を行った。

①性別の集計

第 7 回調査時点で「読まない」と回答した者に集計の対象を限定した上で、その後第 21 回調査時点で本を 1 冊以上読んでいるか否かを性別に集計すると、1 冊以上読んでいる割合は、男性では 36.6%、女性では 34.0%で、性別による統計的に有意な差はみられなかった（図表 2-B-4）。

なお、第 7 回調査時点で「読まない」と回答があった者の内訳として、女性が 376 件であるのに対して男性が 798 件となっており、第 7 回調査時点の読書習慣に関して、性別による差異が既にある可能性があることもうかがえる。

図表 2-B-4　性別、第 7 回調査時点で「読まない」との回答であった者の第 21 回調査時点の読書冊数

| 第 7 回調査時点の回答 | 性別 | 第 21 回（紙・電子の合算の冊数） | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 0 冊 | 1 冊以上 | 合計 |
| 読まない | 男性（n=798） | 63.4% | 36.6% | 100.0% |
| | 女性（n=376） | 66.0% | 34.0% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定：p>0.05（ns）

②保護者の学歴別の集計

次に、同様の集計を保護者の学歴別に行うと、第 21 回調査時点で 1 冊以上本を読む者の割合は、「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」の場合は 44.4%、「母・父のいずれかが大学等（短大・高専、大学、大学院）を卒業」の場合には 37.0%、「母・父ともに大学等（短大・高専、大学、大学院）以外を卒業」の場合は 32.2%であった（図表 2-B-5）。カテゴリ間で最大 10 ポイント以上の差異がみられ、検定の結果は統計的に有意なものであった。

先行調査・研究を踏まえると、「保護者の学歴」については第 7 回調査時点の読書習慣に影響を及ぼしうる要因の一つであると考えられるが、それ以後の段階にも継続して影響を及ぼしうることを示す結果となっている。

図表 2-B-5 保護者の学歴別、第 7 回調査時点で「読まない」との回答であった者の第 21 回調査時点の読書冊数

| 第 7 回調査時点の回答 | 保護者の学歴 | 第 21 回(紙・電子の合算の冊数) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 0 冊 | 1 冊以上 | 合計 |
| 読まない | ともに大学等を卒業(n=205) | 55.6% | 44.4% | 100.0% |
| | いずれかが大学等を卒業(n=357) | 63.0% | 37.0% | 100.0% |
| | ともに大学等以外を卒業(n=612) | 67.8% | 32.2% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定:p<0.01

③進路の状況別の集計

最後に、進路の状況別[24]に集計を行った(図表 2-B-6)。結果は、進路の状況別に統計的に有意な差異があるというものとなっており、第 21 回調査時点で 1 冊以上本を読む者の割合は、「在学」の場合には 43.5%、「就業」の場合には 27.2%。「その他」の場合には 22.7%となっている。

性別や保護者の学歴別の要因とは異なり、進路の状況については第 7 回調査と第 21 回調査の間に起きたライフイベントの違いによる区別で集計を行ったものである。第 21 回調査の時点で高等教育機関に在学しているから本を読む習慣があるのか、本を読む習慣がよりあった者が高等教育機関に進学したのかという違いは明確にすることはできないが、いずれにしても、第 7 回調査以後に起きる進学等の行動と、読書習慣とが一定の関連性を有することがうかがえる結果となっている。

[24] 第 21 回調査時点で把握される現在の状況を基に、「在学(「主に通学している(通学していて、働いていない)」、「通学しながら、パート・アルバイト(非常勤の仕事)をしている」、「通学しながら、就業(常勤の仕事)をしている」)」、「就業(「就業(常勤の仕事)をしている」、「パート・アルバイト(非常勤の仕事)をしている」)」、「その他(「就業していない」、「公共職業能力開発施設等で訓練している」、「その他」)」の 3 分類で整理して集計・分析に用いた。現在の状況について無回答(不詳)であった場合には、集計の対象外とした。

図表 2-B-6　進路の状況別、第 7 回調査時点で「読まない」との回答であった者の第 21 回調査時点の読書冊数

| 第 7 回調査時点の回答 | 進路の状況 | 第 21 回（紙・電子の合算の冊数） | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 0 冊 | 1 冊以上 | 合計 |
| 読まない | 在学（n=634） | 56.5% | 43.5% | 100.0% |
| | 就業（n=459） | 72.8% | 27.2% | 100.0% |
| | その他（n=75） | 77.3% | 22.7% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定：p<0.001

## 3. 小括

以上のように、本稿では、小学生段階の読書習慣（読書冊数）と、成人期の読書習慣（読書冊数）とがどのような関係にあるのかに着目した集計・分析を行った。

いくつかの先行調査・研究で既に関連する結果が示されていることではあるが、平成 13 年児縦断調査のデータにより、小学生 1 年生にあたる第 7 回調査時点に本を読んでいない場合には、成人後の第 21 回調査時点でも本を読んでいないという関連性があることが明らかになった。

他方で、「第 7 回調査時点では『読まない』との回答であったが、第 21 回調査では 1 冊以上本を読んでいる」という回答も一定数みられるところであり、小学生低学年時点で本を読んでいなかった場合に成人後もそのまま読まない習慣が継続するかといえば、必ずしもそういうわけではない。逆に、第 7 回調査時点では相対的に多くの本を読んでいても、第 21 回調査時点では 1 冊も読んでいないというケースも多くみられた。

クロス集計の結果からは、第 21 回調査時点で在学中である者のほうが、就業している者に比べて 1 か月間に本を 1 冊以上読む割合が高くなっていた。大学等の授業があるからなのか、学習する習慣との関連性が強いからなのか、それともやはり家庭・保護者の影響が強く反映されているのか、どのような関係にあるのかを明らかにすることは容易ではない。ただ、いずれにしても、成長過程の中で「読まなくなる」（あるいは「読むようになる」）ことには、家庭・保護者からの影響も含む、その時々の環境的な要因・社会的な要因が影響している可能性がある。このことを踏まえ、子供の読書活動を推進する上で効果的な方策等について検討を続けていくことが重要と考えられる。

## C 中学校卒業後の進路（中退経験を含む）に関する集計・分析

### 1. 分析の背景・目的

21 世紀出生児縦断調査では、その調査の特性上、調査対象者の就学・就業等の状況や、その変化の状況を追跡的に把握することができる。中学校卒業後、多くの者は高校に進学するが、その後、高等教育機関への進学、就業、あるいは留年など、進路は多様化していく。また、中には高校や高等教育機関に進学した後に中退を経験する者もいる。

高校や高等教育機関に進学した後の中退について、教育振興基本計画では、「目標7　多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂」に関する基本目標の一つに「高校中退者等に対する支援」が挙げられており、「中途退学を余儀なくされる状態を未然に防ぐため」の支援策が重要であるとされている。

また、「目標13　経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保」においては、「家庭の経済状況や地理的条件によらず、希望すれば誰もが質の高い教育を受けられるよう、教育費負担の軽減を図るとともに、へき地や過疎地域等における学びの支援を行う。」とされており、指標として、「経済的理由による高等学校の中退者数の減少」や「経済的理由による、大学等の中退者数の割合の減少」などが示されている。

パネル調査を用いた上で、高校や高等教育機関からの中退に着目した分析はいくつか先行研究がある（例えば片山（2008）[25]、国立教育政策研究所（2018）[26]、労働政策研究・研修機構（2015）[27]）が、平成 13 年児縦断調査のデータでは、長期的な追跡を行う調査の過程の中で、例えばどの学年段階で中退がより多く発生するのかといったことなどを、より詳細に把握することが可能である。また、奇しくも、新型コロナウイルス感染症の影響が高等教育機関からの中退にどの程度及んだ可能性があるのかを検討できるタイミングのデータにもなっている。このほか、平成 13 年児縦断調査のデータに関して、そもそも、中学校卒業後、どのような形で進路分化していくのかといった基礎的な情報を整理することも重要である。

これらのことを踏まえ、本稿では、調査対象者の中学校卒業後の進路の状況に着目し、各段階での中退経験を含む状況について集計・分析を行った。

---

[25] 片山悠樹（2008）「高校中退と新規高卒労働市場　高校生のフリーター容認意識との関連から」、『教育社会学研究』83,p.23-43）

[26] 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター「「高校中退調査」報告書～「中退者」と「登校者」との比較から見えてきたもの～」（令和元年12月（一部改訂））

[27] 労働政策研究・研修機構「大学等中退者の就労と意識に関する研究」、JILPT 調査シリーズ No. 138

## 2. 分析結果

### (1)各調査回答時点の就学・就業等の状況

#### ①全体の回答状況

中学校卒業後の第 16 回調査以降、第 21 回調査までの間の、各調査時点での就学・就業等の状況は図表 2-C-1 のようになっている。なお、ここで示しているのは、各調査回のいずれの項目にも回答があった者に限った集計結果である。

図表 2-C-1 第 16 回～第 21 回調査の各調査回の回答時点の現在の状況

| | 各調査回の回答時点の現在の状況(n=16,271) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第 16 回 | 第 17 回 | 第 18 回 | 第 19 回 | 第 20 回 | 第 21 回 |
| 主に通学している(通学していて、働いていない) | 91.3% | 86.7% | 81.0% | 29.4% | 23.4% | 17.6% |
| 通学しながら、パート・アルバイト(非常勤の仕事)をしている | 8.0% | 12.5% | 17.3% | 47.8% | 58.2% | 53.0% |
| 通学しながら、就業(常勤の仕事)をしている | 0.3% | 0.3% | 0.5% | 0.4% | 0.4% | 0.4% |
| 就業(常勤の仕事)をしている | 0.0% | 0.1% | 0.1% | 11.4% | 12.0% | 21.2% |
| パート・アルバイト(非常勤の仕事)をしている | 0.0% | 0.2% | 0.3% | 2.1% | 2.8% | 4.4% |
| 就業していない | 0.1% | 0.2% | 0.3% | 1.4% | 1.6% | 1.8% |
| 公共職業能力開発施設等で訓練している | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 0.2% | 0.1% |
| その他 | 0.2% | 0.2% | 0.5% | 7.3% | 1.5% | 1.4% |

まず、第 16 回調査の結果をみると、「主に通学している（通学していて、働いていない）」[28]が 91.3%となっている。「通学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている」は 8.0%、「通学しながら、就業（常勤の仕事）をしている」は 0.3%であり、これらもそれぞれ高校等に在学している者と考えられることから、あわせて調査対象者の 99.6%は第 16 回調査時点で在学している状況にある。

これらの 8 つの選択肢のうち、上から 3 つの選択肢に該当する場合を「在学中」である者と考えると、第 17 回調査時点では 99.5%、第 18 回調査時点では 98.8%となる。いずれにおいても高校等に在学している者が大多数であるが、調査回を経るごとに（学年が上がるごとに）、「在学中」である者の割合は若干減少する傾向にあり、また、第 16 回調査から第 17 回調査にかけての変化に比べて、第 17 回調査から第 18 回調査にかけての変化のほうが大きい（減少しているポイント数が大きい）ことがうかがえる。

次に、第 19 回調査以降の結果に着目すると、まず、第 19 回調査では「その他」の割合が 7.3%と、他の調査回に比べて高くなっている。これは、高校卒業後に浪人して高等教育機関への進学を目指している者が一定割合でいることを示していると解釈できる。「在学中」である者の割合は、第 19 回調査時点では 77.6%、第 20 回調査時点では 82.0%、第 21 回調査時点では 71.0%となっている。上記の通り、浪人した後に高等教育機関に進学する者がいるため、「在学中」である者の割合は第 19 回調査時点よりも第 20 回調査時点で高くなる。他方で、短期大学等を卒業して就職する者が出てくるため、第 21 回調査時点では第 19 回調査時点と比べて約 10 ポイントその値が減少するという変化となっている。

②「中退」の発生状況

上述のように、第 16 回～第 18 回調査の期間は多くの者が高校等に在学している段階であるが、この間に「在学中」である者の割合は若干減少する傾向にあり、中退等が発生していることがうかがえる。平成 13 年児縦断調査では、第 16 回～第 18 回調査の各調査回において、「主に通学している（通学していて、働いていない）」と、「通学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている」の 2 つの選択肢以外の状況に該当する者を対象とする調査項目として、調査回答の年度中に学校を辞めた経験があるかを尋ねている[29]が、この項目への回答状況をみると、図表 2-C-2 のようになっている。なお、「累計」の欄は、第 16 回～第 18 回調査のいずれかの回で学校を辞めた経験があると回答した者の割合を集計したものである。

調査項目の設定の仕方の限界・制約として、調査回答の時点の前の年度の後半のタイミングで学校を

[28] 第 16 回調査では「主に通学している」のワーディングで調査をしており、それ以降は「通学していて、働いていない」の選択肢での調査となっている。なお、第 16 回調査は若干調査項目の設定の仕方が第 17 回調査以降とは異なるが、情報として得られている内容としては同一のものと考えられる。

[29] 「通学しながら、就業（常勤の仕事）をしている」と回答した者は、この項目に回答する対象に含まれる。

辞めたことがある場合にうまく情報が把握できていない可能性があるという点や、当該設問に無回答であって状況が判別できない者がいるという点には留意が必要であるが、この結果から、調査対象のうち少なくとも 0.6%の者[30]が高校等からの中退を経験していることや、調査回を経るごとに（学年が上がるごとに）、その年度の間に中退を経験する者の割合が高くなる傾向にあることを把握することができる。

図表 2-C-2 第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の「学校を辞めた」経験の有無

| | 調査回答の年度になって以降に学校を辞めた経験の有無（n=16,271） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 第 16 回 | 第 17 回 | 第 18 回 | 累計 |
| 学校を辞めた経験がある | 0.1%<br>（21 件） | 0.3%<br>（44 件） | 0.4%<br>（58 件） | 0.6%<br>（100件） |
| 辞めた経験がない、不明 | 99.9% | 99.7% | 99.6% | 99.4% |

※割合は、継続的に在学中の者を含み集計対象者全体で算出したもの

※当該項目に無回答であった場合は「辞めた経験がない、不明」に含めて集計をしているため、「学校を辞めた経験がある」の割合・該当件数は、実態よりも過少になっている可能性がある。

さらに、平成 13 年児縦断調査では、第 21 回調査において、やはり「主に通学している（通学していて、働いていない）」と、「通学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている」の 2 つの選択肢以外の状況に該当する者を対象とする調査項目として、それまでを振り返る形で、中退した学校があるか、また、ある場合にはどの学校段階で中退を経験したかを尋ねる設問が設定されている。

この項目への回答状況は図表 2-C-3 のようになっている。実態よりも過少になっている可能性がある点には留意が必要であるが、いずれかの段階で中退を経験したと回答した割合は、調査対象のうち 2.9%という結果であった。また、中退を経験した学校段階としては、「高等学校」が全体のうち 1.0%（164 件）、「大学」が 0.8%（133 件）、「専修学校・各種学校」が 0.9%（147 件）となっており、それぞれ同程度の規模で発生していることが明らかになった。

[30] 「累計」として集計した結果。なお、複数の調査回で、調査回答の年度中に学校を辞めた経験があると回答している者がいる。

図表 2-C-3 第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無、及び中退した学校の種類

| | 有無<br>(n=16,271) | 中退を経験した学校段階(複数選択) | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 高等学校 | 特別支援学校 | 大学 | 短期大学 | 高等専門学校 | 専修学校・各種学校 | その他(外国の学校など) |
| 中退を経験した学校がある | 2.9%<br>(471 件) | 1.0%<br>(164 件) | 0.0%<br>(5 件) | 0.8%<br>(133 件) | 0.1%<br>(21 件) | 0.1%<br>(9 件) | 0.9%<br>(147 件) | 0.0%<br>(5 件) |
| 中退を経験した学校がない、不明 | 97.1% | | | | | | | |

※「有無」の割合、「中退を経験した学校段階(複数選択)」の割合ともに、継続的に在学中の者を含み集計対象者全体で算出したもの。

※「高等学校」の分類には、中等教育学校後期課程を含む。

※第 21 回調査時点で在学中の場合や、当該項目に無回答であった場合は「中退を経験した学校がない、不明」に含めて集計をしているため、「中退を経験した学校がある」の割合・該当件数は、実態よりも過少になっている可能性がある。

③新型コロナウイルス感染症と「中退」との関連性

このほか、21 世紀出生児縦断調査では、第 20 回調査と第 21 回調査において、いくつかの観点から、新型コロナウイルスの影響が生活等にどのような形で及んだのかを尋ねる項目が設定されている。

このうち、調査対象が限定的ではあるが、各調査回で、「就業していない」、「公共職業能力開発施設等で訓練している」、「その他」のいずれかに該当する者を対象に、「令和2年(2020 年)4月以降に、新型コロナウイルスの影響が原因となって以下のいずれかのことが生じたことはありましたか」という項目が設定されている。選択肢は「学校をやめた」、「仕事をやめた」、「(学校をやめた、仕事をやめたの)両方」、「特になし」であり、このうち「学校をやめた」と「両方」のいずれかに該当する者について集計を行うと、その結果は図表 2-C-4 になった。なお、「累計」の欄は、第 20 回・第 21 回調査のいずれかの回で新型コロナウイルスの影響が原因となって学校をやめたと回答した者の割合を集計したものである。

この結果から、調査対象のうち少なくとも 0.3%の者が新型コロナウイルスの影響が原因となって学校を辞めたという状況にある。また、高校段階の中退を含み、調査対象のうち中退を経験した者が全体として 500 件程度(図表 2-C-3、集計上は 471 件)であることを踏まえれば、中退発生のうち少なくとも 1 割以上が新型コロナウイルスの影響と認識されるものであると考えられる。なお、実際には、高等学校からの中退に関してはタイミングとして新型コロナウイルスの影響があった者はごく限定的であると考えられることから、大学や短期大学、専修学校・各種学校からの中退件数が分母であると考えれば、その割合は

より高いものであると推計される。

図表 2-C-4 第 20 回・第21回調査で新型コロナウイルスの影響で学校をやめた経験の有無

| | 新型コロナウイルスの影響で学校をやめた経験の有無（n=16,271） | | |
|---|---|---|---|
| | 第 20 回 | 第 21 回 | 累計 |
| 新型コロナウイルスの影響が原因で学校をやめた | 0.2%（28 件） | 0.2%（26 件） | 0.3%（50 件） |
| 非該当、不明 | 99.8% | 99.8% | 99.7% |

※割合は、継続的に在学中の者を含み集計対象者全体で算出したもの

※調査回答時点で就学中・就業中の場合や、当該項目に無回答であった場合は「非該当、不明」に含めて集計をしているため、「新型コロナウイルスの影響が原因で学校をやめた」の割合・該当件数は、実態よりも過少になっている可能性がある。

## （2）中退経験と他変数との関係

上記のように、全体としての割合からすれば高くはないものの、高等学校を始めとした各学校段階において、一定の割合で学校を中退する者が発生している。

次に、これらの中退の発生割合が、調査対象者の属性等によって異なっているものであるのか否かについて検討を行った。検討にあたって、ここでは、「性別」、「保護者の学歴別」、「進学した高等学校の種類別」の集計を行った。

### ①性別の集計

性別と中退経験の発生割合との関係について、「第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の『学校を辞めた』経験の有無（累計）」と、「第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無」の両方から把握をした。

結果は図表 2-C-5、図表 2-C-6 のようになっており、「第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の『学校を辞めた』経験の有無（累計）」に関する集計結果としては、男性での中退発生割合は 0.7%、女性での中退発生割合は 0.6%で、統計的に有意な差はみられなかった。「第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無」に関する集計結果としては、中退発生割合は男性・女性ともに 2.9%であり、やはり性別による有意な差異はみられなかった。

図表 2-C-5 性別、第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の「学校を辞めた」経験の有無（累計）

| | 学校を辞めた経験がある | 辞めた経験がない、不明 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 男性(n=7, 924) | 0.7% | 99.3% | 100.0% |
| 女性(n=8, 347) | 0.6% | 99.4% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定:p>0.05 （ns）

図表 2-C-6 性別、第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無

| | 中退を経験した学校がある | 中退を経験した学校がない、不明 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 男性(n=7, 924) | 2.9% | 97.1% | 100.0% |
| 女性(n=8, 347) | 2.9% | 97.1% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定:p>0.05 (ns)

②保護者の学歴別の集計

次に、同様の集計を保護者の学歴別に行うと、「第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の『学校を辞めた』経験の有無（累計）」に関する集計結果としては、「ともに大学等を卒業」または「いずれかが大学等を卒業」である場合の中退発生率は 0.4%であるのに対して、「ともに大学等以外を卒業」の場合には 1.0%となっており、統計的に有意な差があるという結果であった（図表 2-C-7）。

また、「第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無」に関する集計結果についても、「ともに大学等を卒業」の場合の中退発生率は 1.4%、「いずれかが大学等を卒業」の中退発生率は 2.8%、「ともに大学等以外を卒業」の場合には 4.1%となっており、やはり統計的に有意な差があるという結果であった（図表 2-C-8）。

保護者の学歴は直接的に所得水準の違いを捉えたものではないが、このような違いがみられることは、教育振興基本計画でも課題とされているように、「経済的理由による中退」が一部発生していることを示唆するものであると考えられる。

図表 2-C-7 保護者の学歴別、第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の「学校を辞めた」経験の有無（累計）

| | 学校を辞めた経験がある | 辞めた経験がない、不明 | 合計 |
|---|---|---|---|
| ともに大学等を卒業（n=4,946） | 0.4% | 99.6% | 100.0% |
| いずれかが大学等を卒業（n=4,865） | 0.4% | 99.6% | 100.0% |
| ともに大学等以外を卒業（n=6,460） | 1.0% | 99.0% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定：p<0.001

図表 2-C-8 保護者の学歴別、第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無

| | 中退を経験した学校がある | 中退を経験した学校がない、不明 | 合計 |
|---|---|---|---|
| ともに大学等を卒業（n=4,946） | 1.4% | 98.6% | 100.0% |
| いずれかが大学等を卒業（n=4,865） | 2.8% | 97.2% | 100.0% |
| ともに大学等以外を卒業（n=6,460） | 4.1% | 95.9% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定：p<0.001

③進学した高等学校の種類別の集計

最後に、調査対象者が進学した高等学校の種類について、「全日制」、「定時制」、「通信制」の 3 つの分類別に集計を行った[31]。

「第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の『学校を辞めた』経験の有無（累計）」に関する集計結果としては、「全日制」の場合の中退発生率は 0.4%、「定時制」の場合は 5.9%、「通信制」の場合には 2.9%となっており、統計的に有意な差があるという結果であった（図表 2-C-9）。

「定時制」や「通信制」への進学については、もともと何かしらの理由・事情があって選択しているものと

[31] 高等学校に進学した者のみが集計対象である。また、当該分類を尋ねる設問に無回答（不詳）であった場合には集計の対象外とした。

考えられ、中退発生には、経済的理由も含む様々な要因が関連しているものと推察されるが、興味深いのは「第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無」に関する集計結果である（図表 2-C-10）。こちらは、図表 2-C-3 の集計結果から把握されたように、内訳として大学や専修学校・各種学校からの中退を多く含むものであるが、「全日制」に進学した者での中退発生率は 2.6％であるのに対し、「定時制」の場合は 9.2％、「通信制」の場合には 14.4％となっていた。単純に数値を見比べると、「通信制」の場合には第 18 回調査の高校段階での中退発生率（2.9％）に対して、第 21 回調査の時点で振り返って回答された割合（14.4％）が 10 ポイント以上高くなっており、これは、特に大学や専修学校・各種学校等の段階で課題が生じる可能性があることを示唆する結果と考えられる。

図表 2-C-9 進学した高等学校の種類別、第 16 回～第 18 回調査の各調査回の回答時点の「学校を辞めた」経験の有無（累計）

| | 学校を辞めた経験がある | 辞めた経験がない、不明 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 全日制（n=15,491） | 0.4% | 99.6% | 100.0% |
| 定時制（n=152） | 5.9% | 94.1% | 100.0% |
| 通信制（n=209） | 2.9% | 97.1% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定：p<0.001

図表 2-C-10 進学した高等学校の種類別、第 21 回調査時点で尋ねた中退経験の有無

| | 中退を経験した学校がある | 中退を経験した学校がない、不明 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 全日制（n=15,491） | 2.6% | 97.4% | 100.0% |
| 定時制（n=152） | 9.2% | 90.8% | 100.0% |
| 通信制（n=209） | 14.4% | 85.6% | 100.0% |

※カイ 2 乗検定：p<0.001

## 3. 小括

以上のように、本稿では、調査対象者の中学校卒業後の進路の状況に着目し、各段階での中退経験を含む状況について集計・分析を行った。

中退発生の状況に着目すると、調査対象のうち少なくとも 0.6%の者が高校等からの中退を経験していると考えられ、調査回を経るごとに（学年が上がるごとに）、その年度の間に中退を経験する者の割合が高くなる傾向にあることが把握された。また、大学等からの中退を含む形で、第 21 回調査時点で尋ねた設問に対する回答からは、いずれかの段階で中退を経験したと回答した割合は、調査対象のうち少なくとも 2.9%にのぼることが明らかになった。

これらの中退発生率に関しては、性別については統計的に有意な差がみられなかったが、保護者の学歴別や、進学した高等学校の種類別には有意な差があることが明らかになり、中退発生には経済的理由を含む要因が関連することを示唆する結果が得られた。また、進学した高等学校の種類別の集計結果からは、定時制・通信制の高校に進学した者では、全日制の高校に進学した者と比較して、高校等や大学等で中退を経験する割合が高いことを示す結果も得られた。

# D 大学生の授業外学修時間に関する集計・分析

## 1. 分析の背景・目的

教育振興基本計画では、目標1「確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成」として「各学校段階を通じて、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等の確かな学力の育成、幅広い知識と教養、専門的能力、職業実践力の育成を図る」ことを掲げており、具体的な指標の1つに、「大学生の授業外学修時間の充実」を挙げている。

中央教育審議会大学分科会が令和5年2月に公表した「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について（審議まとめ）」[32]では、「我が国では、学生の授業時間以外の予習・復習・課題など授業に関する学修時間が短く、学生が密度の濃い主体的な学修を行うことができていない状況にある」、「学生の学修意欲の維持・向上も重要な課題である」との記述がみられ、また大学生の種々の学修時間が少ないことに関して、「「出口における質保証」という観点からも問題である」と述べられている。

日本学生支援機構「学生生活調査」[33]では、大学（昼間部）の学生の「大学の授業の予習・復習、課題など」[34]において1週間で平均6時間以上であると回答した者の割合が、新型コロナウイルス感染症拡大後の令和2年度では、平成 30 年度と比較して 20 ポイント以上増加していることが明らかになっているが、その割合は令和2年度においても 50％前後であり、大学生の授業外学修時間の充実にはいまだ課題があると考えられる。

これらの課題を受け、本稿では、新型コロナウイルス感染症禍の中の大学生の授業外学修時間の状況を確認するとともに、授業外学修時間が比較的長い学生や、学年を経るにつれて授業外学修時間を増加した（または減少した）学生の特徴について検討するための集計・分析を実施した。

## 2. 分析結果

### (1)大学生の学修時間に関する各調査回の回答

#### ①学修時間全体の回答状況

大学生の学修時間については、図表 2-D-1～図表 2-D-3 のようになっている。第 19 回（大学1年生）の学修時間は、「学校の授業」時間において「16-20 時間」や「21-25 時間」の回答が多く、他の学修と比

---

[32] 中央教育審議会大学分科会「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について」（審議まとめ）（令和 5 年 2 月 24 日）

[33] 独立行政法人日本学生支援機構「令和2年度　学生生活調査結果」（令和4年3月）

[34] 平成 30 年度調査では、「大学の授業の予習・復習など」として週当たりの時間を尋ねている。

較して時間が長くなっている。「学校の授業の予習・復習」及び「学校の授業以外の学習」時間は、「1-5 時間」の回答が最も多くなっている。

第 20 回（大学2年生）の学修時間においては、第 19 回と比較して「学校の授業」の時間が減少していることが読み取れる。「学校の授業の予習・復習」及び「学校の授業以外の学習」時間は、「1-5 時間」の回答が第 19 回と比較して減少しているが、これは第19回調査と第 20 回調査で回答の選択肢が異なり、最も時間が短い選択肢が第 19 回調査では「0時間」、第 20 回調査では「1 時間未満」となっていることが要因の1つと考えられる。

第 21 回調査（大学3年生）では、「学校の授業」時間が対面とオンラインで選択肢が分けられるようになったため、単純な時系列比較は難しくなっている。「学校の授業」に関しては、第 21 回調査時点（令和4年）では、大学3年生程度の学生では、オンライン授業よりも対面授業のほうが、学修時間が長いことが読み取れる。「学校の授業の予習・復習」の時間は、第 20 回と比較して短くなっているが、「学校の授業以外の学習」は第 20 回と同様の回答結果となっている。

図表 2-D-1　第 19 回調査時点での大学生の学修時間に関する回答結果

| | 第 19 回調査時点での学修時間（n=9,126） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 学校の授業 | 学校の授業の予習・復習 | 卒業論文・卒業研究 | 学校の授業以外の学習 |
| 0 時間 | 0.8% | 8.7% | 91.8% | 35.1% |
| 1-5 時間 | 6.6% | 48.0% | 3.9% | 43.5% |
| 6-10 時間 | 7.1% | 22.2% | 1.6% | 11.9% |
| 11-15 時間 | 14.1% | 10.2% | 1.1% | 4.7% |
| 16-20 時間 | 24.7% | 5.2% | 0.7% | 2.0% |
| 21-25 時間 | 25.8% | 3.0% | 0.4% | 1.2% |
| 26-30 時間 | 12.7% | 1.3% | 0.3% | 0.6% |
| 31 時間以上 | 8.2% | 1.4% | 0.3% | 0.9% |

※第 19～21 回調査のいずれにおいても大学に在籍していると回答し、第 19～21 回調査の学修時間についていずれも回答があり、第 21 回調査において現在含めて休学したことがないと回答したサンプルに限定した集計（以下同様）。

図表 2-D-2 第 20 回調査時点での大学生の学修時間に関する回答結果

| | 第 20 回調査時点での学修時間（n=9,126） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 学校の授業（オンライン授業の視聴時間含む） | 学校の授業の予習・復習（課題を行う時間を含む） | 卒業論文・卒業研究 | 学校の授業以外の学習 |
| 1 時間未満 | 1.3% | 10.4% | 90.8% | 50.7% |
| 1-5 時間 | 10.6% | 34.8% | 4.8% | 31.0% |
| 6-10 時間 | 11.8% | 26.3% | 1.9% | 9.9% |
| 11-15 時間 | 16.6% | 13.5% | 1.0% | 4.3% |
| 16-20 時間 | 25.2% | 7.5% | 0.7% | 1.8% |
| 21-25 時間 | 18.7% | 3.3% | 0.4% | 0.8% |
| 26-30 時間 | 7.9% | 1.9% | 0.2% | 0.4% |
| 30 時間以上 | 7.9% | 2.3% | 0.2% | 1.1% |

図表 2-D-3 第 21 回調査時点での大学生の学修時間に関する回答結果

| | 第 21 回調査時点での学修時間（n=9,126） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 学校の授業（対面の授業） | 学校の授業（オンラインによる授業） | 学校の授業の予習・復習（課題を行う時間を含む） | 卒業論文・卒業研究 | 学校の授業以外の学習 |
| 1 時間未満 | 7.2% | 31.1% | 22.7% | 76.3% | 50.9% |
| 1-5 時間 | 27.4% | 33.9% | 44.5% | 16.7% | 30.8% |
| 6-10 時間 | 21.1% | 18.6% | 18.1% | 4.0% | 9.6% |
| 11-15 時間 | 17.4% | 9.6% | 7.0% | 1.3% | 3.5% |
| 16-20 時間 | 13.1% | 4.1% | 3.8% | 0.6% | 1.9% |
| 21-25 時間 | 5.9% | 1.4% | 1.6% | 0.3% | 1.0% |
| 26-30 時間 | 3.2% | 0.7% | 0.8% | 0.2% | 0.5% |
| 30 時間以上 | 4.7% | 0.6% | 1.5% | 0.6% | 1.8% |

②出生月別の授業外学修時間の回答状況

出生月別に「学校の授業の予習・復習」の時間をみると、第 19 回調査（大学1年生）において、7月出生児では、1月出生児と比較して、「0時間」及び「1-5 時間」の回答が少なく、6時間以上の回答が多くなっている。これは、1月出生児の第 19 回調査は 2020 年1月に実施、7月出生児の同回調査は 2020 年7月に実施されており、7月出生児の調査時期が新型コロナウイルス感染症の影響で大学が対面の授業を実施することが難しく、授業に関する課題が多かったことが要因である可能性が考えられる。

「学校の授業以外の学習」時間に関しても、第 19 回調査では7月出生児は1月出生児と比較して学修時間が長くなっている。

図表 2-D-4 各調査回における出生月別、大学生の「学校の授業の予習・復習」の時間

| | 「学校の授業の予習・復習」の時間 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第 19 回 | | 第 20 回 | | 第 21 回 | |
| | 1月（n=4,475） | 7月（n=4,651） | 1月（n=4,475） | 7月（n=4,651） | 1月（n=4,475） | 7月（n=4,651） |
| 1 時間未満（19 回:0 時間） | 11.1% | 6.3% | 11.2% | 9.5% | 25.7% | 19.8% |
| 1-5 時間 | 56.2% | 40.1% | 36.2% | 33.6% | 45.1% | 44.0% |
| 6-10 時間 | 18.8% | 25.5% | 25.6% | 27.0% | 15.9% | 20.2% |
| 11-15 時間 | 7.4% | 12.9% | 12.7% | 14.2% | 5.9% | 8.0% |
| 16-20 時間 | 3.0% | 7.4% | 7.0% | 7.9% | 3.6% | 4.0% |
| 21-25 時間 | 1.9% | 4.1% | 2.9% | 3.6% | 1.5% | 1.8% |
| 26-30 時間 | 0.9% | 1.7% | 1.9% | 2.0% | 0.9% | 0.7% |
| 30 時間以上（19 回:31 時間以上） | 0.7% | 2.1% | 2.5% | 2.2% | 1.5% | 1.6% |
| カイ 2 乗検定 | p<0.001 | | p<0.01 | | p<0.001 | |

※学修時間について、第 19 回調査と第 20,21 回調査で設問の選択肢が異なる点に留意が必要（以下同様）。

図表 2-D-5 各調査回における出生月別、大学生の「学校の授業以外の学習」時間

| | 「学校の授業以外の学習」の時間 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第 19 回 | | 第 20 回 | | 第 21 回 | |
| | 1月（n=4,475） | 7月（n=4,651） | 1月（n=4,475） | 7月（n=4,651） | 1月（n=4,475） | 7月（n=4,651） |
| 1 時間未満（19 回:0 時間） | 35.9% | 34.4% | 51.3% | 50.1% | 49.6% | 52.1% |
| 1-5 時間 | 45.8% | 41.2% | 30.4% | 31.7% | 30.7% | 30.9% |
| 6-10 時間 | 10.6% | 13.1% | 10.2% | 9.6% | 10.0% | 9.3% |
| 11-15 時間 | 3.7% | 5.8% | 4.2% | 4.3% | 3.8% | 3.3% |
| 16-20 時間 | 1.5% | 2.6% | 1.7% | 1.8% | 2.0% | 1.7% |
| 21-25 時間 | 1.1% | 1.3% | 0.7% | 0.8% | 1.1% | 0.8% |
| 26-30 時間 | 0.7% | 0.6% | 0.4% | 0.5% | 0.6% | 0.4% |
| 30 時間以上（19 回:31 時間以上） | 0.7% | 1.1% | 1.2% | 1.1% | 2.1% | 1.5% |
| カイ 2 乗検定 | p<0.001 | | ns | | p<0.05 | |

③個人の時点間の回答変化

学修時間の時点間の回答変化においては、前述の通り、第 19 回調査と第 20,21 回調査で回答のための選択肢が異なるため、学修時間を「6時間未満」か「6時間以上」で再分類を行い、分析を行った。第 19 回調査及び第 21 回調査から、「学校の授業以外の学習」時間の個人の時点間の回答変化をみると、19,21 回調査ともに学修時間が「6時間未満」である者の割合が出生月に関わらず約7割と高くなっている。また、7月出生児では、第 19 回時点では「6時間以上」であったが、第 21 回時点では「6時間未満」となっている者が約2割となっており、1月出生児と比較して高くなっている。

なお、「学校の授業の予習・復習」時間に関しては、学年を経るごとに登録している授業数が減少し、予習・復習の時間も減少すると考えられるため、本稿では経年での比較は取り扱わないこととした。

図表 2-D-6 出生月別、第 19 回調査から第 21 回調査の「学校の授業以外の学習」時間の回答変化

| 出生月 | 「学校の授業以外の学習」の時間 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 第 19 回 | 第 21 回 | 件数 | 割合 |
| 全体(n=9,126) | 6時間未満 | 6時間未満 | 6,101 | 66.9% |
| | | 6時間以上 | 1,073 | 11.8% |
| | 6時間以上 | 6時間未満 | 1,353 | 14.8% |
| | | 6時間以上 | 599 | 6.6% |
| 1月(n=4,475) | 6時間未満 | 6時間未満 | 3,064 | 68.5% |
| | | 6時間以上 | 595 | 13.3% |
| | 6時間以上 | 6時間未満 | 529 | 11.8% |
| | | 6時間以上 | 287 | 6.4% |
| 7月(n=4,651) | 6時間未満 | 6時間未満 | 3,037 | 65.3% |
| | | 6時間以上 | 478 | 10.3% |
| | 6時間以上 | 6時間未満 | 824 | 17.7% |
| | | 6時間以上 | 312 | 6.7% |

※割合は、出生月別の割合。

## (2)第 19 回調査時点の授業外学修時間と他変数との関連

第 19 回調査時点における授業外学習時間の設問において、図表 2-D-1 に示した8区分のカテゴリのいずれかを選択する方式で尋ねているが、各カテゴリの中間値(「0 時間」には0、「31 時間以上」には 33)を割り当て属性別の平均値を算出した。

性別にみると、「学校の授業の予習・復習」の週当たりの時間は、男性では 6.80 時間、女性は 7.18 時間と、女性のほうが長くなっている。一方で、「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間は、男性では 4.12 時間、女性では 3.86 時間と、男性のほうが長くなっている。

図表 2-D-7 性別と第 19 回調査時点の授業外学修時間の時間との関係

| 性別 | 学校の授業の予習・復習 | 学校の授業以外の学習 |
|---|---|---|
| 男性(n=4,395) | 6.80 | 4.12 |
| 女性(n=4,731) | 7.18 | 3.86 |
| 検定結果 | p<0.01 | p<0.05 |

※検定は、等分散を仮定しない分散分析による平均値差の検定を行っている。(以下同様)

専攻別にみると、「学校の授業の予習・復習」の週当たりの時間については、「理学」「工学」「保健」「国際関係」において8時間以上となっており、他の専攻と比較して長くなっている。また「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間に関しては、「理学」「保健」「芸術」において 4.5 時間以上と比較的長い。

図表 2-D-8 専攻と第 19 回調査時点の授業外学修時間との関係

| 専攻 | 学校の授業の予習・復習 | 学校の授業以外の学習 |
|---|---|---|
| 人文科学(n=964) | 6.38 | 3.38 |
| 社会科学(n=2,384) | 5.97 | 3.90 |
| 理学(n=559) | 8.66 | 4.61 |
| 工学(n=1,169) | 8.29 | 4.25 |
| 農学(n=242) | 7.01 | 3.84 |
| 保健(n=1,131) | 8.07 | 4.83 |
| 家政(n=304) | 7.54 | 3.61 |
| 教育(n=666) | 6.47 | 3.56 |
| 芸術(n=293) | 7.08 | 4.63 |
| 国際関係(n=477) | 8.05 | 4.27 |
| その他(n=851) | 5.98 | 3.32 |
| 検定結果 | p<0.001 | p<0.001 |

該当者数の少ない「外国にある学校等」に通う方を除くと、実家外から通学する方は、実家から通学している方と比較して、「学校の授業の予習・復習」「学校の授業以外の学習」の時間がともに長くなっている。

図表 2-D-9 学校の場所と第 19 回調査時点の授業外学修時間との関係

| 学校の場所 | 学校の授業の予習・復習 | 学校の授業以外の学習 |
|---|---|---|
| 実家と同じ都道府県内にあり、実家から通学(n=3,794) | 6.51 | 3.70 |
| 実家と同じ都道府県内にあり、実家外から通学(n=424) | 7.35 | 4.37 |
| 実家と異なる都道府県にあり、実家から通学(n=2,217) | 7.13 | 4.16 |
| 実家と異なる都道府県にあり、実家外から通学(n=2,666) | 7.51 | 4.19 |
| 外国にある学校等(n=14) | 8.43 | 5.43 |
| 検定結果 | p<0.001 | p<0.01 |

保護者の学歴別にみると、大学等を卒業した保護者の人数と、「学校の授業の予習・復習」の時間に相関がみられたが、「学校の授業以外の学習」の時間とは関連がみられなかった。

図表 2-D-10 保護者の学歴と第 19 回調査時点の授業外学修時間との関係

| 専攻 | 学校の授業の予習・復習 | 学校の授業以外の学習 |
|---|---|---|
| ともに大学等を卒業(n=3,648) | 7.42 | 4.04 |
| いずれかが大学等を卒業(n=2,911) | 6.92 | 3.95 |
| ともに大学等以外を卒業(n=2,526) | 6.48 | 3.97 |
| 検定結果 | p<0.001 | ns |

### (3)「学校の授業以外の学習」時間における個人内での時点間の変動

「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間における、第 19 回調査時点の回答と第 21 回時点の回答の変動について分析を行った。なお、前述のように第 19 回調査と第 21 回調査において時間を尋ねるカテゴリが変更されているため、学修時間が「6時間未満」または「6時間以上」のどちらに該当するかに視点を置いて分析を行っている。

性別にみると、第 19 回調査時点で「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間未満だった方のうち、男性の 16.5%、女性の 13.6%が第 21 回調査時点では「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間以上になっていた。

また、第 19 回調査時点では「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間以上だった方のうち、男性の 35.0%、女性の 26.2%が第 21 回調査時点でも6時間以上の「学校の授業以外の学習」時間を維持しており、女性と比較して男性では、「学校の授業以外の学習」の時間が長くなる・または維持する傾向がみられた。

図表 2-D-11　性別と「学校の授業以外の学習」時間の変動との関係

| 第 19 回「学校の授業以外の学習」時間 | 性別 | 第 21 回「学校の授業以外の学習」時間 | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | | 6時間未満 | 6時間以上 | |
| 6時間未満 | 男性(n=3,407) | 83.5% | 16.5% | p<0.001 |
| | 女性(n=3,767) | 86.4% | 13.6% | |
| 6時間以上 | 男性(n=988) | 65.0% | 35.0% | p<0.001 |
| | 女性(n=964) | 73.8% | 26.2% | |

通学状況の変化（実家から通うか実家外から通うか）と「学校の授業以外の学習」時間の変化についてみると、実家から通学し続けたり、実家通いから実家外からの通学に変更したりするなどの通学状況の変化によって、「学校の授業以外の学習」時間が変化する様子はみられなかった。

図表 2-D-12 通学状況と「学校の授業以外の学習」時間の変動との関係

| 第 19 回「学校の授業以外の学習」時間 | 通学状況 | | 第 21 回「学校の授業以外の学習」時間 | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第 19 回 | 第 21 回 | 6時間未満 | 6時間以上 | |
| 6時間未満 | 実家 | 実家（n=4,578） | 86.2% | 13.8% | ns |
| | | 実家外（n=227） | 83.7% | 16.3% | |
| | 実家外 | 実家（n=117） | 88.0% | 12.0% | ns |
| | | 実家外（n=2,223） | 82.8% | 17.2% | |
| 6時間以上 | 実家 | 実家（n=1,117） | 70.5% | 29.5% | ns |
| | | 実家外（n=82） | 68.3% | 31.7% | |
| | 実家外 | 実家（n=39） | 66.7% | 33.3% | ns |
| | | 実家外（n=707） | 67.6% | 32.4% | |

専攻別にみると、第 19 回調査時点で「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間未満である方のうち、「社会科学」「理学」「保健」「教育」「芸術」分野を専攻する方では、第 21 回調査時点で「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間以上となる方の割合が 15.0％以上と他の分野を専攻する学生と比較して高くなっていた。

また、第 19 回調査時点で「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間以上である方のうち、「社会科学」「理学」「教育」「芸術」分野を専攻する方では、第 21 回調査時点でも「学校の授業以外の学習」の週当たり時間を6時間以上に維持する割合が他の分野を専攻する方と比較して高くなっていた。

図表 2-D-13 専攻と「学校の授業以外の学習」時間の変動との関係（1月出生児）

| 第19回「学校の授業以外の学習」時間 | 専攻 | 第21回「学校の授業以外の学習」時間 | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | | 6時間未満 | 6時間以上 | |
| 6時間未満 | 人文科学（n=804） | 86.8% | 13.2% | p<0.001 |
| | 社会科学（n=1,912） | 82.9% | 17.1% | |
| | 理学（n=414） | 81.4% | 18.6% | |
| | 工学（n=879） | 86.8% | 13.2% | |
| | 農学（n=193） | 87.6% | 12.4% | |
| | 保健（n=810） | 84.2% | 15.8% | |
| | 家政（n=239） | 89.1% | 10.9% | |
| | 教育（n=550） | 82.5% | 17.5% | |
| | 芸術（n=219） | 80.8% | 19.2% | |
| | 国際関係（n=372） | 86.8% | 13.2% | |
| | その他（n=706） | 89.9% | 10.1% | |
| 6時間以上 | 人文科学（n=160） | 75.6% | 24.4% | p<0.01 |
| | 社会科学（n=472） | 62.9% | 37.1% | |
| | 理学（n=145） | 64.8% | 35.2% | |
| | 工学（n=290） | 69.7% | 30.3% | |
| | 農学（n=49） | 69.4% | 30.6% | |
| | 保健（n=321） | 72.3% | 27.7% | |
| | 家政（n=65） | 84.6% | 15.4% | |
| | 教育（n=116） | 65.5% | 34.5% | |
| | 芸術（n=74） | 64.9% | 35.1% | |
| | 国際関係（n=105） | 74.3% | 25.7% | |
| | その他（n=145） | 76.6% | 23.4% | |

## 3. 小括

本稿では、大学生の授業外学修時間について、基礎的な分析を行った。「学校の授業の予習・復習」の週当たりの時間が6時間未満である方の割合は、第 19 回（大学1年生）調査では約6割、第 20 回（大学2年生）調査では約5割、第 21 回（大学3年生）調査では約7割となっていた。また、「学校の授業以外の学習」の週当たりの時間が6時間未満である方の割合は、第 19 回～第 21 回調査を通して約8割となっていた。

出生月別にみると、第 19 回調査では7月出生児において1月出生児と比較して「学校の授業の予習・復習」の時間が長くなっていた。これは、1月出生児の第 19 回調査は 2020 年1月に実施、7月出生児の同回調査は 2020 年7月に実施されており、7月出生児の調査時期が新型コロナウイルス感染症の影響で大学が対面の授業を実施することが難しく、授業に関する課題が多かったことが要因である可能性が考えられる。「学校の授業以外の学習」時間に関しても、第 19 回調査では7月出生児は1月出生児と比較して学修時間が長くなっている。

第 19 回調査時点の授業外学修時間について、性別にみると、「学校の授業の予習・復習」の時間は女性のほうが長く、「学校の授業以外の学習」の時間は男性のほうが長かった。専攻別にみると、「理学」「工学」「保健」「国際関係」の分野を専攻する方で「学校の授業の予習・復習」や「学校の授業以外の学習」の時間が長くなっていた。また、大学等を卒業した保護者の人数と「学校の授業の予習・復習」の時間に相関がみられたが、「学校の授業以外の学習」の時間とは関連がみられなかった。

続いて、第 19 回調査から第 21 回調査における「学校の授業以外の学習」時間の変動について属性別に分析を行った。性別にみると、女性と比較して男性では、学修時間が長くなる・または学修時間を維持する傾向がみられた。同様の傾向が「社会科学」「理学」「教育」「芸術」分野を専攻する学生においてもみられたが、通学状況の変化（実家から通うか実家外から通うか）と「学校の授業以外の学習」時間の変化との関連はみられなかった。

## E 大学生の大学院進学意向に関する集計・分析

### 1. 分析の背景・目的

教育振興基本計画では、目標5「イノベーションを担う人材育成」の基本施策「大学院教育改革」において、「「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）」（平成 31（2019）年 中央教育審議会大学分科会）等に基づき、「3つの方針」に基づく学位プログラムとしての大学院教育の確立や、優秀な人材の進学促進と修了者の進路確保、キャリアパスの多様化等を、行政・産業界等とも連携しつつ推進する。」としており、具体的な指標の1つに、「学部入学者数に対する修士入学者数の割合の増加」を挙げている。なお、「3つの方針」とは、上記の中教審の審議まとめ[35]では、「学位授与の方針」、「教育課程編成の方針」、「入学者受入れの方針」としている。

教育振興基本計画の指標である「学部入学者数に対する修士入学者数の割合」[36]は、平成 30 年度から令和4年度の過去5年間で 11.8％から 11.9％となっており、横ばいの傾向が続いている（令和元年度及び令和2年度において、それぞれ 11.5％、11.3％と低下するが、令和3年度に 11.9％と平成 30 年度の水準に戻っている）。

これらの状況を鑑み、本稿では、大学生の大学院進学意向の状況及び、大学院への進学を希望する学生の特徴や、大学院への進学希望の変動に影響を与える可能性のある要因の検討を行った。

### 2. 分析結果

#### (1)大学生の大学院進学意向に関する各調査回の回答

##### ①大学生の進路意向全体の回答状況

第 19～21 回調査では、現在通学している回答者に対して、将来の進路意向について図表 2-E-1～図表 2-E-3 のように尋ねている。回答者を大学に通学している者に限定すると、第 19 回調査（大学1年生）では、卒業後の進路として、就職を考えている者が 75.0％と最も高く、大学卒業後に進学することを考えている者が 9.5％、決めていない者が 14.5％となっている。

第 20 回調査（大学2年生）、第 21 回調査（大学3年生）と年数を経るにしたがって、「具体的にはまだ決まっていない」の回答が減少し、就職を考える者や大学院等に進学することを考える者の割合が増加している。第 21 回調査時点では、大学を卒業した後に大学院（修士または博士）への進学を考えている者

---

[35] 中央教育審議会大学分科会「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）」（2019 年1月 22 日）

[36] 中央教育審議会「次期教育振興基本計画について（答申）参考資料・データ集」（2023 年3月8日）

の割合は、10.7%となっている。

図表 2-E-1 第 19 回調査時点での大学生の進路意向に関する回答結果[37]

| | 第 19 回 進路意向<br>（n=10,013） |
|---|---|
| 現在通っている学校を卒業後に働くことを考えている | 75.0% |
| 現在通っている学校を卒業後、進学することを考えている | 9.5% |
| 働くことを考えていない | 0.5% |
| 具体的にはまだ決まっていない | 14.5% |
| その他 | 0.5% |

※第 19～21 回調査のいずれにおいても大学に在籍していると回答し、第 19～21 回調査の進路意向についていずれも回答があるサンプルに限定した集計（以下同様）。

図表 2-E-2 第 20 回調査時点での大学生の進路意向に関する回答結果

| | 第 20 回 進路意向<br>（n=10,013） |
|---|---|
| 現在通っている学校を卒業後に働くことを考えている | 76.5% |
| 現在通っている学校を卒業後、大学院に進学し、<br>その後働くことを考えている | 10.0% |
| 現在通っている学校を卒業後、別の学校に進学し、<br>その後働くことを考えている | 1.0% |
| 現在通っている学校を中退後に働くことを考えている | 0.1% |
| 現在通っている学校を中退後、別の学校に進学し、<br>その後働くことを考えている | 0.2% |
| 働くことを考えていない | 0.4% |
| 具体的にはまだ決まっていない | 11.3% |
| その他 | 0.4% |

[37] 第 20 回、第 21 回調査と異なり、第 19 回調査では卒業後の進学に関して、大学院への進学に限定した選択肢を設けていないが、本調査研究では、第 19 回調査で「現在通っている学校を卒業後、進学することを考えている」と回答した者を、大学院への進学意向がある者として分析を行っている。

図表 2-E-3 第 21 回調査時点での大学生の進路意向に関する回答結果

| | 第 21 回 進路意向<br>（n=10,013） |
|---|---|
| 現在在学している学校を卒業後に働くことを考えている | 81.3% |
| 現在在学している学校を卒業後、大学院（修士まで）に進学し、その後働くことを考えている | 9.8% |
| 現在在学している学校を卒業後、大学院（博士まで）に進学し、その後働くことを考えている | 0.9% |
| 現在在学している学校を卒業後、別の学校に進学し、その後働くことを考えている | 0.9% |
| 現在在学している学校を中退後に働くことを考えている | 0.2% |
| 現在在学している学校を中退後、別の学校に進学し、働くことを考えている | 0.2% |
| 働くことを考えていない | 0.3% |
| 具体的にはまだ決まっていない | 5.7% |
| その他 | 0.5% |

②個人の時点間の回答変化

大学生の進路意向に関して、第 19 回調査から第 21 回調査にかけての個人の時点間での回答変化をみると、第 19,20,21 回すべてを通して就職を考えている者の割合は、全体の 63.0%となっており、最も多くなっている。次いで、第 19 回ではその他（多くは「具体的にはまだ決まっていない」）と回答しつつ、第 20,21 回では就職を考えていると回答した者が 6.6%、第 19,20,21 回全てにおいて大学院進学を考えていると回答した者の割合は 5.2%となっている。

また、図表 2-E-5 から、第 19 回で就職を考えている者の 91.2%は第 21 回でも就職を考えており、大学院進学を考えるようになる者の割合は、3.4%と非常に低くなっている。第 19 回で大学院進学を考えている者で、第 21 回でも大学院進学を考えている者の割合は 63.4%となっており、27.5%は、就職を考えるようになっている。また、第 19 回でその他（多くは「具体的にはまだ決まっていない」）と回答した者のうち、66.6%は第 21 回で就職を考えるようになっているが、14.2%は大学院進学を考えるようになっている。

図表 2-E-4　第 19 回調査から第 21 回調査の進路意向の回答変化

| 進路意向 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第 19 回 | 第 20 回 | 第 21 回 | 件数 | 割合 |
| 就職 | 就職 | 就職 | 6,307 | 63.0% |
| | | 大学院進学 | 111 | 1.1% |
| | | その他 | 275 | 2.7% |
| | 大学院進学 | 就職 | 86 | 0.9% |
| | | 大学院進学 | 97 | 1.0% |
| | | その他 | 8 | 0.1% |
| | その他 | 就職 | 453 | 4.5% |
| | | 大学院進学 | 48 | 0.5% |
| | | その他 | 124 | 1.2% |
| 大学院進学 | 就職 | 就職 | 126 | 1.3% |
| | | 大学院進学 | 34 | 0.3% |
| | | その他 | 15 | 0.1% |
| | 大学院進学 | 就職 | 88 | 0.9% |
| | | 大学院進学 | 525 | 5.2% |
| | | その他 | 37 | 0.4% |
| | その他 | 就職 | 48 | 0.5% |
| | | 大学院進学 | 45 | 0.4% |
| | | その他 | 34 | 0.3% |
| その他 | 就職 | 就職 | 665 | 6.6% |
| | | 大学院進学 | 39 | 0.4% |
| | | その他 | 89 | 0.9% |
| | 大学院進学 | 就職 | 31 | 0.3% |
| | | 大学院進学 | 109 | 1.1% |
| | | その他 | 21 | 0.2% |
| | その他 | 就職 | 338 | 3.4% |
| | | 大学院進学 | 72 | 0.7% |
| | | その他 | 188 | 1.9% |
| 全体 | | | 10,013 | 100.0% |

※割合は、全体に占める割合。

図表 2-E-5　第 19 回調査から第 21 回調査の進路意向の回答変化（第 19 回と第 21 回のみ）

| 進路意向 | | |
|---|---|---|
| 第 19 回 | 第 21 回 | 割合 |
| 就職（n=7,509） | 就職 | 91.2% |
| | 大学院進学 | 3.4% |
| | その他 | 5.4% |
| 大学院進学（n=952） | 就職 | 27.5% |
| | 大学院進学 | 63.4% |
| | その他 | 9.0% |
| その他（n=1,552） | 就職 | 66.6% |
| | 大学院進学 | 14.2% |
| | その他 | 19.2% |

※割合は、第 19 回調査の回答別の割合。

## （2）第 19 回調査時点の大学院進学意向と他変数との関連

第19回調査時点における進路意向と他変数との関連を整理した。はじめに出生月との関連をみたところ、1月出生児（大学1年生（2019 年）の1月に調査実施）と7月出生児（大学1年生（2019 年）の7月に調査実施）で進路意向の回答における大きな差異はみられなかった。

図表 2-E-6　出生月と第 19 回調査時点の進路意向との関係

| 出生月 | 第 19 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 1月（n=5,090） | 75.1% | 9.8% | 15.0% | ns |
| 7月（n=4,923） | 74.9% | 9.2% | 16.0% | |

性別にみると、男性では「大学院進学」を考えている割合が 12.9%と、女性の 6.3%と比較して高くなっている。

図表 2-E-7 性別と第 19 回調査時点の進路意向との関係

| 性別 | 第 19 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 男性(n=4,827) | 67.5% | 12.9% | 19.6% | p<0.001 |
| 女性(n=5,186) | 82.0% | 6.3% | 11.7% | |

専攻別にみると、「理学」「工学」「農学」の分野を専攻している方で「大学院進学」を考える割合がそれぞれ 28.2%、32.0%、17.7%と、他の専攻と比較して高い傾向がみられた。

図表 2-E-8 専攻と第 19 回調査時点の進路意向との関係

| 専攻 | 第 19 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 人文科学(n=1,055) | 76.4% | 6.4% | 17.2% | p<0.001 |
| 社会科学(n=2,600) | 84.1% | 2.3% | 13.6% | |
| 理学(n=614) | 44.1% | 28.2% | 27.7% | |
| 工学(n=1,271) | 46.3% | 32.0% | 21.6% | |
| 農学(n=260) | 60.8% | 17.7% | 21.5% | |
| 保健(n=1,247) | 87.3% | 5.9% | 6.8% | |
| 家政(n=327) | 88.4% | 2.8% | 8.9% | |
| 教育(n=732) | 87.0% | 3.0% | 10.0% | |
| 芸術(n=322) | 78.0% | 3.4% | 18.6% | |
| 国際関係(n=541) | 78.2% | 3.5% | 18.3% | |
| その他(n=938) | 77.5% | 6.3% | 16.2% | |

高校3年生の時に進学を希望しており、その理由として「勉強してみたい分野がみつかったから」の項目に関して「とてもあてはまる」または「あてはまる」と回答した方は、「大学院進学」を考える割合が10.2%と、そうでない方と比較して高くなっていた。

図表 2-E-9　高校時の進学意向理由と第 19 回調査時点の進路意向との関係

| 進学意向理由として「勉強してみたい分野がみつかったから」 | 第 19 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| あてはまる（n=7,235） | 76.3% | 10.2% | 13.5% | p<0.001 |
| あてはまらない（n=1,730） | 74.9% | 6.0% | 19.2% | |

※高校時の進学意向理由は、第 18 回調査によって判別。なお、「とてもあてはまる」「あてはまる」の回答を「あてはまる」、「あてはまらない」「全くあてはまらない」の回答を「あてはまらない」として集計。

父母の学歴別にみると、「大学院進学」を考える割合は、保護者が「ともに大学等を卒業」している方では 12.6%、「いずれかが大学等を卒業」している方では 8.7%、「ともに大学等以外を卒業」している方では 6.1%と、大学等を卒業している保護者の人数と相関がみられた。

図表 2-E-10　父母の学歴と第 19 回調査時点の進路意向との関係

| 父母の学歴 | 第 19 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| ともに大学等を卒業（n=3,986） | 71.6% | 12.6% | 15.9% | p<0.001 |
| いずれかが大学等を卒業（n=3,189） | 75.7% | 8.7% | 15.6% | |
| ともに大学等以外を卒業（n=2,793） | 79.1% | 6.1% | 14.9% | |

世帯収入別にみると、世帯年収が「1,200 万円以上」の方では、「大学院進学」を考えている方の割合が 13.0%と、他の収入区分の方と比較して高くなっている。

図表 2-E-11　世帯収入と第 19 回調査時点の進路意向との関係

| 世帯収入 | 第 19 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|
| | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 400 万円未満(n=599) | 76.5% | 8.0% | 15.5% | p<0.001 |
| 400 万円以上 800 万円未満 (n=2,635) | 77.6% | 6.8% | 15.6% | |
| 800 万円以上 1,200 万円未満 (n=3,828) | 75.5% | 9.0% | 15.5% | |
| 1,200 万円以上(n=2,858) | 71.7% | 13.0% | 15.3% | |

※世帯収入は、各調査における父母及びその他の収入の合計のうち、第 19～21 回調査で最も高い数値を用いた。

## (3)大学院進学意向における個人内での時点間の変動

図表 2-E-5 でみたように、第 19 回調査時点で「就職」希望の方は、その後も就職を希望する傾向にあるが、第 19 回調査時点で進路意向が「大学院進学」や「その他」(「働くことを考えていない」「具体的にはまだ決まっていない」「その他」)の方は、その後の進路意向が変化する余地が大きい。そのため、第 19 回調査時点で進路意向が「大学院進学」または「その他」の方に限定して、各人の属性別に、第 21 回調査時点の進路意向がどのように変化するか確認した。

第 19 回調査時点で「大学院進学」を考えていた方のうち、第 21 回調査時点でも「大学院進学」を考えていた方の割合は、男性では 66.8%、女性では 57.0%と男性のほうが高くなっている。また、第 19 回調査の進路意向が「その他」の方のうち、第 21 回調査時点で「大学院進学」を考えるようになった方の割合は、男性で 17.1%と、女性の 9.6%と比較して高くなっている。

図表 2-E-12　性別と進路意向の変動との関係

| 第 19 回 進路意向 | 性別 | 第 21 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 大学院進学 | 男性(n=624) | 23.7% | 66.8% | 9.5% | p<0.01 |
| | 女性(n=328) | 34.8% | 57.0% | 8.2% | |
| その他 | 男性(n=947) | 62.8% | 17.1% | 20.1% | p<0.001 |
| | 女性(n=605) | 72.6% | 9.6% | 17.9% | |

専攻別にみると、「理学」「工学」「農学」分野を専攻している方では、大学院への進学意向を持ち続け、また進路意向が「その他」から「大学院進学」に変化しやすい傾向にあった。

図表 2-E-13 専攻と進路意向の変動との関係

| 第 19 回<br>進路意向 | 専攻 | 第 21 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 大学院進学 | 人文科学(n=68) | 48.5% | 50.0% | 1.5% | p<0.001 |
| | 社会科学(n=59) | 52.5% | 37.3% | 10.2% | |
| | 理学(n=173) | 25.4% | 66.5% | 8.1% | |
| | 工学(n=407) | 17.0% | 76.2% | 6.9% | |
| | 農学(n=46) | 21.7% | 69.6% | 8.7% | |
| | 保健(n=73) | 32.9% | 45.2% | 21.9% | |
| | 家政(n=9) | 66.7% | 33.3% | 0.0% | |
| | 教育(n=22) | 54.5% | 40.9% | 4.5% | |
| | 芸術(n=11) | 36.4% | 54.5% | 9.1% | |
| | 国際関係(n=19) | 57.9% | 21.1% | 21.1% | |
| | その他(n=59) | 28.8% | 55.9% | 15.3% | |
| その他 | 人文科学(n=181) | 70.2% | 9.9% | 19.9% | p<0.001 |
| | 社会科学(n=354) | 82.2% | 2.8% | 15.0% | |
| | 理学(n=170) | 51.8% | 30.6% | 17.6% | |
| | 工学(n=275) | 51.3% | 31.3% | 17.5% | |
| | 農学(n=56) | 62.5% | 26.8% | 10.7% | |
| | 保健(n=85) | 65.9% | 5.9% | 28.2% | |
| | 家政(n=29) | 65.5% | 3.4% | 31.0% | |
| | 教育(n=73) | 67.1% | 6.8% | 26.0% | |
| | 芸術(n=60) | 56.7% | 10.0% | 33.3% | |
| | 国際関係(n=99) | 80.8% | 1.0% | 18.2% | |
| | その他(n=152) | 68.4% | 11.8% | 19.7% | |

※検定は、上記の集計では 5 件未満のセルが複数みられたため、「人文科学・社会科学」、「理学・工学・農学・保健」、「その他(家政・教育・芸術・国際関係、その他)」の3区分での集計結果により行った。

高校3年生の時に進学を希望する理由として「勉強してみたい分野がみつかったから」と回答したか否かによって、第 19 回から第 21 回時点の進路意向の回答に大きな変化はみられなかった。

図表 2-E-14　高校時の進学意向理由と進路意向の変動との関係

| 第 19 回<br>進路意向 | 進学意向理由として「勉強してみたい分野がみつかったから」 | 第 21 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 大学院進学 | あてはまる(n=740) | 26.9% | 64.7% | 8.4% | ns |
| | あてはまらない(n=103) | 27.2% | 63.1% | 9.7% | |
| その他 | あてはまる(n=976) | 67.5% | 15.1% | 17.4% | ns |
| | あてはまらない(n=332) | 72.6% | 11.4% | 16.0% | |

※高校時の進学意向理由は、第 18 回調査によって判別。なお、「とてもあてはまる」「あてはまる」の回答を「あてはまる」、「あてはまらない」「全くあてはまらない」の回答を「あてはまらない」として集計。

第 19 回時点の進路意向が「大学院進学」であった方に関しては、世帯年収によって第 21 回時点の進路意向の回答に大きな差異はみられなかったが、第 19 回時点の進路意向が「その他」の方のうち、世帯収入が「1,200 万円以上」の方では第 21 回時点の進路意向が「大学院進学」となる割合が 19.6%と、他の年収区分の方と比較して高くなっていた。

図表 2-E-15　世帯収入と進路意向の変動との関係

| 第 19 回<br>進路意向 | 世帯収入変動 | 第 21 回調査時点の進路意向 | | | カイ2乗検定 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職 | 大学院進学 | その他 | |
| 大学院進学 | 400 万円未満(n=48) | 39.6% | 60.4% | 0.0% | ns |
| | 400 万円以上 800 万円未満(n=178) | 29.2% | 62.9% | 7.9% | |
| | 800 万円以上 1,200 万円未満(n=345) | 25.5% | 64.1% | 10.4% | |
| | 1,200 万円以上(n=372) | 27.4% | 63.4% | 9.1% | |
| その他 | 400 万円未満(n=93) | 63.4% | 11.8% | 24.7% | p<0.01 |
| | 400 万円以上 800 万円未満(n=412) | 70.4% | 11.4% | 18.2% | |
| | 800 万円以上 1,200 万円未満(n=592) | 68.1% | 12.0% | 19.9% | |
| | 1,200 万円以上(n=438) | 61.9% | 19.6% | 18.5% | |

※第19回時点の進路意向が「大学院進学」の方に関する検定は、上記の集計では 0 件のセルが存在したため、「大学院進学」、「就職またはその他」の2区分での集計結果により行った。なお、第 19 回時点の進路意向が「その他」の方に関する検定を、同様の区分での集計結果で行っても、上の表と同様の結果となる。

## 3. 小括

本稿では、大学生の大学院への進路意向について、基礎的な分析を行った。大学院への進学を考える方の割合は、第 19 回調査（大学1年生）では 9.5%、第 20 回調査（大学2年生）では 10.0%、第 21 回調査（大学3年生）では 10.7%となっていた。

進路意向の変動についてみると、第 19 回調査時点で就職を考えている方うち 91.2%は第 21 回でも就職を考えており、大学院進学を考えるようになる方の割合は 3.4%と非常に低くなっている。第 19 回で大学院進学を考えている方のうち、第 21 回でも大学院進学を考えている方の割合は 63.4%で、27.5%は就職を考えるようになっている。また、第 19 回で大学卒業後の進路意向として「その他」（多くは「具体的にはまだ決まっていない」）と回答した者のうち、66.6%は第 21 回で就職を考えるようになっているが、14.2%は大学院進学を考えるようになっている。この結果から、大学1年生時点で卒業後の進路として就職を考えている方は、その後大学院への進学意向を持ちにくいこと、大学1年生時点で大学院進学を考えている方の中でもその後就職を希望するようになる方が一定数存在していることがわかった。

属性別に第19回調査時点での大学院への進路意向についてみると、「理学」「工学」「農学」の分野を専攻している方や、父母が「ともに大学等を卒業」している方、世帯年収が高い方で大学院への進学意向が高いことがわかった。また、高校3年生の時に進学を希望しており、その理由として「勉強してみたい分野がみつかったから」と回答した方は、大学院への進学意向が高い傾向にあった。このことから、大学院への進学意向を促すためには、特定の専攻分野での興味・関心を促すことが重要である可能性が示唆された。

第 19 回調査時点と第 21 回調査時点での進路意向の変動についてみると、「理学」「工学」「農学」分野を専攻している方では、大学院への進学意向を持ち続け、また進路意向が「その他」から「大学院進学」に変化しやすい傾向にあった。第 19 回調査時点で進路意向が「その他」の方のうち、世帯年収が「1,200 万円以上」の方では、第 21 回調査時点では「大学院進学」となる割合が高くなっており、世帯年収の水準が大学院への進路意向の変化に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

# F 大学生世代の精神的健康に関する集計・分析

## 1. 分析の背景・目的

教育振興基本計画では、目標2「豊かな心の育成」において、基本施策として「主観的ウェルビーイングの向上」、「児童生徒の自殺対策の推進」を掲げており、具体的な指標の1つに、「児童生徒の人口 10 万人当たりの自殺者数の減少」を挙げている。

警察庁の自殺統計[38]によれば、児童生徒の自殺者数は近年増加しており、令和4年の自殺者数は 514 名と過去最多となった。また、児童生徒の自殺者数は大学生が最も多くなっており、大学生の精神的健康状態の向上は、喫緊の課題であると考えられる。また、児童生徒に限らず、20～29 歳の若年層の自殺者数も近年増加傾向にある。当該世代の自殺者数は、平成 30 年には 2,154 人であったが、令和4年には 2,483 人と、令和3年の 2,611 人からは減少したものの、直近5年間で 300 人以上増加している。

新型コロナウイルス感染症の精神的健康に与える影響に関しては、松本（2022）[39]において、新型コロナウイルス感染症拡大前（2017 年度・2018 年度）と比較して、感染症拡大後（2020 年度）は、大学生の抑うつ状況が悪化していることを報告している。

上記を踏まえ、本稿では、大学生世代の精神的健康状態について概観し、精神的健康状態の高低に影響を与える要因に関して、時系列的な変化を踏まえた検討を行った。

## 2. 分析結果

### (1)大学生世代の精神的健康に関する各調査回の回答

#### ①精神的健康の回答状況

平成 13 年児縦断調査の第 19～21 回調査では、「精神的健康」に関して、WHO-5 精神的健康状態表[40]に基づく項目が設定されている。「明るく、楽しい気分で過ごした」、「落ち着いた、リラックスした気分で過ごした」、「意欲的で、活動的に過ごした」、「ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた」、「日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった」の 5 つの質問項目によるものであり、これらの項目に関する回答結果について、「いつも」の回答を 5 点、「ほとんどいつも」を 4 点、「半分以上の期間を」を 3 点、「半分以下の期間を」を 2 点、「ほんのたまに」を 1 点、「まったくない」を 0 点とし、単純加算して 0～25 点の指標（得点が高いほど状態が良好であることを示す）を作成した。

---

[38] 厚生労働省自殺対策推進室、警察庁生活安全局生活安全企画課「令和4年中における自殺の状況」（2023 年 3 月 14 日）
[39] 松本（2022）「新型コロナウイルス感染症拡大による大学生の学習および生活習慣の変化」、『神戸親和女子大学　研究論叢』、第 55 号、p.67-77。
[40] https://www.psykiatri-regionh.dk/who-5/Documents/WHO5_Japanese.pdf

「精神的健康」の指標について、「粗点が 13 点未満であるか、5 項目のうちのいずれかに 0 または 1 の回答があるときには、大うつ病(ICD-10)調査表(Major Depression Inventory)を実施することを推奨する。」とされており、当該基準に該当するものは、精神的健康状態が低い者、それ以外の者を精神的健康状態が高い者として集計を行っている。

第 19～21 回調査時点での精神的健康の状況をみると、全体としては、年数を経るほど精神的健康の粗点が低下している様子がうかがえる。また、精神的健康が低い者の割合は、第 19 回調査時点で 55.2%と半数を超えている。

図表 2-F-1 第 19～21 回調査時点での大学生世代の精神的健康に関する回答結果

| | 精神的健康(n=18,062) | | |
|---|---|---|---|
| | 第 19回 | 第 20 回 | 第 21 回 |
| 平均 | 13.5 | 13.4 | 13.2 |
| 標準偏差 | 5.2 | 5.2 | 5.2 |
| 13 点未満 | 41.3% | 42.3% | 44.0% |
| 精神的健康 低 | 55.2% | 56.0% | 55.9% |

※精神的健康について第 19 回～第 21 回までのいずれも回答があるサンプルに限った集計(以下同様)。

②出生月別の各調査回の精神的健康の回答状況

出生月別の各調査回の精神的健康状態をみると、第 19 回調査時点で、7月出生児の精神的健康状態が低くなっているが、第 20 回調査では、1月出生児と同程度の水準まで回復している。1月出生児についてみると、第 19 回調査から第 20 回調査にかけて精神的健康状態が悪化していることが読み取れる。

この結果に関して、第 19 回調査は、1月出生児は 2020 年の1月、7月出生児は 2020 年の7月に調査が実施されており、7月出生児の調査が、新型コロナウイルス感染症の拡大時期と重なったことが影響していると考えられる。

図表 2-F-2　各調査回における出生月別、大学生世代の精神的健康に関する回答結果

| | 精神的健康 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第 19回 | | 第 20 回 | | 第 21 回 | |
| | 1月（n=9,010） | 7月（n=9,052） | 1月（n=9,010） | 7月（n=9,052） | 1月（n=9,010） | 7月（n=9,052） |
| 平均 | 14.1 | 13.0 | 13.5 | 13.4 | 13.3 | 13.1 |
| 標準偏差 | 5.1 | 5.3 | 5.2 | 5.2 | 5.2 | 5.2 |
| 13 点未満 | 36.6% | 46.1% | 41.7% | 42.9% | 43.1% | 44.8% |
| 精神的健康　低 | 51.0% | 59.3% | 56.2% | 55.7% | 55.6% | 56.1% |
| 検定結果 | p<0.001 | | ns | | p<0.01 | |

※各調査回の回答において、出生月別の精神的健康の粗点の平均値差の検定を行っている。

③個人の時点間の回答変化

精神的健康に関する第 19 回調査から第 21 回調査における個人の時点間の変化をみると、第 19 回、第 21 回調査ともに粗点が「13 点以上」の方は 40.7%で、ともに「13 点未満」の方は 26.0%となっている。また、7月出生児では、第 19 回時点の粗点が「13 点未満」から第 21 回時点に「13 点以上」となった割合が1月出生児と比較して高くなっているが、「13 点未満」のままである割合も 28.4%と高い。

図表 2-F-3　第 19 回調査から第 21 回調査の精神的健康の回答変化（13 点を境界とした変化）

| 出生月 | 精神的健康 | | |
|---|---|---|---|
| | 第 19 回 | 第 21 回 | 割合 |
| 全体（n=18,062） | 13 点以上 | 13 点以上 | 40.7% |
| | | 13 点未満 | 18.0% |
| | 13 点未満 | 13 点以上 | 15.3% |
| | | 13 点未満 | 26.0% |
| 1月（n=9,010） | 13 点以上 | 13 点以上 | 43.9% |
| | | 13 点未満 | 19.5% |
| | 13 点未満 | 13 点以上 | 13.0% |
| | | 13 点未満 | 23.6% |
| 7月（n=9,052） | 13 点以上 | 13 点以上 | 37.5% |
| | | 13 点未満 | 16.5% |
| | 13 点未満 | 13 点以上 | 17.7% |
| | | 13 点未満 | 28.4% |

※割合は、出生月別の割合。

## (2)第 19 回調査時点の精神的健康と他変数との関連

第 19 回調査時点における精神的健康の粗点の平均値に関して、属性別の比較を行ったところ、性別と精神的健康の状況には関連がみられなかった。

図表 2-F-4 性別と第 19 回調査時点の精神的健康との関係

| 性別 | 第 19 回調査時点の精神的健康 | 検定結果 |
|---|---|---|
| 男性(n=8,759) | 13.5 | ns |
| 女性(n=9,303) | 13.6 | |

※検定は、等分散を仮定しない分散分析による平均値差の検定を行っている。(以下同様)

通学・就業状況別にみると、第 19 回調査時点で「通学中」の方の精神的健康の粗点の平均は 13.8 であるのに対して、「通学せず就業中」「通学も就業もしていない(進学準備中の方も含まれる)」方は 12.5 と低くなっている。

図表 2-F-5 通学・就業状況と第 19 回調査時点の精神的健康との関係

| 通学・就業状況 | 第 19 回調査時点の精神的健康 | 検定結果 |
|---|---|---|
| 通学中(n=13,955) | 13.8 | p<0.001 |
| 通学せず就業中(n=2,466) | 12.5 | |
| 通学も就業もしていない(n=1,635) | 12.5 | |

平日の睡眠習慣に関して、起床・就寝時間が一定でない方や睡眠時間が6時間未満の方では、精神的健康の粗点の平均がそれぞれ 13.0、13.2 となっており、7時間以上8時間未満程度睡眠をとっている方の 14.0 に対して、精神的健康状態が悪い傾向にある。

図表 2-F-6　平日の睡眠時間と第 19 回調査時点の精神的健康との関係

| 平日の睡眠時間 | 第 19 回調査時点の精神的健康 | 検定結果 |
|---|---|---|
| 6時間未満(n=2,450) | 13.2 | p<0.001 |
| 6時間以上7時間未満(n=4,130) | 13.5 | |
| 7時間以上8時間未満(n=4,486) | 14.0 | |
| 8時間以上(n=3,486) | 13.6 | |
| 不定(n=3,357) | 13.0 | |

※起きる時間及び寝る時間に関して、「午前5時～午前5時 29 分」等の範囲を持った選択肢に関しては、中央の時間を起きる時間及び寝る時間とみなして、その差を睡眠時間として算出。なお、起きる時間の「午前5時前」及び「午前9時以降」はそれぞれ「午前4時 30 分」、「午前 10 時」として、寝る時間の「午後9時前」及び「午前1時以降」はそれぞれ「「午後8時 30 分」、「午前2時」として算出。また、「起きる時間は決まっていない」または「寝る時間は決まっていない」と回答した方は、睡眠時間「不定」として算出(以下同様)。

父母の学歴別にみると、父母が「ともに大学等以外を卒業」している方の精神的健康の粗点の平均は 13.2 と、「ともに大学等を卒業」の方の 13.9 と比較して低くなっている。

図表 2-F-7　父母の学歴と第 19 回調査時点の精神的健康との関係

| 父母の学歴 | 第 19 回調査時点の精神的健康 | 検定結果 |
|---|---|---|
| ともに大学等を卒業 (n=5,441) | 13.9 | p<0.001 |
| いずれかが大学等を卒業 (n=5,386) | 13.6 | |
| ともに大学等以外を卒業 (n=7,122) | 13.2 | |

## (3)精神的健康における個人内での時点間の変動

精神的健康に関して、第 21 回調査における粗点と第 19 回調査における粗点の差(第 21 回の粗点-第 19 回の粗点)の値について、属性別に比較を行った。

属性別にみると、第 21 回調査の粗点と第 19 回調査の粗点の差は、女性では-0.5 となっており、男性と比較して、精神的健康状況の悪化の程度が大きかった。

図表 2-F-8 性別と精神的健康の変動との関係

| 性別 | 精神的健康<br>第 21 回と第 19 回の差 | 検定結果 |
|---|---|---|
| 男性(n=8,759) | -0.2 | p<0.001 |
| 女性(n=9,303) | -0.5 | |

※第 21 回調査の粗点と第19回調査の粗点の差が正規分布に従うと仮定し、属性別にその差の平均値に有意な差があるか、検定を行った(以下同様)。なお、検定は、等分散を仮定しない分散分籍による。

通学・就業状況についてみると、第19回時点で「通学中」だった方で、第 21 回時点で「通学せずに就業中」または「通学も就業もしていない」状態に変化した方は、精神的健康状態が大きく悪化していた。第 19 回時点で「通学も就業もしていない」方のうち、第 21 回時点に「通学中」に状態が変化した方では精神的健康状態が改善し、「通学せずに就業中」に状態が変化した方では、精神的健康状態が悪化していた。

図表 2-F-9 通学・就業状況と精神的健康の変動との関係

| 通学・就業状況 | | 精神的健康<br>第 21 回と第 19 回の差 | 検定結果 |
|---|---|---|---|
| 第 19 回 | 第 21 回 | | |
| 通学中 | 通学中(n=11,444) | -0.2 | p<0.001 |
| | 通学せず就業中(n=2,239) | -1.7 | |
| | 通学も就業もしていない(n=254) | -0.8 | |
| 通学せず就業中 | 通学中(n=101) | +0.1 | ns |
| | 通学せず就業中(n=2,221) | -0.4 | |
| | 通学も就業もしていない(n=140) | -0.1 | |
| 通学・就業なし | 通学中(n=1,178) | +0.8 | p<0.001 |
| | 通学せず就業中(n=208) | -0.9 | |
| | 通学も就業もしていない(n=246) | +0.2 | |

睡眠時間との関連をみると、第19回時点で平日の睡眠時間が「不定」だった方のうち、第 21 回時点でも「不定」だった方は、第 21 回時点で「一定」に変わった方と比較して精神的健康状態の悪化の程度が大きかった。

また、平日の睡眠時間が第 19 回及び第 21 回調査で「一定」だった方に関して、その期間で平日の睡眠時間が1時間以上減少した方は、第 21 回と第 19 回調査での精神的健康の粗点の差が-0.6 となっており、睡眠時間が1時間以上変わらなかった方や増加した方と比較して、精神的健康状態の悪化の程度が大きかった。

図表 2-F-10 平日の睡眠時間と精神的健康の変動との関係

| 平日の睡眠時間 | | 精神的健康<br>第 21 回と第 19 回の差 | 検定結果 |
|---|---|---|---|
| 第 19 回 | 第 21 回 | | |
| 一定 | 一定(n=11,980) | -0.3 | ns |
| | 不定(n=2,422) | -0.4 | |
| 不定 | 一定(n=1,725) | -0.2 | p<0.05 |
| | 不定(n=1,595) | -0.6 | |

※「起きる時間は決まっていない」または「寝る時間は決まっていない」と回答した方を、睡眠時間が「不定」、それ以外の方は「一定」として算出。

図表 2-F-11 平日の睡眠時間と精神的健康の変動との関係

| 平日の睡眠時間<br>第 21 回と第 19 回の差 | 精神的健康<br>第 21 回と第 19 回の差 | 検定結果 |
|---|---|---|
| 1時間以上減少<br>(n=2,824) | -0.6 | p<0.01 |
| ±1時間未満の変動<br>(n=6,164) | -0.3 | |
| 1時間以上増加<br>(n=2,992) | -0.1 | |

※第 19 回調査及び第 21 回調査のどちらにおいても、睡眠時間が一定の方を対象に算出。

## 3. 小括

本稿では、大学生世代の方の精神的健康状態について、基礎的な分析を行った。精神的健康を尋ねる設問（WHO-5）への回答に関して、WHOが「大うつ病（ICD-10）調査表（Major Depression Inventory）を実施することを推奨する」基準に該当する方は、第 19～21 回調査で 55～56%となっており、日本の若者の精神的健康状態が、非常に低い水準にあることが明らかになった。

WHO-5 の採点方法に基づき、精神的健康に関する粗点を0～25 点（粗点が高い方が状態が良好）で算出したところ、第 19 回調査（2020 年に調査実施）では、7月出生児（7月に調査実施）の粗点の平均値は 13.0 と、1月出生児（1月に調査実施）の 14.1 と比較して低くなっていた。また、7月出生児では、第 19 回調査及び第 21 回調査時点において粗点がともに 13 点未満である方の割合が 28.4%となっており、1月出生児の 23.6%と比較して高くなっている。7月出生児の多くの方が高校等を卒業し、大学等に進学した時期（2020 年の3～4月）と、新型コロナウイルス感染症の拡大時期が重なったことや、調査時期が出生月別に異なることが、精神的健康状態の差異に影響した可能性がある。

第 19 回調査時点における精神的健康状態について、属性別にみると、第 19 回調査時点で「通学せずに就業中」または「通学も就業もしていない」方は、「通学中」であった方と比較して、精神的健康状態が低くなっている。平日の睡眠時間が一定でない方や、6時間未満である方、父母が「ともに大学等以外を卒業」している方は、そうでない方と比較して精神的健康状態が低い傾向にある。

精神的健康に関して、第 19 回調査から第 21 回調査における変化について属性別の傾向をみたところ、女性では、男性と比較して精神的健康状態が悪化する傾向にあった。また、通学・就業状況別にみると、第19回時点で「通学中」だった方で、第 21 回時点で「通学せずに就業中」または「通学も就業もしていない」状態に変化した方は、精神的健康状態が大きく悪化し、第 19 回時点で「通学も就業もしていない」方のうち、第 21 回時点に「通学中」に状態が変化した方では精神的健康状態が改善していた。加えて、不規則な睡眠習慣や睡眠時間の減少と、精神的健康状態の悪化に関連がみられた。

# Ⅲ　回顧的な調査項目に関する予備調査の実施

## 1. 検討・実施事項の概要

### (1)目的

家庭・学校・就業など、現代の若者を取り巻く多種多様な生活環境に関する事項を把握することで、子供の成長過程を把握し、今後の施策の検討に活用することを目的としてアンケート調査(「若者の生活や意識に関する調査」[41])を実施した。

この調査で得られた結果は、21 世紀出生児縦断調査に関して検討を行う上でも有用であることから、調査データを活用して、回顧法による調査項目の活用などについて検討を行った。

### (2)「若者の生活や意識に関する調査」の概要

①調査の対象

令和 6 年 1 月 1 日時点で満 25 歳である全国にお住まいの方 2,000 人。

(ただし、当初抽出していた石川県在住の対象者には調査票の送付を行わなかったことから、調査票の配付数としては 1,900 人。)

②抽出方法

無作為抽出法により、全国の自治体の住民基本台帳から対象者を抽出。

③調査の期間

令和 6 年 1 月 9 日～令和 6 年 1 月 31 日

④調査・回答の方法

郵送配布・インターネットまたは郵送回収。

[41] 調査票と単純集計表を本報告書巻末に「参考資料」として示した。

⑤回収数・回収率

回収数・回収率は次の図表 3-1-1 のとおりである。

なお、回収数のうち、郵送回収での件数は 127 件、インターネット(WEB)回答での件数が 232 件であった。また、インターネット(WEB)回答のうち、219 件はスマートフォン端末での回答であった。

図表 3-1-1 「若者の生活や意識に関する調査」の回収数・回収率

| 配付数 | 回収数 | 回収率 |
|---|---|---|
| 1,900 | 359 | 18.9% |

## (3)主な検討事項

「若者の生活や意識に関する調査」の調査データを活用して、主に次の点について検討を行った。

①回答者(25 歳の方)の状況把握

②過去の教育経験等に関する回答の把握

③尺度作成の検討

④項目間の関連性の把握

①<u>回答者(25 歳の方)の状況把握</u>

平成 13 年児縦断調査の今後の項目検討を行うにあたり、「若者の生活や意識に関する調査」で回答を得た、満 25 歳の方が現在どのような状況にあるのかの情報を参照した。

婚姻の有無や仕事の状況、生活満足等の状況など、平成 13 年児縦断調査で今後 25 歳(以降)の年齢段階の方を調査対象にするにあたり、着目すべき調査・分析テーマになりうる内容の調査項目について回答分布等の把握を行った。

②<u>過去の教育経験等に関する回答の把握</u>

「若者の生活や意識に関する調査」では、回顧法により、小学校・中学校・高校の各段階における教育経験等に関する情報を把握した。

また、これらの調査項目には原則として「わからない・覚えていない」の選択肢を設けているが、この選択肢に対する回答割合がどの程度であるか、また、設定した調査項目の中でも特に割合が高くなってい

る項目の内容を把握し、21 世紀出生児縦断調査において同様の項目設定を行う際に項目精査ができるよう、検討を行った。

③尺度作成の検討

「若者の生活や意識に関する調査」には、いくつかの点において尺度を作成して分析を行うことが想定されているものがあることから、「若者の生活や意識に関する調査」のデータによって、尺度作成の検討を行った。

項目間の相関関係の把握や、因子分析、信頼性係数などについて集計・分析を行い、項目精査の考え方等について検討を行った。

④項目間の関連性の把握

上述の通り、「若者の生活や意識に関する調査」では、過去の教育経験等に関して回答が得られており、また、いくつかの点について平成 13 年児縦断調査と同一の項目設定が行われている。本調査研究では、「若者の生活や意識に関する調査」で得られた調査データを用いて、平成 13 年児縦断調査においても実施することが想定される分析内容の一部に関して、集計・分析を行った。

「若者の生活や意識に関する調査」はサンプルサイズが大きくないことや、平成 13 年児縦断調査がパネル調査であるのに対して「若者の生活や意識に関する調査」は 1 時点の横断的な調査であるという違いがあり、集計・分析手法上の限界はあるが、関連性が予想される項目間・指標間の集計・分析を行い、基礎的な情報として整理した。

## (4)その他の検討・確認事項

①回答者属性の偏りについて

「若者の生活や意識に関する調査」の回答者に関する基本属性として、性別の回答分布は、「男性」が 34.5%(124 件)、「女性」が 65.2%(234 件)(「無回答」が 0.3%(1 件))であった。調査対象者の抽出時点では男性 52.1%(990 件)、女性 47.9%(910 件)であったことから、「男性」の回収率がより低くなっており、データにおいて、回答者属性として偏りが生じている。

本稿で示している集計・分析結果ではこの点について原因の検討・特定や補正等は行っていないが、今後平成 13 年児縦断調査の継続を検討する中では、性別等の要因により回答者属性の偏りがより大きくなっていく可能性がある点にも留意が必要である。

②各調査項目における「無回答」等の発生割合について

各調査項目において「無回答」（または「無効回答」）であった件数・割合を確認すると、調査票の問 10 で「あなたの現在の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問で、無回答者は 18 件（5.0％）であった。この項目は平成 13 年児縦断調査と同様の聞き方をしていたものであったが、選択肢の順番として在学しているか否かをまず尋ねる形になっており、多くの方が就業をしている年齢段階における調査項目としては回答がしにくいものになっていた可能性がある。

また、次いで「無回答」等の件数が多かった調査項目は問 11 で「あなたは、これまでに学校をやめた経験（中退した経験）がありますか。経験がある場合、あてはまる学校の番号すべてに○をつけてください。」と尋ねた設問で、「無回答」が 9 件（2.5％）であった。この設問では「ない」を最初の選択肢にするようにしていたが、複数回答形式での尋ね方がわかりづらかった可能性がある。また、前問が分岐を伴う形の設問であったため、次にどの調査項目に回答すべきかのガイダンスがわかりづらかった可能性もあると考えられ、このような点にも工夫・留意が必要であったと考えられる。

## 2. 回答者の現在の状況について

### (1)婚姻の有無・子どもの有無

調査票の問 2 で「配偶者はいますか。」と尋ねた設問で、「いる」の回答割合は 16.4%であった。また、調査票の問 3 で「お子さんはいますか。」と尋ねた設問で「いる」の回答割合は 9.2%であった。

これらのように、25 歳の年齢段階においては結婚・出産・子育てなどのライフイベントが発生する(既に発生している)方が一定割合で生じており、平成 13 年児縦断調査においては、これらのことを踏まえた調査項目設定をしていくことが重要になると考えられる。

### (2)現在の状況

調査票の問 10 で「あなたの現在の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問では、「在学しておらず、就業(常勤の仕事)をしている」の回答割合が 71.0%、「在学しておらず、パート・アルバイト(非常勤の仕事)をしている」の回答割合が 9.2%となっており、8 割以上が就業している状況にある。「在学していて、働いていない」と「在学しながら、パート・アルバイト(非常勤の仕事)をしている」の回答割合はそれぞれ 1.9%であった。

図表 3-2-1 「現在の状況」についての回答分布

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 在学していて、働いていない（「2」や「3」の選択肢のように働いていない） | 7 | 1.9 |
| 在学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている | 7 | 1.9 |
| 在学しながら、就業（常勤の仕事）をしている | 6 | 1.7 |
| 在学しておらず、就業（常勤の仕事）をしている | 255 | 71.0 |
| 在学しておらず、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている | 33 | 9.2 |
| 在学も就業もしていない | 17 | 4.7 |
| 公共職業能力開発施設等で訓練している（海上技術学校、准看護師学校養成所などの教育訓練機関を含みます。） | 1 | 0.3 |
| その他（進学又は就職準備、病気やけがの療養中などです。） | 15 | 4.2 |
| 無回答 | 18 | 5.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

上述の通り、この調査項目については「無回答」が 5.0%発生しており、選択肢の設定の仕方等については、検討・工夫の余地があるものと考えられる。なお、「若者の生活や意識に関する調査」では、問 10 とは別に問 13 で「現在のあなたの就業状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた

設問を設定しており、「勤め（正規の社員・職員で常勤）」の回答割合が79.9％（全回答者に占める割合としては 65.5％）という結果も得られている。平成 13 年児縦断調査においては、この問 13 のように就業状況を尋ねる設問をベースとして現在の状況を尋ねる形に、設問の形式を変更するということが考えられる。

## （3）仕事の状況

### ①仕事をやめた経験、転職の回数

調査票の問 12 で「あなたは、これまでに仕事をやめた経験がありますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。」と尋ねた設問で、「仕事をやめた経験がある」の回答割合は 31.5％であった。また、問 14 で「あなたはこれまで、転職（勤め先や勤務形態の変更等）を経験したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問で「1 回経験した」の回答割合は 17.7％、「2 回経験した」の割合は 8.8％、「3 回経験した」の割合は 1.7％、「4 回以上経験した」の割合は 4.1％であった。

現在働いている方のうち約 15％が複数回の転職を経験したという回答結果となっているが、例えばこのような状況を不安定な就労状況にあると捉え、属性や教育経験等との関連性を分析するということが考えられる。

### ②1 週間の労働時間

調査票の問 16 で「ふだんの 1 週間の労働時間であてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問では、「40 時間～60 時間未満」の回答割合が 62.9％、「20 時間～40 時間未満」の割合が 25.2％、「60 時間以上」の割合が 6.1％であった。

この回答結果から、例えば「60 時間以上」に該当する場合を長時間労働の状況にあると捉え、属性や教育経験等との関連性を分析するということが考えられる。

他方で、この調査項目は 21 世紀出生児縦断調査と同様の聞き方をしたものであるが、「40 時間～60 時間未満」の選択肢において時間幅が広いため、労働時間の長さに着目した分析が検討しづらいという制約もある。選択肢を 20 時間単位で区切るのではなく 10 時間単位で設定するようにするなど、検討・工夫の余地があるものと考えられる。

また、例えば、近年の 21 世紀成年者縦断調査では、就業時間等について、1 週間の就業日数と終業時間を数値で回答させる形式をとっている（図表 3-2-2）。このような形で詳細に情報を得る方法も想定される。

図表 3-2-2 就業時間(労働時間)を尋ねる質問方法例

問　就業時間等についてお答えください。勤務日数と終業時間については、複数の仕事についている場合、それらを合計のうえ記入してください。

1 週間の勤務日数　通常 [　　] 日　　平均的な 1 週間の就業時間 [　　] 時間

注:就業時間は、ふだんの 1 週間の就業時間を記入してください。また、ふだん残業している場合は、残業時間も含めて記入してください。

(記入例:1 日 8 時間、週 5 日働いた場合は、勤務日数 5 日、就業時間 40 時間となります。)

出所:第 12 回 21 世紀成年者縦断調査【平成 24 年成年者】の調査票を基に作成

③就労収入

調査票の問 17 で「あなたの働いて得た収入(税込み)についておたずねします。令和5年(2023 年)1 月から 12 月の 1 年間の金額について、あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問では、「350 万円以上 400 万円未満」の回答割合が最も高く 17.3%、次いで「300 万円以上 350 万円未満」の回答割合が 16.0%という結果であった。

「若者の生活や意識に関する調査」では 50 万円単位で区切って選択肢を設定し、最も高い金額の選択肢としては「500 万円以上」としていたが、この選択肢の回答割合は 7.1%であり、極端に回答割合が高い/低いということはなかった。年齢段階がより高くなった場合には再度選択肢の区分の方法を検討する必要があるが、25 歳の年齢段階を対象とする調査としては、選択肢の幅の設定について妥当なものであったと考えられる。

④就業継続意識

調査票の問 18 で「あなたはいつまで就業先の企業等で働き続けたいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問では、「2・3 年は働き続けたい」の回答割合が最も高く 27.6%、次いで「5 年は働き続けたい」の割合が23.1%、「すぐにでも退職したい」の割合が 21.8%であった。

この回答結果から、例えば「すぐにでも退職したい」と回答している場合に着目し、就労条件や職場の雰囲気、教育経験等との関連性を分析するということが考えられる。

他方で、この調査項目において「2・3 年は働き続けたい」の回答割合が全体の中で最も高いという結

果についてどのような解釈を行うかについては、分析を行う際に別途検討の余地があると考えられる。

⑤学校教育との接続等

調査票の問 21 で「あなたの現在の仕事や職場について、以下のことはどれくらいあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください」と尋ねた設問において、「現在の仕事は、学校で学んだことが生かせる」の項目については「あまりあてはまらない」の回答割合が最も高く 26.9%、次いで「ややあてはまる」の回答割合が 26.5%であった。また、「現在の職場は、自分の能力を発揮できる」の項目については、「ややあてはまる」の回答割合が最も高く 53.7%、次いで「とてもあてはまる」が 20.7%であった。

自身の能力が発揮できるという認識に比べると、学校で学んだことが生かせるという認識は持たれていないという結果であるが、そのような中でも「学んだことが生かせる」と回答する者はどのような状況・条件にある者であるのかに着目し、教育経験や職種等との関連性を分析するということが考えられる。

## (4)母親・父親との同居の有無

調査票の問 50 で「あなたは現在、母親・父親と同じ家に住んでいますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問において、「同じ家に住んでいる」の回答割合は、母親については 39.0%、父親については 30.1%であった。

21 世紀出生児縦断調査は従来保護者と子供の調査票がセットになるように配付・実施されてきたが、今後はそれぞれ別々の場所に居住していることが多くなり、より回答協力が得られにくくなったり、保護者と子供の回答の対応関係が把握しづらくなったりすることがあると想定される。このような状況を踏まえての検討も必要になると考えられる。

## (5)生活満足度

調査票の問 6 で「あなたは、次のことについて現在どれくらい満足していますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。」と尋ねた設問において、「生活全般」については「どちらかといえば満足している」の回答割合が最も高く 49.0%、次いで「どちらともいえない」の回答割合が 20.6%であった。

ウェルビーイングに関連する指標として、どのような状況・条件にある者でより「満足している」の回答割合が高くなる傾向にあるのかについて分析を行うことが想定される。

## 3. 過去の教育経験等

### (1)「わからない・覚えていない」の回答割合

調査票では、問 22～問 29 で通っていた小学校のことについて、問 30～問 40 で通っていた中学校のことについて、問 41～問 49 で通っていた高校のことについて、回顧法による調査項目を設定し、過去を振り返る形での回答を得た。

各調査項目においては原則として「わからない・覚えていない」の選択肢を設定したが、上記の問 22～問 40 の調査項目のうち、この割合が最も高かったのは、問 26 として小学 6 年生の時の小学校の様子を尋ねた設問の中の「クラスがうまくいかない時みんな心配した」の項目で、19.2%であった。次いで高かったのは、問 28 で小学 6 年生の時に「ためになると思える授業がたくさんあった」と考えていたか否かに関する項目で、「わからない・覚えていない」の回答割合は 15.0%であった。

各学校段階別、調査項目別に「わからない・覚えていない」の回答割合を整理したものが次の図表 3-3-1・図表 3-3-2 である。「通っていた学校での様子」を尋ねる項目では中学校段階よりも小学校段階に関して回答割合が高い傾向にあるが、「授業での経験」を尋ねる項目については必ずしもそのようになっていない。また、高校段階に比べて中学校段階のほうが「わからない・覚えていない」の割合が高いというわけではないということもわかる。

このように、「わからない・覚えていない」の回答割合が特に高くなる項目もある。特に主語が自身以外のことを尋ねられている項目や、場面の想起が容易でない内容を尋ねられた場合に回答が難しくなっていると考えられることから、回顧法での設問設定にあたってはこれらのような点に留意を要する。

図表 3-3-1 各調査項目における「わからない・覚えていない」の回答割合・一覧①

| 調査項目 | | 小学校 | 中学校 | 高校 |
|---|---|---|---|---|
| 住んでいたところ | | 1.1% | | |
| 児童数／生徒数 | | 3.9% | 7.0% | |
| 1 学年のクラス数 | | 2.8% | 3.3% | |
| 学校の進学率 | | | | 5.6% |
| 学年の中での成績 | | | 3.9% | 3.1% |
| 得意な教科 | 国語 | | 1.4% | 2.3% |
| | 社会（地理歴史・公民） | | 1.4% | 2.3% |
| | 数学 | | 0.8% | 2.0% |
| | 理科（物理・化学・生物・地学等） | | 1.1% | 2.5% |
| | 外国語（英語等） | | 1.1% | 2.0% |

図表 3-3-2 各調査項目における「わからない・覚えていない」の回答割合・一覧②

| 調査項目 | | 小学校 | 中学校 | 高校 |
|---|---|---|---|---|
| 女性の先生の担任 | 国語 | | 13.6% | 10.2% |
| | 社会（地理歴史・公民） | | 11.1% | 10.2% |
| | 数学 | | 10.3% | 10.7% |
| | 理科（物理・化学・生物・地学等） | | 11.7% | 12.4% |
| | 外国語（英語等） | | 10.0% | 11.6% |
| 学校の雰囲気 | | | 10.0% | 4.2% |
| 通っていた学校での様子 | クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 14.2% | 8.6% | |
| | クラスがうまくいかない時みんな心配した | 19.2% | 12.8% | |
| | クラスでは、もめごとが少なかった | 9.7% | 8.4% | |
| | クラスがばらばらになる雰囲気があった | 11.4% | 10.0% | |
| | クラスでは、心から楽しめた | 5.3% | 5.8% | |
| | クラスが気に入っていた | 8.1% | 6.4% | |
| | 個人的な問題を安心して話せた | 13.6% | 7.8% | |
| | 自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 12.8% | 8.1% | |
| | クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 11.7% | 8.1% | |
| | クラスは、勉強熱心だった | 13.9% | 10.0% | |
| | クラスは、規則を守っていた | 8. 4% | 8.4% | |
| | クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 10.0% | 9.2% | |
| 授業での経験 | パソコンやタブレット（iPad など）を使う | 4.5% | 7.2% | |
| | 観察・実験や調査などで考えを確かめる | 7.5% | 8.4% | |
| | 調べたり考えたりしたことを発表する | 6.4% | 8.4% | |
| | テーマについて討論（話し合い）をする | 8.6% | 9.2% | |
| | 学校の先生以外の人の話を聞く | 7.8% | 9.7% | |
| | ドリルやプリントの問題を解く | 4.2% | 5.6% | |
| | 確認テストや小テストを受ける | 4.2% | 4.5% | |
| 学校生活についての認識 | ためになると思える授業がたくさんあった | 15.0% | 7.0% | |
| | 楽しいと思える授業がたくさんあった | 9.2% | 7.0% | |
| | 学校の勉強は将来役に立つと思った | 9.5% | 6.4% | |
| | 授業の内容をよく理解できていた | 6.4% | 4.5% | |
| | 先生との関係はうまくいっていた | 6.1% | 6.1% | |
| | 先生は信頼できた | 5.8% | 7.0% | |
| 通塾等 | 通塾等の有無・種類 | 5.3% | 4.5% | |
| | 通塾等の目的 | 3.2% | 0.0% | |
| | 通塾等の日数 | 12.2% | 7.6% | |

## (2)学校をやめた経験

調査票の問11で「あなたは、これまでに学校をやめた経験(中退した経験)がありますか。経験がある場合、あてはまる学校の番号すべてに○をつけてください。」と尋ねた設問で、「ない」の回答割合と、「無回答」であった割合を除くと、いずれかの学校段階でやめた経験(中退した経験)があると回答された割合は 7.2%であった。

この結果は、本報告書において別途 21 世紀出生児縦断調査のデータを用いて検討を行った集計・分析よりも高い割合となっている。21 世紀出生児縦断調査のデータを用いて検討を行ったものは実態よりも過少になっている可能性があることも注にて示していたが、あらためてすべての調査対象者に対して回顧的に尋ねる項目を設定することで、学校をやめた経験(中退した経験)をより実態に近い形で把握できる可能性がある。

図表 3-3-3 「学校をやめた経験」の回答分布

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| ない | 324 | 90.3% |
| 高等学校（中等教育学校後期課程を含みます） | 7 | 1.9% |
| 専修学校・各種学校 | 3 | 0.8% |
| 高等専門学校 | 1 | 0.3% |
| 短期大学 | 1 | 0.3% |
| 大学 | 13 | 3.6% |
| 大学院 | 1 | 0.3% |
| その他（外国の学校など） | 1 | 0.3% |
| 無回答 | 9 | 2.5% |
| 合計 | 359 | |

## (3)逆境体験

### ①家庭内での経験

調査票の問 52 では、「あなたは今までに以下のような出来事を経験したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。」と尋ねた設問において、親や自分自身に起きた逆境的な経験の有無について把握ができるようになっている。14 個の選択肢のうち回答割合が最も高いのは「親が手術や長期療養を要する病気・ケガをした」で 23.1%、次いで「親が離婚した」が 18.7%、「自分が手術や長期療養を要する病気・ケガをした」の割合が 10.6%となっている。「該当するものはない」の回答割合は 46.0%であった。

上記のように、例えば「親の離婚」については比較的多くの割合で発生しうるもので、かつ、子供の成育等に対して大きな影響を与えるものであると考えられるが、21 世紀出生児縦断調査では親の離婚や死別の状況について、必ずしも明確に情報把握ができる項目設定がされてこなかった。回顧的な設問により、

これらのように家庭内で親・自分自身に起きた逆境的な経験の有無や内容について把握する項目を設定することは、分析を行う上で有用になるのではないかと考えられる。また、該当するものがある場合には、それぞれ年齢段階等、いつの時期に発生したかについても尋ねることで、より有用な情報を得られるようになると考えられる。

なお、14 個の選択肢のうち該当個数をカウントすると、複数該当する者の割合は 24.9%、最大値は 5 個、という結果であった。

図表 3-3-4 親や自分自身に起きた逆境的な経験の回答分布

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 親が失業した／親が事業で失敗した | 29 | 8.1% |
| 親が離婚した | 67 | 18.7% |
| 親が再婚した | 22 | 6.1% |
| 親が大きな事故にあった | 9 | 2.5% |
| 親が手術や長期療養を要する病気・ケガをした | 83 | 23.1% |
| 親が亡くなった | 14 | 3.9% |
| きょうだいや親しい友人が亡くなった | 20 | 5.6% |
| 自分が補導・逮捕された | 12 | 3.3% |
| 自分が離婚した | 1 | 0.3% |
| 自分が大きな事故にあった | 8 | 2.2% |
| 自分が手術や長期療養を要する病気・ケガをした | 38 | 10.6% |
| 自分が暴行・強盗・恐喝などの犯罪被害にあった | 7 | 1.9% |
| 自分が大きな災害にあった | 13 | 3.6% |
| 該当するものはない | 165 | 46.0% |
| 無回答 | 6 | 1.7% |
| 合計 | 359 | |

図表 3-3-5 親や自分自身に起きた逆境的な経験の有無・該当個数

| | 0 個 | 1 個 | 2 個 | 3 個 | 4 個 | 5 個 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 割合(n=353) | 46.7% | 28.3% | 16.4% | 5.1% | 2.0% | 1.4% |

※無回答であった場合は集計から除いている

### ②学校での経験

調査票の問 53 では、「あなたは今までに、学校での経験として以下のようなことを経験したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。」と尋ねた設問において、いじめに関する経験や不登校、留年に関する経験の有無が把握できるようになっている。7 個の選択肢が設定されているが、「自分が学校でいじめを受けた」の回答割合は 35.1%、「自分が学校でいじめをした(いじめに加担した)」が 12.3%、「自分が小学生の時に不登校を経験した」が 3.1%、「自分が中学生の時に不登校を経験した」が 6.1%、「自分が高校生の時に不登校を経験した」が 3.1%となっており、それぞれ一定割合で回答が

出現している。なお、「該当するものはない」の回答割合は 52.4％であった[42]。

なお、「自分が学校でいじめを受けた」の回答と「自分が学校でいじめをした（いじめに加担した）」の回答についてクロス集計を行うと、いじめを受けた経験がある者のうち、2 割以上は「いじめをした（いじめに加担した）」とも回答していた。

これらのいじめの経験や不登校経験については 21 世紀出生児縦断調査ではこれまでに状況把握ができる項目設定がされていない。回顧的な形でこれらの経験の有無について把握する項目を設定することは、分析を行う上で有用になるのではないかと考えられる。

また、いじめの経験に関して、「若者の生活や意識に関する調査」では、どの学校段階で受けたかについては尋ねていないが、この点についてより詳細に把握する形で項目設定することも考えられる。不登校経験に関しても、該当する者については、具体的な学年・時期や期間等についても尋ねることで、より有用な情報を得られるようになると考えられる。

図表 3-3-6 学校での経験に関する回答分布

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 自分が学校でいじめを受けた | 126 | 35.1% |
| 自分が学校でいじめをした（いじめに加担した） | 44 | 12.3% |
| 自分が小学生の時に不登校を経験した | 11 | 3.1% |
| 自分が中学生の時に不登校を経験した | 22 | 6.1% |
| 自分が高校生の時に不登校を経験した | 11 | 3.1% |
| 自分が高校生の時に留年した | 1 | 0.3% |
| 自分が大学・短大・専門学校などの学生の時に留年した | 25 | 7.0% |
| 該当するものはない | 188 | 52.4% |
| 無回答 | 7 | 1.9% |
| 合計 | 359 | |

図表 3-3-7 「いじめを受けた」と「いじめをした（いじめに加担した）」の回答の重なり

| | | いじめをした（いじめに加担した）経験 | |
|---|---|---|---|
| | | 非該当 | 該当 |
| いじめを受けた経験 | 非該当（n=226） | 93.8% | 6.2% |
| | 該当　（n=126） | 76.2% | 23.8% |

※無回答であった場合は集計から除いている

[42] 東京大学「教育と仕事に関する全国調査（教育・社会階層・社会移動全国調査，ESSM2013）」では、調査対象の年齢層が異なり、また、「中学生の時」と限定した形ではあるが、「自分自身に対するいじめ」があったとする割合は 10.8%という結果となっている。OECD 社会情動スキル調査（Survey on Social and Emotional Skills（SSES））や国立教育政策研究所「いじめ追跡調査」では、「からかわれた経験」等についても調査が行われており、その該当割合は 10%よりも高い結果となっている。

## 4. 尺度作成の検討

### (1)ウェルビーイングの要素に対応する項目

上述の通り、ウェルビーイングに関連する指標として、調査票問 6 で設定している項目のうち「生活全般」の満足度に関する回答データを活用することが想定されるが、このほか、調査票問 7 では「人が困っているときは進んで助けている」など、「教育振興基本計画」で「日本社会に根差したウェルビーイングの要素」として示されているいくつかの要素に対応する項目が設定されている。

問 7 の 8 個の項目については、個別の項目に着目していくことも想定されるが、これらの項目を基にウェルビーイングに関連する指標を作成して分析に用いることも考えられる。指標化の検討のため、8 個の項目間の相関係数を算出すると、次の図表 3-4-1 のようになる。相関関係はいずれも正の関係であるが、相対的に相関係数が大きい 0.300 以上の関係に着目すると、大きく①～⑤の項目のまとまりと、⑥～⑧の項目のまとまりにわかれることがわかる。

図表 3-4-1 日本社会に根差したウェルビーイングの要素に対応する調査項目間の相関係数

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①人が困っているときは進んで助けている | | .534 | .121 | .313 | .163 | .247 | .236 | .311 |
| ②人の役に立つ人間になりたいと思う | | | .081 | .446 | .308 | .274 | .266 | .276 |
| ③今住んでいる地域の行事に参加している | | | | .347 | .083 | .233 | .215 | .063 |
| ④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う | | | | | .368 | .247 | .130 | .182 |
| ⑤自分と違う意見について考えるのは楽しい | | | | | | .237 | .121 | .227 |
| ⑥将来の自分の仕事や生活に希望がある | | | | | | | .554 | .448 |
| ⑦普段の生活の中で幸せな気持ちになることがよくある | | | | | | | | .592 |
| ⑧あなたの良いところを認めてくれる人がいる | | | | | | | | |

※便宜的に、相対的に相関係数が大きい 0.300 以上の関係に色を塗った。

8 項目を用いて因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行うと、固有値が1以上の因子数は 3 つであった（図表 3-4-2）。ただし、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目は、第 2 因子と第 3 因子の両方で因子負荷量が大きいという結果となっている。この項目を除いて再度因子分析を行うと、同様に 3 つの因子が抽出されたが、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の項目は第 2 因子において因子負荷量が高くなり、第 3 因子について因子負荷量が高いのは「今住んでいる地域の行事に参加している」の 1 項目のみという結果となった。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目を除いた 7 項目で因子分析を行うと、固有値が1以上の因子数は 2 つになった（図表 3-4-3）。

図表 3-4-2 日本社会に根差したウェルビーイングの要素に対応する調査項目の因子分析（8 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | | |
|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| 問7⑦普段の生活の中で幸せな気持ちになることがよくある | 0.884 | -0.023 | -0.012 |
| 問7⑧あなたの良いところを認めてくれる人がいる | 0.635 | 0.107 | 0.009 |
| 問7⑥将来の自分の仕事や生活に希望がある | 0.601 | 0.029 | 0.138 |
| 問7②人の役に立つ人間になりたいと思う | -0.007 | 0.899 | -0.056 |
| 問7①人が困っているときは進んで助けている | 0.090 | 0.596 | -0.036 |
| 問7④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う | -0.084 | 0.107 | 0.907 |
| 問7③今住んでいる地域の行事に参加している | 0.195 | -0.189 | 0.442 |
| 問7⑤自分と違う意見について考えるのは楽しい | 0.048 | 0.206 | 0.259 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

図表 3-4-3 日本社会に根差したウェルビーイングの要素に対応する調査項目の因子分析（7 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問7⑦普段の生活の中で幸せな気持ちになることがよくある | 0.925 | -0.113 |
| 問7⑧あなたの良いところを認めてくれる人がいる | 0.651 | 0.081 |
| 問7⑥将来の自分の仕事や生活に希望がある | 0.595 | 0.107 |
| 問7②人の役に立つ人間になりたいと思う | 0.014 | 0.782 |
| 問7④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う | -0.054 | 0.609 |
| 問7①人が困っているときは進んで助けている | 0.071 | 0.590 |
| 問7⑤自分と違う意見について考えるのは楽しい | 0.026 | 0.410 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

このような関係を把握した上で、①・②・④・⑤の 4 項目について信頼性係数（Cronbach のアルファ）を算出したところ、0.682 であった。どの項目を用いて指標とするかは集計・分析を行う上での判断になるが、これらの項目を用いることで、「地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「社会貢献意識」などの要素を反映した指標を作成することができると考えられる。より多面的な観点からウェルビーイングについて把握・測定することを検討する上で、これらの項目・指標は有用になるものと考えられる。

また、⑥～⑧の 3 項目についての信頼性係数は 0.764 であった。これらの項目を用いることで、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「サポートを受けられる環境」などの要素を反映した指標を作成することができると考えられる。

## (2)仕事に対する満足度

調査票の問19では、「あなたは、次のことについて現在どれくらい満足していますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。」として、仕事・働き方等の満足度を尋ねる 7 個の項目が設定されている。

各項目を個別に分析に活用していくことも想定されるが、これらの項目を基に仕事に関する総合的な満足度指標を作成するということも考えられる。指標化の検討のため、7個の項目間の相関係数を算出すると、次の図表 3-4-4 のようになる。

相関関係はいずれも正の関係であり相関係数も比較的高いが、「給料」については他の項目との間の相関係数が相対的に小さい値になっている。

図表 3-4-4 仕事の満足度に関連する調査項目間の相関係数

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①現在の働き方 | | .543 | .472 | .215 | .357 | .295 | .362 |
| ②会社の事業の内容 | | | .583 | .308 | .315 | .338 | .423 |
| ③あなたの仕事の内容 | | | | .279 | .354 | .317 | .395 |
| ④給料 | | | | | .214 | .176 | .214 |
| ⑤労働時間 | | | | | | .546 | .298 |
| ⑥休暇の日数・とりやすさ | | | | | | | .391 |
| ⑦職場の人間関係 | | | | | | | |

このような関係を把握した上で、信頼性係数（Cronbach のアルファ）を算出したところ、①～⑦の７項目について係数 0.786 であった。ただし、④の「給料」の項目を除いた6項目での係数のほうが 0.795 と若干高くなることもわかった。どの項目を用いて指標とするかは集計・分析を行う上での判断になるが、これらの項目を用いることで、仕事に関する総合的な満足度指標を作成することができると考えられる。

### （3）学級風土

小学校段階に関しては調査票の問 26、中学校段階に関しては調査票の問 37 で、通っていた学校での様子を尋ねる 12 個の項目が設定されている。上述の通り、これらの項目は回顧的に尋ねたものであり、「わからない・覚えていない」の回答割合も高くなっているが、これらの項目の回答結果を活用することで、調査対象個々人が通っていた学校における学級風土の状況を把握することができると考えられる。

各項目について「わからない・覚えていない」の回答は除いたデータにより、小学生段階・中学生段階それぞれについて項目間の相関係数を算出すると、次の図表 3-4-5 のようになる。相対的に相関係数が大きい 0.600 以上の関係に着目すると、大きく①・②の項目のまとまりと、⑤～⑧の項目のまとまり、⑨～⑫の項目のまとまりにわかれることがわかる。

小学生段階・中学生段階のそれぞれについて 12 項目を用いて因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行うと、固有値が1以上の因子数は 2 つであった（図表 3-4-6、図表 3-4-7）。ただし、特に「クラスでは、もめごとが少なかった」や「クラスがばらばらになる雰囲気があった」の項目は第 1 因子・第 2 因子の両方で因子負荷量が大きい傾向にあり、また、「クラスでは、もめごとが少なかった」については小学生段階と中学生段階とで、どちらの因子の因子負荷量が大きいかの結果が異なっている。

この 2 項目を除いて 10 項目で再度因子分析を行うと、固有値が1以上の因子数は 2 つで、小学生、中学生の学級風土に関する項目の因子分析結果はそれぞれ図表 3-4-8、図表 3-4-9 のようになった。

このような関係を把握した上で、信頼性係数（Cronbach のアルファ）を算出したところ、①・②・⑤・⑥・⑦・⑧の 6 項目については小学校段階 0.900、中学校段階 0.910 であった。⑨～⑫の 4 項目については小学校段階 0.903、中学校段階 0.880 であった。

どの項目を用いて指標とするかは集計・分析を行う上での判断になるが、これらの結果を踏まえ、学級風土に関して、①・②・⑤・⑥・⑦・⑧「協力」や「信頼」、⑨～⑫については「勤勉性」や「規律」を反映する指標を作成することができると考えられる。

図表 3-4-5 学級風土に関連する調査項目間の相関係数

| 小学校 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | .574 | .330 | -.259 | .497 | .520 | .432 | .405 | .396 | .390 | .347 | .370 |
| ② | | | .452 | -.291 | .521 | .495 | .466 | .470 | .324 | .349 | .418 | .371 |
| ③ | | | | -.452 | .466 | .470 | .371 | .416 | .454 | .371 | .502 | .472 |
| ④ | | | | | -.363 | -.398 | -.319 | -.274 | -.340 | -.248 | -.330 | -.332 |
| ⑤ | | | | | | .886 | .659 | .669 | .381 | .344 | .417 | .371 |
| ⑥ | | | | | | | .678 | .696 | .404 | .413 | .428 | .403 |
| ⑦ | | | | | | | | .738 | .408 | .394 | .378 | .342 |
| ⑧ | | | | | | | | | .440 | .453 | .401 | .325 |
| ⑨ | | | | | | | | | | .731 | .695 | .710 |
| ⑩ | | | | | | | | | | | .620 | .624 |
| ⑪ | | | | | | | | | | | | .777 |
| ⑫ | | | | | | | | | | | | |
| 中学校 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
| ① | | .613 | .364 | -.339 | .471 | .442 | .427 | .412 | .386 | .385 | .256 | .381 |
| ② | | | .423 | -.318 | .537 | .519 | .505 | .547 | .355 | .365 | .281 | .370 |
| ③ | | | | -.489 | .492 | .507 | .461 | .493 | .435 | .308 | .371 | .419 |
| ④ | | | | | -.383 | -.413 | -.333 | -.372 | -.297 | -.183 | -.212 | -.279 |
| ⑤ | | | | | | .894 | .733 | .763 | .412 | .315 | .287 | .347 |
| ⑥ | | | | | | | .736 | .745 | .408 | .343 | .300 | .346 |
| ⑦ | | | | | | | | .837 | .390 | .319 | .282 | .348 |
| ⑧ | | | | | | | | | .397 | .366 | .300 | .353 |
| ⑨ | | | | | | | | | | .700 | .675 | .620 |
| ⑩ | | | | | | | | | | | .657 | .519 |
| ⑪ | | | | | | | | | | | | .732 |
| ⑫ | | | | | | | | | | | | |

①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した
②クラスがうまくいかない時みんな心配した
③クラスでは、もめごとが少なかった
④クラスがばらばらになる雰囲気があった
⑤クラスでは、心から楽しめた
⑥クラスが気に入っていた
⑦個人的な問題を安心して話せた
⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた
⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた
⑩クラスは、勉強熱心だった
⑪クラスは、規則を守っていた
⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた

※便宜的に、相対的に相関係数が大きい 0.600 以上の関係に色を塗った。

図表 3-4-6 小学生段階の学級風土に関連する調査項目の因子分析（12 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問26⑤クラスでは、心から楽しめた | 1.009 | -0.113 |
| 問26⑥クラスが気に入っていた | 1.001 | -0.088 |
| 問26⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 0.684 | 0.087 |
| 問26⑦個人的な問題を安心して話せた | 0.681 | 0.073 |
| 問26①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 0.534 | 0.123 |
| 問26②クラスがうまくいかない時みんな心配した | 0.478 | 0.157 |
| 問26④クラスがばらばらになる雰囲気があった | -0.337 | -0.163 |
| 問26⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 0.024 | 0.857 |
| 問26⑪クラスは、規則を守っていた | 0.037 | 0.852 |
| 問26⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 0.033 | 0.846 |
| 問26⑩クラスは、勉強熱心だった | -0.008 | 0.820 |
| 問26③クラスでは、もめごとが少なかった | 0.308 | 0.355 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

図表 3-4-7 中学生段階の学級風土に関連する調査項目の因子分析（12 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問37⑤クラスでは、心から楽しめた | 0.999 | -0.112 |
| 問37⑥クラスが気に入っていた | 0.985 | -0.107 |
| 問37⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 0.804 | 0.022 |
| 問37⑦個人的な問題を安心して話せた | 0.798 | 0.022 |
| 問37②クラスがうまくいかない時みんな心配した | 0.536 | 0.163 |
| 問37③クラスでは、もめごとが少なかった | 0.435 | 0.260 |
| 問37①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 0.418 | 0.242 |
| 問37④クラスがばらばらになる雰囲気があった | -0.394 | -0.112 |
| 問37⑪クラスは、規則を守っていた | -0.070 | 0.891 |
| 問37⑩クラスは、勉強熱心だった | -0.011 | 0.787 |
| 問37⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 0.065 | 0.776 |
| 問37⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 0.120 | 0.762 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

図表 3-4-8 小学生段階の学級風土に関連する調査項目の因子分析（10 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問26⑤クラスでは、心から楽しめた | 1.006 | -0.104 |
| 問26⑥クラスが気に入っていた | 0.996 | -0.077 |
| 問26⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 0.696 | 0.086 |
| 問26⑦個人的な問題を安心して話せた | 0.690 | 0.076 |
| 問26①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 0.502 | 0.154 |
| 問26②クラスがうまくいかない時みんな心配した | 0.491 | 0.157 |
| 問26⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 0.030 | 0.855 |
| 問26⑪クラスは、規則を守っていた | 0.031 | 0.853 |
| 問26⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 0.041 | 0.838 |
| 問26⑩クラスは、勉強熱心だった | -0.003 | 0.822 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

図表 3-4-9 中学生段階の学級風土に関連する調査項目の因子分析（10 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問37⑤クラスでは、心から楽しめた | 0.994 | -0.089 |
| 問37⑥クラスが気に入っていた | 0.973 | -0.082 |
| 問37⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 0.792 | 0.040 |
| 問37⑦個人的な問題を安心して話せた | 0.787 | 0.043 |
| 問37②クラスがうまくいかない時みんな心配した | 0.524 | 0.175 |
| 問37①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 0.410 | 0.248 |
| 問37⑪クラスは、規則を守っていた | -0.080 | 0.894 |
| 問37⑩クラスは、勉強熱心だった | -0.013 | 0.793 |
| 問37⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 0.057 | 0.772 |
| 問37⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 0.120 | 0.757 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

## (4)親・保護者との関係性

調査票の問 56 では、「あなたが中学生だったころのあなたの親・保護者は、次のことにどの程度あてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。」として、親・保護者との関係性を尋ねる 8 個の項目が設定されている。

各項目を個別に分析に活用していくことも想定されるが、これらの項目を基に親・保護者との関係性を把握するための指標を作成するということも考えられる。各項目について「わからない・覚えていない」の回答は除いたデータにより、8個の項目間の相関係数を算出すると、次の図表 3-4-10 のようになる。相関関係はいずれも正の関係であるが、相対的に相関係数が大きい 0.500 以上の関係に着目すると、大きく①・②・⑥の項目のまとまりと、⑤・⑦・⑧の項目のまとまりにわかれることがわかる。

図表 3-4-10 親・保護者との関係性に関連する調査項目間の相関係数

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①あなたの学校での成績に関心を持っていた | | .590 | .172 | .344 | .204 | .555 | .149 | .141 |
| ②あなたの勉強がはかどるように気を使っていた | | | .203 | .333 | .379 | .543 | .303 | .354 |
| ③あなたの学校での授業参観やPTA の行事などに参加していた | | | | .281 | .331 | .278 | .313 | .318 |
| ④あなたの礼儀作法に厳しかった | | | | | .175 | .403 | .076 | .119 |
| ⑤あなたのことをよく理解していた | | | | | | .306 | .721 | .753 |
| ⑥あなたの将来に期待していた | | | | | | | .279 | .280 |
| ⑦親・保護者との関係はうまくいっていた | | | | | | | | .881 |
| ⑧親・保護者は信頼できた | | | | | | | | |

※便宜的に、相関係数が大きい 0.500 以上の関係に色を塗った。

8 項目を用いて因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行うと、固有値が1以上の因子数は 2 つであった(図表 3-4-11)。ただし、「あなたの学校での授業参観や PTA の行事などに参加していた」の項目は第 1 因子・第 2 因子の両方で因子負荷量が大きい傾向にある。この項目を除いた 7 項目で再度因子分析を行うと、固有値が1以上の因子数は 2 つになった(図表 3-4-12)。

このような関係を把握した上で、信頼性係数(Cronbach のアルファ)を算出したところ、①・②・④・⑥の 4 項目については係数 0.772 であった。ただし、「④あなたの礼儀作法に厳しかった」の項目を除いた

3 項目のほうが、係数は 0.793 と高くなることもわかった。どの項目を用いて指標とするかは集計・分析を行う上での判断になるが、これらの項目を用いることで、「勉強・進路に対する関心」の度合いを反映する指標を作成することができると考えられる。

また、⑤・⑦・⑧の 3 項目については係数 0.917 であった。こちらも、どの項目を用いて指標とするかは集計・分析を行う上での判断になるが、これらの項目を用いることで、「信頼・安心」の度合いを反映する指標を作成することができると考えられる。

図表 3-4-11 親・保護者との関係性に関連する調査項目の因子分析（8 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問56⑧親・保護者は信頼できた | 0.973 | -0.054 |
| 問56⑦親・保護者との関係はうまくいっていた | 0.943 | -0.058 |
| 問56⑤あなたのことをよく理解していた | 0.772 | 0.060 |
| 問56③あなたの学校での授業参観やPTAの行事などに参加していた | 0.305 | 0.198 |
| 問56①あなたの学校での成績に関心を持っていた | -0.100 | 0.795 |
| 問56②あなたの勉強がはかどるように気を使っていた | 0.133 | 0.701 |
| 問56⑥あなたの将来に期待していた | 0.082 | 0.696 |
| 問56④あなたの礼儀作法に厳しかった | -0.051 | 0.483 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

図表 3-4-12 親・保護者との関係性に関連する調査項目の因子分析（7 項目）

**パターン行列**

| | 因子 | |
|---|---|---|
| | 1 | 2 |
| 問56⑧親・保護者は信頼できた | 0.972 | -0.045 |
| 問56⑦親・保護者との関係はうまくいっていた | 0.941 | -0.049 |
| 問56⑤あなたのことをよく理解していた | 0.756 | 0.090 |
| 問56①あなたの学校での成績に関心を持っていた | -0.110 | 0.816 |
| 問56②あなたの勉強がはかどるように気を使っていた | 0.123 | 0.712 |
| 問56⑥あなたの将来に期待していた | 0.072 | 0.706 |
| 問56④あなたの礼儀作法に厳しかった | -0.054 | 0.491 |

※因子負荷量の値が大きい順に項目を並べ替え、また、因子負荷量が大きい関係に色を塗った。

## 5. 項目間の関連性

### (1)各指標間の関係性

上述のように、「若者の生活や意識に関する調査」で得た回答を基に、いくつかの指標等の作成を検討することができる。また、平成 13 年児縦断調査においては、いわゆる「非認知能力」などについて測定するための項目が設定されており、いくつか同一の項目を「若者の生活や意識に関する調査」において設定している。

これらについて基本的な情報を得るため、下記の図表 3-5-1 に示す項目・指標について、それぞれ相関係数を把握した。相関係数は、図表 3-5-2 のようになった。

図表 3-5-1 分析に用いることが想定される指標・項目

| 項目・指標 | 問番号 | 備考 |
|---|---|---|
| A:精神的健康 | 問 4 | 5 項目からなる指標。0～25 点で得点が高いほど状態が良好であることを示す。 |
| B:生活全般の満足度 | 問 6 | 1 項目。1～5 点で、値が高いほど満足度が高いことを示す。 |
| C:「地域でのつながり」や「協働性」等 | 問 7 | ①・②・④・⑤の 4 項目からなる指標。4～16 点で、得点が高いほど「あてはまる」の度合いが大きいことを示す。 |
| D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等 | 問 7 | ⑥・⑦・⑧の 3 項目からなる指標。3～12 点で、得点が高いほど「あてはまる」の度合いが大きいことを示す。 |
| E:自尊感情 | 問 8 | ①～⑤の 5 項目からなる指標。5～25 点で、得点が高いほど「あてはまる」の度合いが大きいことを示す。 |
| F:がまん強さ | 問 9 | ①～⑧の 8 項目からなる指標。8～40 点で、得点が高いほど「あてはまる」の度合いが大きいことを示す。 |
| G:仕事の満足度 | 問 19 | ①～⑦の 7 項目からなる指標。7～35 点で、得点が高いほど「満足している」の度合いが大きいことを示す。 |
| H:小学校の「協力」「信頼」 | 問 26 | ①・②・⑤・⑥・⑦・⑧の 6 項目からなる指標。6～24 点で、得点が高いほど「そう思う」の度合いが大きいことを示す。 |
| I:小学校の「勤勉性」「規律」 | 問 26 | ⑨～⑫の 4 項目からなる指標。4～16 点で、得点が高いほど「そう思う」の度合いが大きいことを示す。 |
| J:中学校の「協力」「信頼」 | 問 37 | ①・②・⑤・⑥・⑦・⑧の 6 項目からなる指標。6～24 点で、得点が高いほど「そう思う」の度合いが大きいことを示す。 |
| K:中学校の「勤勉性」「規律」 | 問 37 | ⑨～⑫の 4 項目からなる指標。4～16 点で、得点が高いほど「そう思う」の度合いが大きいことを示す。 |
| L:親・保護者の「勉強・進路に対する関心」 | 問 56 | ①・②・⑥の 3 項目からなる指標。3～12 点で、得点が高いほど「あてはまる」の度合いが大きいことを示す。 |
| M:親・保護者の「信頼・安心」 | 問 56 | ⑤・⑦・⑧の 3 項目からなる指標。3～12 点で、得点が高いほど「あてはまる」の度合いが大きいことを示す。 |

図表 3-5-2 分析に用いることが想定される指標・項目間の相関係数

| | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | | .563 | .285 | .646 | .522 | .274 | .392 | .232 | .127 | .280 | .156 | .213 | .410 |
| B | | | .187 | .513 | .406 | .161 | .311 | .136 | .062 | .148 | .138 | .174 | .390 |
| C | | | | .381 | .322 | .254 | .242 | .155 | .098 | .136 | .093 | .293 | .120 |
| D | | | | | .597 | .265 | .422 | .352 | .191 | .349 | .201 | .213 | .379 |
| E | | | | | | .375 | .245 | .340 | .204 | .355 | .175 | .250 | .349 |
| F | | | | | | | .176 | .298 | .170 | .267 | .211 | .200 | .241 |
| G | | | | | | | | .077 | .042 | .059 | .091 | .138 | .131 |
| H | | | | | | | | | .536 | .548 | .284 | .228 | .401 |
| I | | | | | | | | | | .189 | .370 | .137 | .179 |
| J | | | | | | | | | | | .507 | .216 | .312 |
| K | | | | | | | | | | | | .238 | .254 |
| L | | | | | | | | | | | | | .352 |
| M | | | | | | | | | | | | | |

※便宜的に、相対的に相関係数が大きい 0.300 以上の関係に色を塗った。

これらの相関関係について、いずれも正の関係となっているが、例えば「A:精神的健康」に着目してみると、「B:生活全般の満足度」や「D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等」、「E:自尊感情」、「G:仕事の満足度」、「M:親・保護者の「信頼・安心」」との間の相関係数が大きくなっている。このように、「A:精神的健康」については、現在の仕事や人間関係等が充実している場合に、状況が良いという関係にあることがわかる。「B:生活全般の満足度」に着目しても、係数の大きさは異なるが、相関係数が高い項目は「A:精神的健康」とほぼ同様となっている。

また、「C:「地域でのつながり」や「協働性」等」に着目すると、「D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等」と「E:自尊感情」との相関係数が高くなっている。この指標もウェルビーイングに関連するものとして検討を行ったものであるが、「A:精神的健康」や「B:生活全般の満足度」とは若干異なる傾向を示す指標であることがわかる。

H・I・J・K の、小学校・中学校の学級風土に関する指標は相互に相関が高くなっており、小学校段階での雰囲気は中学校段階の雰囲気と一定程度関連性を持つことがうかがえる。そのような中で、「D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等」の指標と、「H:小学校の「協力」「信頼」」や「J:中学校の「協力」「信頼」」との間の相関係数が 0.300 以上になっており、過去の学校段階における雰囲気・人間関係と、

25 歳時点の人間関係等との間に一定の関連性があることがうかがえる。「E:自尊感情」との間にも、同様の相関関係がみられている[43]。他方で、「A：精神的健康」や「B:生活全般の満足度」、「C：「地域でのつながり」や「協働性」等」などとの相関は、必ずしも高いわけではないこともわかる。

「L：親・保護者の「勉強・進路に対する関心」」は、「M:親・保護者の「信頼・安心」」以外の指標との間の相関係数が比較的小さくなっている。他方で、「M:親・保護者の「信頼・安心」」の指標は、「A：精神的健康」や「B：生活全の満足度」など、他の指標との間での相関係数が比較的大きなものとなっている。

## (2)学校・教育経験、逆境体験と現在の状況との関連性

### ①親や自分自身に起きた逆境的な経験

上記で指標間の関連性を把握した内容のうち、A～G の各指標について、問 52 で把握される、親や自分自身に起きた逆境的な経験の有無との間の関係について把握をした。集計・分析は、親や自分自身に起きた逆境的な経験の有無により 2 群に分類し、その分類別に、A～G の各指標の平均値の比較を行った。

結果は図表 3-5-3 に示した。「A:精神的健康」、「B:生活全般の満足度」、「D:「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」等」、「E:自尊感情」、「F：がまん強さ」については群間で有意な差があり、特に親や自分自身に起きた逆境的な経験・個数が「0 個」の場合に指標の値が高いという結果になっている。

また、「C：「地域でのつながり」や「協働性」等」、「G:仕事の満足度」については統計的に有意な差はみられなかった。上述の相関関係からも「C：「地域でのつながり」や「協働性」等」は「A：精神的健康」などとは異なる位相にあることを把握したが、親や自分自身に起きた逆境的な経験との間の関係についても異なる傾向がみられることがわかった。また、「B:生活全般の満足度」との間には有意な関連性がみられるが、「G:仕事の満足度」との間には有意な関連性はみられない、という結果となっており、このような点も特徴的である。

[43] 回顧的に回答を得る項目であるため、現在の状況が良い者が、過去を振り返ってその時の状況が良かったと思い起こしている可能性があることには留意が必要である。

図表 3-5-3 親や自分自身に起きた逆境的な経験の有無と現在の状況に関する指標との関係

| 項目・指標 | 該当なし | 1 つ以上該当 | 検定結果 |
|---|---|---|---|
| A:精神的健康 | 14.40 | 11.95 | p<0.001 |
| B：生活全般の満足度 | 3.86 | 3.55 | p<0.01 |
| C：「地域でのつながり」や「協働性」等 | 11.68 | 11.85 | ns |
| D:「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」等 | 9.29 | 8.55 | p<0.01 |
| E:自尊感情 | 17.24 | 15.27 | p<0.001 |
| F：がまん強さ | 24.50 | 23.08 | p<0.01 |
| G:仕事の満足度 | 24.50 | 24.36 | ns |

②いじめを受けた経験

問 53 で把握される「自分が学校でいじめを受けた」の回答の有無により、A～G の各指標の平均値の比較を行った結果を図表 3-5-4 に示した。

統計的に有意な結果であったのは「D:「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」等」と「E:自尊感情」であり、「いじめを受けた」と回答した者のほうが指標の値は低い結果であった。「A:精神的健康」、「B:生活全般の満足度」、「F：がまん強さ」についても、「いじめを受けた」と回答した者のほうが指標の値は低い結果であるが、その差は統計的に有意なものではなかった。

また、「C：「地域でのつながり」や「協働性」等」、「G:仕事の満足度」についても統計的に有意な差はみられなかったが、これらの平均値自体は「いじめを受けた」と回答した者のほうが高いという結果であった。

図表 3-5-4 いじめを受けた経験の有無と現在の状況に関する指標との関係

| 項目・指標 | ない | ある | 検定結果 |
|---|---|---|---|
| A:精神的健康 | 13.33 | 12.82 | ns |
| B：生活全般の満足度 | 3.78 | 3.60 | ns |
| C：「地域でのつながり」や「協働性」等 | 11.71 | 11.91 | ns |
| D:「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」等 | 9.11 | 8.56 | p<0.05 |
| E:自尊感情 | 16.58 | 15.49 | p<0.05 |
| F：がまん強さ | 23.84 | 23.66 | ns |
| G:仕事の満足度 | 24.03 | 25.15 | ns |

### ③不登校の経験

問 53 で「自分が小学生の時に不登校を経験した」、「自分が中学生の時に不登校を経験した」、「自分が高校生の時に不登校を経験した」のいずれかを回答している者を不登校の経験がある者とし、経験の有無と A～G の各指標の平均値の比較を行った結果を図表 3-5-5 に示した。なお、集計対象のうち、「ない」に該当するのは 319 件、「ある」に該当するのは 33 件であった。

結果としては、サンプルサイズが大きくないことも影響していると考えられるが、いずれの指標についても統計的に有意な差はみられなかった。「A:精神的健康」、「B:生活全般の満足度」、「C:「地域でのつながり」や「協働性」等」、「D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等」、「E:自尊感情」、「F:がまん強さ」について平均値の値自体は「不登校経験がある」と回答した者のほうが低いという結果となっている。他方で、「G:仕事の満足度」については、「不登校経験がある」と回答した者のほうが高いという結果となっている。

回顧的に尋ねた調査項目で約 1 割が不登校経験があるという回答結果であったことから、21 世紀出生児縦断調査において同様の形式で調査項目を設定すれば、一定の大きさのサンプルが得られることになると予想される。

また、今回行った集計・分析は、過去の経験と現在の主に意識面での指標との間の関係をみたものであるが、高校や高等教育機関への進学の状況などに着目して分析を行うことも意味があることであると考えられる。

図表 3-5-5 不登校の経験の有無と現在の状況に関する指標との関係

| 項目・指標 | ない | ある | 検定結果 |
|---|---|---|---|
| A:精神的健康 | 13.21 | 12.50 | ns |
| B:生活全般の満足度 | 3.73 | 3.56 | ns |
| C:「地域でのつながり」や「協働性」等 | 11.79 | 11.67 | ns |
| D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等 | 8.95 | 8.58 | ns |
| E:自尊感情 | 16.27 | 15.41 | ns |
| F:がまん強さ | 23.85 | 23.03 | ns |
| G:仕事の満足度 | 24.21 | 26.61 | ns |

### (3)教師との関係と教科に対する意識

調査票の問 34 では、「国語」、「社会」、「数学」、「理科」、「外国語」の各教科について、中学生の時に得意であったか不得意であったかを尋ねている。また、問 35 では、各教科において中学生の時に女性の先生に教わっていたか否かを尋ねる項目を設定している。

この設問間の関係について集計・分析を行うため、まず、「国語」と「社会」について文系の教科、「数学」と「理科」について理系の教科と捉え、それぞれの教科が得意であったか否かの回答から、「文系得意」の指標(2～10、値が高いほど得意)と、「理系得意」の指標(2～10、値が高いほど得意)の指標を作成した。

また、特に理系の教科に着目し、「数学」と「理科」それぞれ、女性の先生に教わっていたか否かの回答から、「いずれも女性の先生には教わっていなかった」か、「いずれかまたは両方で女性の先生に教わっていた」の 2 群に分類した。

回答者本人の性別に分類した上で、理系の教科を女性の先生に教わっていたか否かの別に、「文系得意」、「理系得意」のそれぞれの平均値を比較すると、その結果は図表 3-5-6 のようになった。検定の結果としてはいずれの集計結果も統計的に有意なものではないが、平均値の水準としては興味深い結果となっている。まず、回答者が男性の場合、中学校の時に理系教科に関して女性に教えてもらったことがあったか否かに関して、「教わっていなかった」と回答した場合のほうが「理系得意」の指標の値が高くなっている。逆に、回答者が女性の場合、中学校の時に理系教科に関して女性に「教わっていなかった」と回答した場合のほうが「理系得意」の指標の値が低くなっている。

集計対象の件数が多くなく、今回の集計結果のみでは回答の組み合わせにより偶然このような結果になった可能性があることは否めないが、21 世紀出生児縦断調査において回顧的な設問により、各学校段階における教師に関する情報を得ることで、教科に対する意識や進路との関係について、ジェンダー差も踏まえながら分析を行えるようになる可能性が出てくると考えられる。

図表 3-5-6 中学校の時の教科の担任の性別と教科を得意と考える度合いとの関係

| 項目・指標 | | 理系教科を女性に教わっていなかった(n=48) | 理系教科を女性に教わっていた(n=55) | 検定結果 |
|---|---|---|---|---|
| 回答者男性 | 文系得意 | 6.92 | 7.09 | ns |
| | 理系得意 | 6.83 | 6.05 | ns |
| 項目・指標 | | 理系教科を女性に教わっていなかった(n=107) | 理系教科を女性に教わっていた(n=94) | 検定結果 |
| 回答者女性 | 文系得意 | 6.79 | 6.77 | ns. |
| | 理系得意 | 5.30 | 5.77 | ns |

## 6. 小括、調査・分析方法等についての提案等

### (1)小括

以上のように、「若者の生活や意識に関する調査」で得られた結果について、平成 13 年児縦断調査に関して検討を行う上でも有用であると考えられたことから、「回答者(25 歳の方)の状況把握」、「過去の教育経験等に関する回答の把握」、「尺度作成の検討」、「項目間の関連性の把握」について検討を行った。

「回答者(25 歳の方)の状況把握」という点からは、特に「現在の状況」について尋ねる項目について改善・工夫の余地があると考えられた。また、25 歳の段階では母親・父親と同居している者の割合が高くないことも踏まえて、平成 13 年児縦断調査における調査実施方法の検討等を行うことが必要になると考えられた。このほか、「若者の生活や意識に関する調査」の回収率が 2 割未満の水準であったこと、スマートフォン等からの回答が多かったことなども踏まえて、回答者負担も考慮の上、回収率維持の方策について継続的な検討が必要であると考えられる。

「過去の教育経験等に関する回答の把握」については、回顧的に回答を得る項目において「わからない・覚えていない」の回答が一定割合で出現することを把握した。特に主語が自身以外のことを尋ねられている項目や、場面の想起が容易でない内容を尋ねられた場合に回答が難しくなっていると考えられる。この点には制約・限界があるが、「尺度作成の検討」と「項目間の関連性の把握」に関して実施した集計等の内容を踏まえると、逆境体験やいじめ・不登校の経験、あるいは教師との関係に関する情報について、その後の成長過程との関係を分析する上では有用なものになると考えられる。

### (2)項目の精査等についての課題、提案等

「尺度作成の検討」を行う中で、他の項目との相関係数が低く、指標化を検討することが難しい調査項目もあった。もちろん各調査項目については単一の回答の分布等に着目して分析に用いることも想定されるが、項目の活用の仕方については再度検討する必要がある項目もあると考えられた。

また、指標化して分析を行うことが想定される調査内容については、必然的に複数の調査項目を設定しなければならず、調査を実施する際には、その分調査対象者の回答負担が大きくなってしまうと考えられる。例えば今回指標化を行った「A:精神的健康」、「B:生活全般の満足度」、「D:「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」等」、「E:自尊感情」については、それぞれ捉えている事柄は異なるものの、内容としては近いものを捉えているというようにも考えられる。これらの項目については毎年項目を設定するのではなく隔年での設定にするなど、調査を行う上では工夫・検討の余地があると考えられる。同様に、学級風土を尋ねる設問についても、調査票に掲載するにあたって多くの項目設定をする必要が出てくるが、今

回「若者の生活や意識に関する調査」を基に検討を行った結果を踏まえ、項目精査をした上で 21 世紀出生児縦断調査に盛り込んでいくことが想定される。

このほか、ウェルビーイングに関連する項目・指標についても、今後項目の精査・検討を継続的に行っていくとよいのではないかと考える。教育振興基本計画では日本社会に根差したウェルビーイングの要素として、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現（達成感、キャリア意識など）」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などがあるとされており、「若者の生活や意識に関する調査」で設定した項目が一定の対応関係にあることも把握することができたが、例えば「自己実現（達成感、キャリア意識など）」は、就業経験を重ねる中で変化を伴うものとして継続的に把握をしていくことが重要になると考えられる。また、「安全・安心な環境」という点についても、21 世紀出生児縦断調査の対象者の中には、結婚し、子供が生まれ、新たな形で家族ができていく者が増えていくと考えられるが、このような変化がある中で個々人が重要・充足していると考える内容や水準が変化する可能性もあり、そのような過程を捉えていくことも分析テーマの一つになるのではないかと考えられた。

# Ⅳ　21 世紀出生児縦断調査の継続実施にあたっての検討課題等

## 1. 検討・実施事項の概要

平成 13 年児縦断調査は、厚生労働省によって調査が開始され、第 16 回調査からは文部科学省・厚生労働省の共管により調査が継続されてきた。日本国内において、同一人物を出生から大規模・継続的に調査を行っている調査事例は限られており、子供の成長過程を把握し、教育政策の検討を行う上で非常に重要なデータとなっている。

他方で、平成 13 年児縦断調査は調査客体の年齢が 20 歳を超え、調査内容として、教育政策に関連するテーマを直接的に扱うものばかりではなく、例えば就労、結婚、出産、子育てなど、学校卒業後の様々なライフイベントを捉える調査への移行についても検討することが必要な段階になっている。

また、後述するように、平成 13 年児縦断調査とは別に 21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年調査）（以下、「平成 22 年児縦断調査」という。）も継続的に実施されている状況であり、双方の調査の関係性や実施上の検討課題等について整理し、それぞれのあり方について検討をする必要が出てきている。

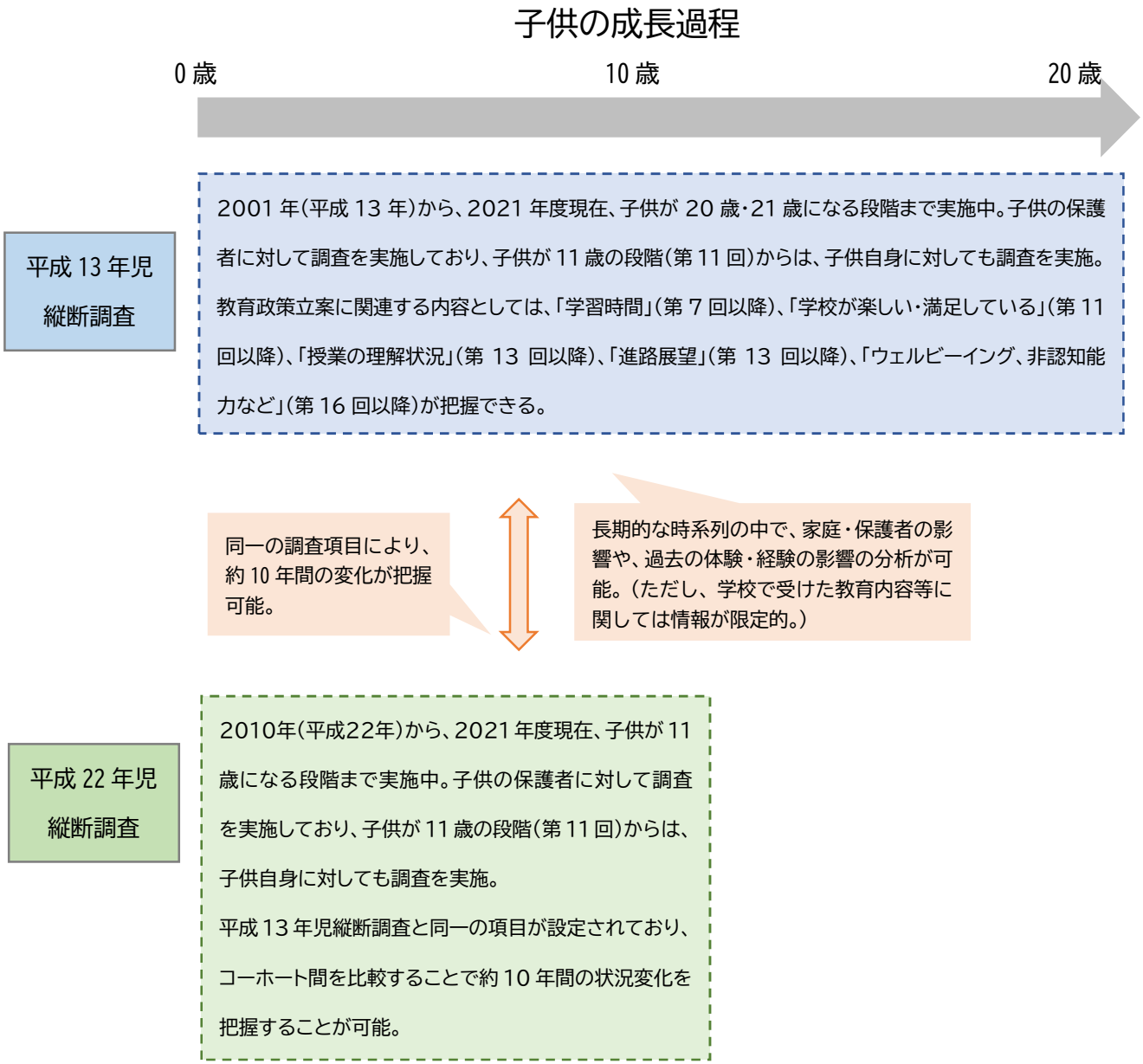
そこで、本稿では、平成 13 年児縦断調査及び平成 22 年児縦断調査の実施・継続にあたって検討すべき事項をあらためて整理した上で、国内外の他のパネル調査に関する文献・資料を参照し、21 世紀出生児縦断調査の今後の実施・継続体制等のあり方の検討に資する情報を整理することを試みた。

## 2. 21 世紀出生児縦断調査について検討すべき事項

### (1)検討事項

浜銀総合研究所(2022)[44]では、下記のような基本的な関係性も含め、平成 13 年児縦断調査及び平成 22 年児縦断調査の実施・継続にあたって検討すべき事項を整理している。

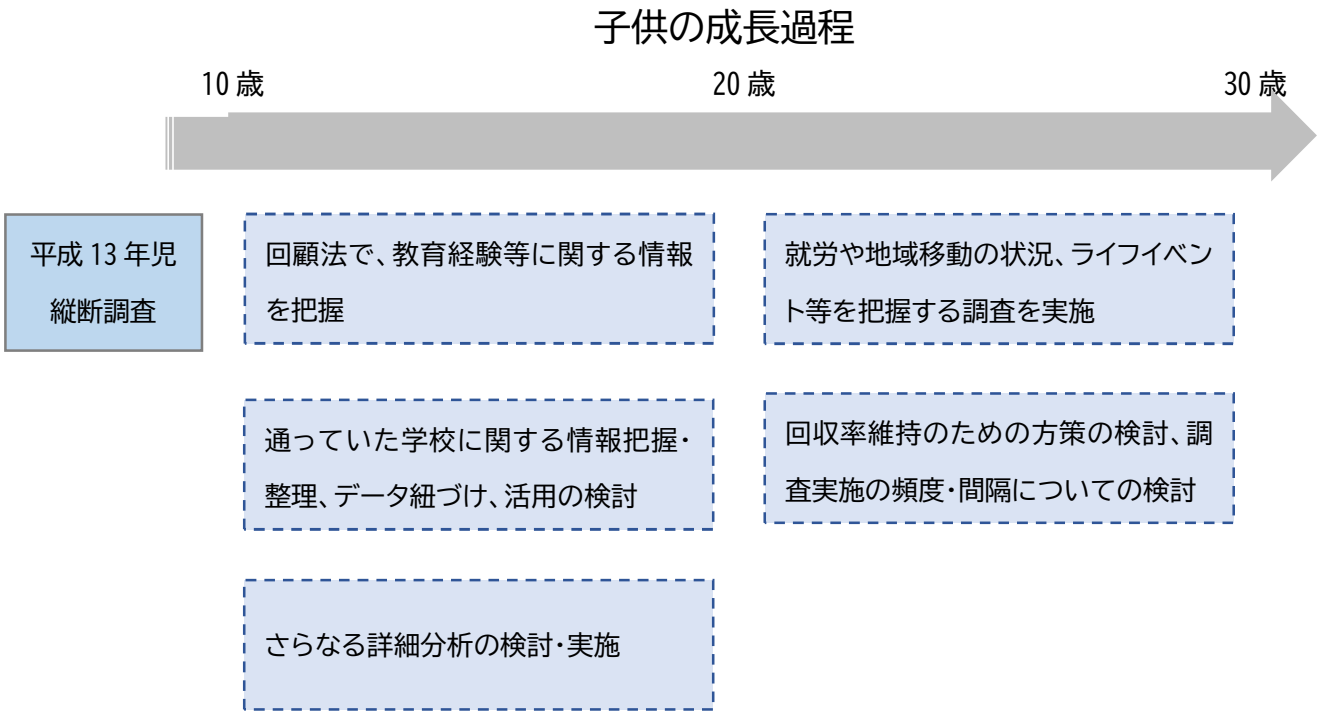
本稿ではまず、浜銀総合研究所(2022)で整理した内容をあらためて参照しつつ、検討すべき事項を整理した。




[44] 浜銀総合研究所(2022)「令和3年度「EBPMをはじめとした統計改革を推進するための調査研究」21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)における調査データを活用した詳細分析等に資する調査研究 報告書」(令和 4 年 3 月)。なお、この調査研究においては、21 世紀出生児縦断調査に加えて、国立教育政策研究所において進められている幼児期の子供及び保護者を調査対象とした追跡調査についても情報整理の対象としているが、本稿では、平成 13 年児縦断調査及び平成 22 年児縦断調査の関係性や各調査に関する検討事項についてあらためて検討を行った。

## (2)平成 13 年児縦断調査について

浜銀総合研究所(2022)では、平成 13 年児縦断調査に関する検討課題について、下記のような形で、「回顧法で、教育経験等に関する情報を把握」など、5 つの点を整理していた。




### ①回顧法で、教育経験等に関する情報を把握

「回顧法で、教育経験等に関する情報を把握」という点については、本調査研究の中で実施した「若者の生活や意識に関する調査」が、まさにこの点を検討することを目的にしたものである。

記憶の正確さなど、一定の限界・制約はあるが、回顧法による調査項目を設け、学校でどのような経験をしたか等の情報を得ることで、子供の学習の状況やその後の進路や意識、生活の状況等との関連性を分析することができるようになると考えられる。回顧法による調査項目について、本調査研究で得た「若者の生活や意識に関する調査」の結果を踏まえ、平成 13 年児縦断調査の調査項目として、今後盛り込んでいくことを具体的に検討することが重要と考えられる。

②通っていた学校に関する情報把握・整理、データ紐づけ、活用の検討

「通っていた学校に関する情報把握・整理、データ紐づけ、活用の検討については、調査客体が通っていた学校を特定し、「学校コード[45]」を付与するなど、他の情報と紐づけて分析を行えるようにデータを整備していくことの重要性を示したものである。

この点について、例えば令和 4 年度の「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）特別報告」[46]では、平成 13 年児縦断調査の各調査客体が通っていた高校がスーパーサイエンスハイスクールであったか否かを自由記述の回答により得られていた高校名の情報から判別をして分析を行った事例がある。この分析事例のような形で、調査対象者が通っていた学校名を特定し、適切にコードを付与することなどができれば、例えば学校基本調査で把握される児童生徒数や教員数（及び、そのバランス等）の情報や、全国学力・学習状況調査の学校質問紙の回答データ[47]、高校の卒業後の進路の情報などのデータと紐づけて分析に活用するということも考えられるようになる。

他方、自由記述で得られた回答データを整理しコード化していくことや、学校基本調査などの「紐づけられる側」の調査データについて過去にさかのぼってコードを付与していく作業には労力とコストを要する。このような作業に対応するための体制や業務委託等も検討が必要になる。

③さらなる詳細分析の検討・実施

過年度の調査で蓄積されてきた平成 13 年児縦断調査のデータを活用し、「子供の成長過程」の実態把握のための分析や、子供の過程に学校教育等がどのような影響を与えうるかについて引き続き検討を行い、さらなる詳細分析を実施することは、今後も重要である。

上述の「特別報告」では、第 20 回調査までのデータを基に分析を行い、教育施策の検討に資する一定の分析結果を得たが、例えば大学等研究者を交えた調査研究事業を行うなど、パネル調査データの特性を活かした形での教育政策検討を行っていくことについては今後も実施の余地があるものと考えられる。

なお、大学等研究者からの協力を得ていくためにも、蓄積されているデータをより活用しやすいように整備・管理方法等を検討していくことも重要と考えられる。

---

[45] 文部科学省により 2020 年 12 月に設定された「学校を一意に識別できる公表された番号」。各種調査を横断したデータの連結や分析を行えるようにするため、学校基本調査などの統計調査のみならず、各種の調査研究等において広く活用されることが想定されている。（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html）

[46] 浜銀総合研究所（2023）「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）特別報告」（令和 5 年 3 月）

[47] 文部科学省により 2020 年 12 月に設定された「学校を一意に識別できる公表された番号」。各種調査を横断したデータの連結や分析を行えるようにするため、学校基本調査などの統計調査のみならず、各種の調査研究等において広く活用されることが想定されている。（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html）

④就労や地域移動の状況、ライフイベント等を把握する調査を実施

「1. 検討・実施事項の概要」でも言及したように、既に平成 13 年児縦断調査の調査客体の年齢は 20 歳を超え、扱うべきテーマとして、例えば就労、結婚、出産、子育てなど、様々なライフイベントを捉える調査への以降についても検討することが必要な段階になっている。今後調査継続をする中では、よりその色は強まっていくと考えられ、得られるデータについては、文部科学省以外の政策等にも活用される可能性が高いものとなっていくことが予想される。

他方で、例えば入職経路や労働市場の中での若年者の実態、学歴と初職や所得（貸与奨学金の返還状況を含む）との関係性、過去の教育経験等とウェルビーイングの関係、学びなおしやリスキリングに関する実態、親になった際の子育てにおける態度・教育観など、引き続き、文部科学省の教育政策を検討する上で重要な内容を含む調査であることに変わりはないものと考えられる。

これらのように、調査客体のライフステージの変化や、扱うべき内容がより多様化していくことを踏まえ、現在共管となっている厚生労働省との間で、あるいは他の省庁も交えて、今後重要になる調査項目に関する検討を定期的に行っていくことも重要になるものと考えられる。

⑤回収率維持のための方策の検討、調査実施の頻度・間隔についての検討

パネル調査を継続的に行っていく上では、調査に回答いただけなくなる方をいかに少なくしていくか、ということが重要な検討課題である。特に、今後就業やそれに伴う地域移動、結婚・出生等のライフイベントの影響により、調査に協力いただけなくなる方の数・率がより高くなる可能性がある。

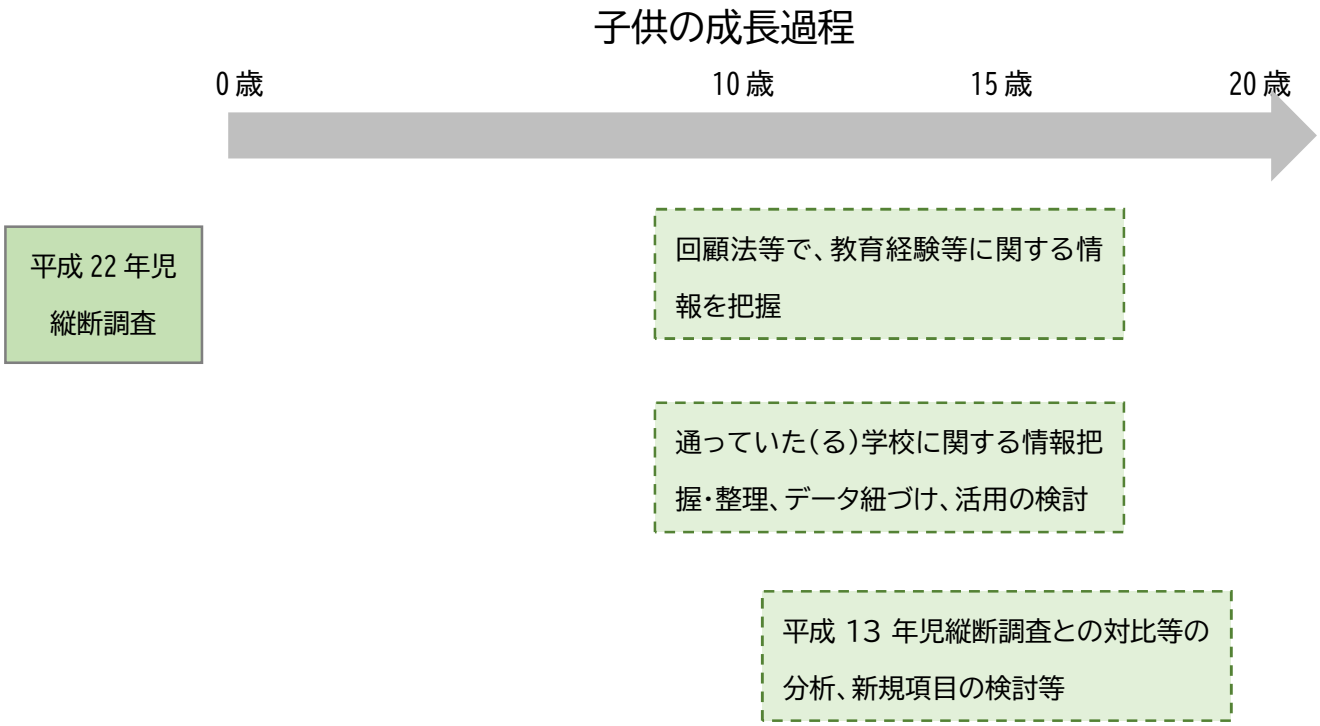
本調査研究の中で 25 歳の方を対象に実施した「若者の生活や意識に関する調査」の回収率は 2 割を下回る水準であった[48]。平成 13 年児縦断調査においては、これまでも回収率の維持のための工夫等をしてきているところであるが、今後調査対象者の転居が多くなることなどを踏まえると、例えば「電子メールアドレスや携帯電話番号等の、住所以外に連絡が取れる情報を取得する」といった方策について検討を進めることも非常に重要になる。

なお、「若者の生活や意識に関する調査」では回答者のうち約 3 分の 2 の方が WEB 回答を選択した。また、WEB 回答者のうち、9 割以上がスマートフォンでの回答であった。今後はより一層、WEB（スマートフォン）での回答のしやすさや、分量なども考慮した調査設計が求められるのではないかと考えられる。

[48] 今回、「若者の生活や意識に関する調査」は謝礼の送付や督促状の送付等は行わない形で実施したものであった。

(3)平成 22 年児縦断調査について

浜銀総合研究所(2022)では、平成 22 年児縦断調査に関しても、下記のような形で検討事項について 3 点示していた。




①回顧法で、教育経験等に関する情報を把握

「回顧法で、教育経験等に関する情報を把握」という点について、検討事項としては平成 13 年児縦断調査と同様であるが、平成 22 年児縦断調査に関しては、検討すべきタイミングが非常に重要である。

本調査研究の中で 25 歳の方を対象に実施した「若者の生活や意識に関する調査」において、中学生段階よりも小学生段階のほうが、学校での教育経験等を尋ねる質問項目について「わからない・覚えていない」の回答割合が高い傾向にあることが確認された。特に小学生段階では、割合が高い項目では2割程度にもなり、回顧法で情報を得ることには制約があることが明らかになる結果でもあった。

他方で、記憶の新しいうちであれば一定の回答を得られる可能性もある。このことを踏まえ、平成 22 年児縦断調査に関して、例えば第 16 回調査の時点で、小学校や中学校時代のことを回顧的に尋ねる項目を盛り込む、ということが考えられる。この点は平成 13 年児縦断調査とは異なる形での調査設計を行うことが求められ、その必要性や妥当性等について、有識者も交えた形で、協議等を行う機会・タイミングを検討することが重要と考えられる。

②通っていた(る)学校に関する情報把握・整理、データ紐づけ、活用の検討

この点も、検討事項としては平成 13 年児縦断調査と同様であるが、平成 22 年児縦断調査の調査客体に関しては、今後の検討次第では、例えば個々人の「学習ログ」等との接続可能性についても検討すべき事項として重要になってくる可能性がある。

現在、GIGA スクール構想における端末配付・活用が進んだこともあり、個々人に関するデータの蓄積・紐づけを行い、活用することについて議論・検討が進んできている。アンケート調査で得られる情報とは別に個々人の教育に関するデータを蓄積し、子供の成長過程を解明するために活用できるようにするには今後省庁横断的に様々な検討や調整が必要であり、実現のためには時間も要すると考えられるが、その重要性・必要性についての議論は進むと考えられる。この点については、平成 13 年児縦断調査とは異なる形で、外部データ接続の可能性を検討する必要が出てくることが想定される。

③平成 13 年児縦断調査との対比等の分析、新規項目の検討等

平成 22 年児縦断調査はもともと「平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行う」ことを目的として設計・実施されているものであることから、調査項目について平成13年児縦断調査のものからむやみに変更しないことは重要である。

他方で、例えば、ウェルビーイングに関する項目やいわゆる「非認知能力」に関する項目を、平成13年児縦断調査とは異なる形で調査項目として盛り込み、調査・分析を行っていくことも考えられる。このような新規項目についても、回顧法による項目設定に関する議論と同様に、有識者も交えた形で協議等の機会・タイミングを設けていくことが重要と考えられる。

## (4)体制・段取り・タイミング等について

文部科学省における人員体制の強化や段取りについても、浜銀総合研究所(2022)において、下記の表のような形で一定の整理を行っていた。

直近の令和 6 年度においては、平成 13 年児縦断調査の継続実施にあたっての検討を深めることに加えて、平成 22 年児縦断調査の実施準備を進めていく必要が出てくると考えられ、これらの動きにともなって人員の増強等も検討する必要が高まってくる。また、仮に今後「学習ログ」等の活用・接続の可能性が高まるようであれば、専門的な知見を有する者が業務を担当する必要性が高くなると考えられる。

このほか、浜銀総合研究所(2022)において実施した有識者ヒアリングにおいて、「データをオープンにして研究者のアイデアを募ることで、分析の体制として多様な専門知識を集約する」という構想についての助言も受けているが、今後検討すべきテーマや事項が増えていくことも踏まえ、様々な有識者を交えた形での調査・分析の実施体制等についても検討を行うことが重要になるものと考えられる。

図表 4-1 文部科学省としての実施・体制面等に関する検討事項イメージ

| | 令和 4 年度<br>(2022 年度) | 令和 5 年度<br>(2023 年度) | 令和 6 年度<br>(2024 年度) | 令和 7 年度<br>(2025 年度) | 令和 8 年度<br>(2026 年度) | 令和 9 年度<br>(2027 年度) | 令和 10 年度<br>(2028 年度)<br>以降 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 13 年児縦断調査関連 | 第 21 回/22 回 | 第 22 回/23 回 | 第 23 回/24 回 | 第 24 回/25 回 | 第 25 回/26 回 | 第 26 回/27 回 | 第 27 回~ |
| | 回顧設問の検討<br>第 20 回までの特別報告 | 回顧設問の検討、実施 | 第 26 回以降の実施のあり方検討 | | | 第 25 回までの特別報告 | 調査の継続の方法等について継続検討 |
| 平成 22 年児縦断調査関連 | 第 12 回 | 第 13 回 | 第 14 回 | 第 15 回 | 第 16 回 | 第 17 回 | 第 18 回~ |
| | | | 文部科学省での予算要求開始 | 第 16 回調査実施に向けた研究会<br>(以後毎年継続) | 第 16 回調査の実施<br>(以後毎年継続) | 第 16 回調査の結果公表<br>(以後毎年継続) | 調査内容の検討・実施・結果公表の継続 |
| 体制・人員の増強等 | 具体的な体制・人員の増強等について検討・調整 | | | 人員の増強等の対応 | | 人員の増強等対応 | 他のデータとの接続等の対応 |

## 3. 国内外のパネル調査の実施・継続体制について

### (1)検討事項

ここまで整理してきたように、今後 21 世紀出生児縦断調査の実施・継続を考える上では、厚生労働省をはじめとした他の省庁との間での協議・調整の重要性がより高まってくることが予想される。また、調査を実施する上で今後検討すべきテーマや事項が増えていくと考えられることも踏まえ、様々な有識者を交えた形での調査・分析の実施体制等についてもあらためて検討を行うことが求められると考えられる。

そこで、次に、上記のような点を検討するにあたり参考になると思われた、国内外のパネル調査の実施体制等に関する文献・資料を参照し、調査を継続するにあたっての課題やポイント等を把握した。なお、本稿では、パネル調査全般について言及されている文献・資料に加えて、より具体的に、個別の調査の実施・継続体制の事例等に関する情報も参照した。

### (2)パネル調査の実施体制の重要性について

野村総合研究所(2012)[49]では、パネル調査の実施に関して、「調査企画ステージ」、「調査実施ステージ」、「結果活用ステージ」の運用ステージ別に、重要となる事項についての情報整理を行っている。このうち、「調査企画ステージ」に関しては、例えば「調査設計における政策性と学術性が両立できる体制の確保」が課題の一つであるとされ、「政策判断のための利用が少ないのは、中期的な社会課題、政策課題を調査設計に反映する仕組み(行政と大学・研究者の役割分担)が上手く機能していないことも影響しているのではないか。汎用性のある統計の作成に長けた官公庁の能力と、分析に長けた研究者の能力を上手く組み合わせる体制・仕組みづくりが課題である。」ということが指摘されている。

パネル調査の実施・継続にあたって、横断的調査とは異なる形での実施体制の構築が重要である(その点が課題になりうる)ことはこのほかにも多く指摘されており、例えば岡林(2006)[50]では、「大規模な代表標本を、長期間にわたって追跡することが望ましい。しかしながら、これには、莫大な金銭的・時間的コストがかかり、一個人(あるいは一組織)が、このような調査を実施し続け、独創的な研究成果を産出し続けることは難しい。」ということや、「かろうじて数年あるいは十数年の縦断研究を続けている研究者も、調査の実施だけで疲弊し、独創的な研究成果を出すまでの余力を残していないという事態も生じている。」ということが指摘されている。また、田辺(2013)[51]では、「欧米の先行する代表的なパネル調査では、実査専門の研究機関などが存在しており、体制が整っている実例が多い。例えばアメリカを代表するパネ

---

[49] 野村総合研究所「日本におけるパネルデータの整備に関する調査報告書」(平成 24 年 3 月)
[50] 岡林秀樹(2006)「発達研究における問題点と縦断データの解析方法」、『パーソナリティ研究』(第 15 巻第 1 号 76-86)
[51] 田辺俊介(2013)「日本におけるパネル調査が抱える課題の包括的検討」、『家計経済研究』(No.100、70-78)

ル調査の１つ National Longitudinal Surveys は、米国労働統計局が主導する調査であるが、その運営実施とデータのユーザー・サポートは、NLS の運営を主要目的の１つとして設立されたオハイオ州立大学内の機関 Center for Human Resource Research に委託されている。」ということが紹介され、「一定規模の長期的パネル調査を維持・管理するためには、官公庁と大学等の研究機関が連携した、継続性のある体制作りが求められていると言えよう。」としている。

### （3）実施体制等に関する具体事例について

上述のように、パネル調査は、金銭的・時間的コストの観点から一組織だけでは継続的な実施が難しいことや、官公庁と大学等の機関・研究者との連携体制が重要であることが示されている。また、長期的に調査を続けていく中で「疲弊」することもあるとされ、この点も課題の一つであることが指摘されている。

それでは、これらの点について、現に大規模・長期的に調査を実施している調査では、どのような対応をとっているのであろうか。続いて、個別の調査事例について情報を把握することができた文献・資料を基に、実施・継続体制について関連する情報を整理した。

#### ①平成 13 年児縦断調査

これまでにも言及してきたように、平成 13 年児縦断調査は、日本国内において同一人物に対して出生から大規模・継続的に行った調査として、非常に重要なデータとなっている。ただし、北村・金子（2013）[52]によれば、その実施体制に関して決して課題がなかったわけではないと考えられる。

北村・金子（2013）では、「21 世紀縦断調査は政府がこれまで取り組んできた多くの横断調査とは、データ管理や統計分析の手法、結果の解釈や応用の仕方などの面で大きく異なっており、官庁においてそうした知識、技術、経験の蓄積が十分でなかった当初の状況においては、当該調査の特徴を十分に活かす方途に課題があった。」とされ、「この点については、大学や研究機関に所属し、調査データの分析などを専門とする研究者と連携する体制を作ることによって解消することが考えられた。実際、担当部局からの要請の下で厚生労働省の付属機関である国立社会保障・人口問題研究所において、縦断調査に関するデータ管理ならびに統計分析の枠組み作りのためのチームが編成され、筆者らはこれに参加することにより同調査の分析態勢[53]作りを行ってきたところである。」という説明がある。

さらに、「縦断調査の分析を現下の課題に対処し、施策に効率的に結びつけるためには、調査実施主体、

---

[52] 北村行伸・金子隆一（2013）「縦断調査の厚生労働政策への応用に向けて」、『厚生の指標』（第 60 巻第 2 号）
[53] 引用元のママ。

分析主体に加えて、政策実施主体としての政策形成部局との問題意識の共有が必要であると考えられる。」という課題認識のもと、「各縦断調査のテーマ範囲や分析手順について整理して調査の俯瞰図を提示すること、多様なテーマについて発想の元となるような具体的な分析例を示すこと、また縦断調査の利活用に関する方途を検討するために組織した有識者によるアドバイザー・グループにおける討議など、多方面からのアプローチにより、連携実現のための環境作りを行った。」とされている。

北村・金子（2013）が言及しているのは、厚生労働省が主管で実施してきた時期の 21 世紀縦断調査であるが、実施・継続にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所や大学等研究者を交えた体制づくりが重要であったことが把握できる。また、現在文部科学省においても、調査内容の検討等にあたっては「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）研究会」が開催され、大学等研究者の協力のもとに実施されているところであるが、今後の調査実施・継続にあたっても、これらの体制の維持（あるいは拡充）が重要であることを示す資料となっている。

②環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」

現在中央省庁が実施主体となって、子供・保護者を対象として長期的に実施しているパネル調査として、環境省による「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」がある[54]。この調査は、平成 22（2010）年度に開始された、全国約 10 万組の親子を対象とした大規模疫学調査である。環境省の企画・立案に基づき、コアセンターを国立研究開発法人国立環境研究所に設置し、調査の総括的な管理・運営を行い、メディカルサポートセンターを国立研究開発法人国立成育医療研究センターに設置し、医学に関する専門的知見をもってこれを支援している。また、公募により決定された全国 15 か所の大学・研究機関に設置されたユニットセンターが各地区での参加者のリクルート及びフォローアップを実施するという体制で開始・実施されているが、調査開始当初から体制面においての工夫・検討がなされていたことがうかがえる。

また、今回参照した資料は環境省によって「基本計画」として取りまとめられ、公表されているものであるが、そこには「調査の参加者（子ども）が 40 歳程度になるまで調査を継続するにあたり、参加者（子ども）が 18 歳に達するまでの調査体制及び基本方針を取りまとめるものとする。また、参加者（子ども）の先頭集団が 17 歳に達する令和 10（2028）年度を目途に見直しを行うことを予定する。」と記載され、調査を長期的に実施・継続することを念頭に置いて方針等がまとめられていることがわかる[55]。

---

[54] 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）基本計画」（平成 22 年 3 月 30 日策定、令和 5 年 3 月 30 日改定）

[55] なお、基本計画には「本基本計画に基づき、研究実施機関が研究計画書及び実施マニュアルを別に作成する。」と記載されて

なお、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」は、調査対象が 40 歳程度になるまで継続することが当初から予定されていたわけではない。当初は参加者（子ども）が 13 歳に達するまでの計画であったものを、令和 3（2021）年に設置された「健康と環境に関する疫学調査検討会」において、これまでのエコチル調査の成果等について総括を行った上で、令和 4（2022）年 3 月に 13 歳以降も 40 歳程度まで調査を継続する方針が取りまとめられたとされている。また、その後令和 4（2022）年度の「エコチル調査企画評価委員会」において、基本計画の改定に向けた検討がなされた、とされている。「令和 4（2022）年度エコチル調査企画評価委員会」は医師や大学の研究者等 20 名の委員で構成され、これとは別に、「健康と環境に関する疫学調査検討会」（令和 3（2021）年 7 月～令和 4（2022）年 3 月開催）については 16 名の構成員で組成されたものとなっている。

このほかの特徴として、上述のように、「ユニットセンター」は、公募により決定された全国 15 か所の大学・研究機関が担う形であるが、全体調査と詳細調査に係る費用は環境省が事業予算として計上することとなっており、定常的な経費（人件費を中心とするユニットセンター運営経費）として、標準的な 6,000 人規模のユニットセンターの場合、年間約 1 億円を措置するとされている。「ユニットセンター」は参加者のリクルートを行い、追跡調査を担当する上での役割・責任を負うが、自らが収集した生体試料や質問票についていち早くデータにアクセスできること、独自の費用を用いれば、全体調査・詳細調査に影響を与えない範囲で追加調査が実施できることなど、いくつかのメリットもあるとされている。

③欧州における健康、加齢及び退職に関する調査（SHARE）

国外で実施されている調査に関して、実施体制の面での特徴が把握できるものとして、野村総合研究所（2012）に取り上げられている「欧州における健康、加齢及び退職に関する調査（SHARE）」が挙げられる[56]。この調査は、開始当初の時点で欧州 11 カ国の高齢者世帯・個人を対象として実施されているもので、欧州各国で実施される形であるが、各国の実施主体とは別に、ドイツの MEA（Munich Center for the Economics of Aging）が全体統括を行う体制となっている。

また、調査票の検討を行うにあたっては、「複数の行政機関の政策課題が反映できるよう、出資者である各行政機関の担当者が参画する協議会（Council）とともに、統計学や社会調査方法論等の専門家だけでなく、社会学、経済学、心理学、保健学等、多様な学術分野の視点も取り込むことができるよう、運営委員会（Management Board）が構築されている。学術領域別のコミッティー（委員会）を設置し、そこ

---

おり、より具体的な研究計画書やマニュアル等が別途整備されていることも把握できる。

[56] 調査の正式名称は The Survey of Health, Ageing and Retirement in Europe である。調査に関する最新の情報は https://share-eric.eu/のサイトでも把握することができる。

で議論を行った後、全体調整を行う調査票委員会（Questionnaire Committee）で調整し、研究者を中心とした複層的な体制によって、調査項目の調整が行われている。」とされている。このほか、「各省庁あるいは各学術分野からの要望によって調査項目が増えすぎないよう、ボリュームを一定範囲にとどめるための調整も行われている。このためには、それぞれの要望を中立的に取りまとめ、優先順位づけし、調査票に反映する項目を取捨選択・工夫する「調整役」と取捨選択の基準が必要となる。」ということも示されている。

「欧州における健康、加齢及び退職に関する調査（SHARE）」は、複数国にまたがって実施されているものであるために組織・体制面の充実が必然的に求められていたとも考えられるが、今後 21 世紀出生児縦断調査において厚生労働省をはじめとした他の省庁との間での協議・調整の重要性がより高まってくることが予想される中では、非常に参考になる事例であると考えられる。

④英国「National Survey of Health and Development（NSHD；全国健康発育調査）」

英国では複数の大規模・長期間でのパネル調査の事例があり、上述の野村総合研究所（2012）においても、「幼児の発達に関する調査（NCDS）」、「英国コーホート調査（BCS70）」、「21 世紀コーホート調査（MCS）」の 3 つの調査が紹介されているところであるが、これらとは別に、1946 年に開始され、その後「National Survey of Health and Development（NSHD；全国健康発育調査）」という名称で実施されている調査がある。また、この調査の実施・継続体制（及びその変遷）に関するエピソードについて、Nature（2011）[57]により把握することができる。

この調査は 1946 年 3 月の第 1 週に生まれた 1 万 6695 人を対象にした調査で、現在は英国医学研究会議（MRC）によって実施・運営されている。これまでの調査・研究の中で、主たる知見として「幼少時の生活環境が非常に重要だということ」が明らかになっており、また、11 歳を対象とする全国選抜試験（11+）の成績と社会階級との関連性を明らかにするなど、教育施策に深く関連する研究が実施されてきた。

ただし、1970 年代に入って調査対象者たちが 30 代になると、調査の休止が検討されたとされている。対象者の教育や職業、社会的地位に関する研究が進む中で、当初の関心は満たされ、病気や死亡の事例が出始めて再度研究上の関心を持てる時期までの休止が検討され、研究代表者であった Douglas も引退を考えていたとされる。

[57] Nature ダイジェスト Vol.8 No.6。原文は Study of a LIFETIME（Nature（2011-03-03））。このほか、調査に関する最新の情報は https://nshd.mrc.ac.uk/のサイトでも把握することができる。

その後調査が継続できた背景には、1979 年に社会疫学者 Wadsworth が調査の指揮を引き継ぎ、調査対象者の健康状態に着目した研究を推進したことがあったとされる。さらに、Wadsworth も研究職の定年に近づいた 2005 年に再度調査プロジェクトは危機に陥ったが、経済学が専攻の Kuh が指揮を引き継ぎ、DNA 情報を含む生物医学データを強化・発展させる方法で調査が継続されている。なお、Nature の記事が執筆された 2011 年現在で、調査には 25 人前後の常勤研究者および支援スタッフと、100 人の共同研究者がかかわっているとされている。

この、Nature の記事に示されたエピソードは、長期的に調査を続けることの難しさとともに、継続するために重要な事項が示されているものと考えられる。長期的に調査を継続する上では、調査対象者のライフステージの変化にあわせて主たる研究テーマを柔軟に切り替えることも重要であると考えられる。また、調査を継続する中では主たる研究者やスタッフが「引退」していくこともありうるが、時に分野の異なる研究者が後を引き継ぐことで、調査がより発展していく可能性があることも示されているものと解釈できる。

このほか、Nature の記事では、調査の継続にあたり、調査対象者との強い人間関係の構築が非常に重要であったということも記されている。研究チームは毎年対象者に最新の調査結果に関する情報を記したバースデーカードを送っているとされ、対象者の方にとって、そのバースデーカードが大切なものになっているということも紹介されている。

## 4. 小括

上記のように、本稿では、浜銀総合研究所（2022）で示した内容を参照しつつ、平成13年児縦断調査及び平成22年児縦断調査の実施・継続にあたって検討すべき事項をあらためて整理した。また、国内外の他のパネル調査に関する文献・資料を参照し、21 世紀出生児縦断調査の今後の実施・継続体制等のあり方の検討に資する情報を整理することを試みた。

平成 13 年児縦断調査については、本調査研究の中で「若者の生活や意識に関する調査」を通じて検討をした回顧法による調査項目設定の具体的検討に加えて、「さらなる詳細分析の検討・実施」や「就労や地域移動の状況、ライフイベント等を把握する調査を実施」などの点が検討事項であると考えられる。今後調査客体のライフステージの変化や、扱うべき内容がより多様化していくことを踏まえ、現在共管となっている厚生労働省との間で、あるいは他の省庁も交えて、今後重要になる調査項目に関する検討を定期的に行っていくことも重要になるものと考えられる。

平成22年児縦断調査についても同様であるが、検討すべき内容が平成13年児縦断調査とは異なることもあると考えられ、調査設計（の変更等）について、有識者も交えた形で、協議等を行う機会・タイミングを検討することが重要と考えられる。

国内外の他の調査事例を参考にすると、パネル調査の実施・継続のための体制として、まず、行政と大学等の機関・研究者との連携体制が重要であることが多く指摘されている。その上で、21 世紀出生児縦断調査について、今後調査客体のライフステージが変化していくことや扱うべき内容がより多様化していくことを踏まえ、連携体制や役割分担等についての基本計画やマニュアル等を整備すること、複層的な体制整備や「調整役」の設定等を行うこと、長期的な実施の中で主たる研究テーマや主担当者を柔軟に変更することを見込んでおくことなどが、より長期的な実施・継続のために重要なポイントとなりうるのではないかと考えられた。

長期的に調査を継続するにあたっては、調査対象となる方に調査結果のフィードバックを行うなど、継続的なコンタクトを取り続けることも重要であると考えられる。転居の有無・状況把握なども含め、対象者に対して、引き続き丁寧な連絡等を行うことが必要と考えられる。

# Ⅴ　参考資料

## 1.「若者の生活や意識に関する調査」調査票

# 若者の生活や意識に関する調査

家庭・学校・就業など、現代の若者を取り巻く生活環境は多種多様です。
この調査は、将来に関する希望や生活の状況等をお伺いし、今後の施策の検討に活用するためのものです。調査結果は、非常に重要なものとなりますので、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

この調査票は、封筒の宛名に記載されたご本人がお答えください。
調査票は、令和６年（2024 年）１月現在の状況で記入してください。

この調査票は文部科学省によって実施されています。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。
お答えいただいた内容については、この調査の目的以外には使用しませんのでご協力をお願いします。

## ■オンラインで回答する場合

- 二次元コードまたは URL（https://questant.jp/q/mext24）から回答画面にアクセスしてください。画面に従い、ログインパスワードと ID を入力して回答を開始してください。
- オンラインで回答された方は、紙の調査票の返送は不要です。

| | | |
|---|---|---|
| ログインパスワード | （半角 8 文字） | |
| ＩＤ | （半角 6 文字） | |

**回答期限：令和６年１月 31 日(水)**

## ■紙の調査票で回答する場合

- この調査票に直接ご記入のうえ、同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。

**投函期限：令和６年１月 31 日(水)**

【問い合わせ先】

株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部　担当：有海（ありかい）・秋本
電話：045-225-2372　　メール：manabi@yokohama-ri.co.jp

## 【あなたのことについて】

**問１**　あなたの出生時に戸籍や出生届に記載された性別をお答えください。

| | |
|---|---|
| **1**　男性 | **2**　女性 |

**問２**　配偶者はいますか。

※事実婚（婚姻届を出していない場合）は「1　いる」に回答してください。

| | |
|---|---|
| **1**　いる | **2**　いない（未婚・死別・離別のいずれか） |

**問３**　お子さんはいますか。

| | |
|---|---|
| **1**　いる | **2**　いない |

## 【最近の状態について】

**問４**　ここ最近のあなたの**心の状態**について教えてください。以下のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに**〇をつけてください。

| 最近２週間、私は… | まったくない | ほんのたまに | 半分以下の期間を | 半分以上の期間を | ほとんどいつも | いつも |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①　明るく、楽しい気分で過ごした | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ②　落ち着いた、リラックスした気分で過ごした | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③　意欲的で、活動的に過ごした | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ④　ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑤　日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

**問５**　ここ最近のあなたの体の健康状態についてお聞きします。全般的にみて、あなたの健康状態はおおむねどのような状態ですか。**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| とても良い | まあ良い | 普通 | あまり良くない | 良くない |

## 【生活の満足度・人間関係について】

**問６**　あなたは、次のことについて現在どれくらい満足していますか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | 満足している | どちらかといえば満足している | どちらともいえない | どちらかといえば不満である | 不満である | 非該当 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①　結婚生活 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 結婚をしていない |
| ②　友人関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 友人はいない |
| ③　あなたの親との関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 親はいない |
| ④　あなたの子との関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 子はいない |
| ⑤　生活全般 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | |

**問７**　以下のことはあなたにどれくらいあてはまりますか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | あてはまる | どちらかといえばあてはまる | どちらかといえばあてはまらない | あてはまらない |
|---|---|---|---|---|
| ①　人が困っているときは進んで助けている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②　人の役に立つ人間になりたいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③　今住んでいる地域の行事に参加している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤　自分と違う意見について考えるのは楽しい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥　将来の自分の仕事や生活に希望がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦　普段の生活の中で幸せな気持ちになることがよくある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧　あなたの良いところを認めてくれる人がいる | 1 | 2 | 3 | 4 |

## 【性格等について】

**問８**　現在のあなたの自分に対する自信について教えてください。以下のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに**〇をつけてください。

| | | とてもあてはまる | ややあてはまる | どちらともいえない | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 色々な良い素質を持っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② | 物事を人並みには、うまくやれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ | 自分には、自慢できるところがあまりない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ | 自分に対して肯定的である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ | だいたいにおいて、自分に満足している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ | もっと自分自身を尊敬できるようになりたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問９**　現在のあなたのがまん強さについて教えてください。以下のことについて、自分以外の人と比べてどうかを基準とし、**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | | 非常にあてはまる | かなりあてはまる | 少しあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 新しいアイディアや計画によって、それまで取り組んでいたことから注意がそれることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② | 困難があっても、私はやる気を失わない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ | あるアイディアや計画に一時的に夢中になっても、あとで興味を失うことがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ | 私は頑張り屋だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ | 目標を決めても、後から変えてしまうことがよくある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ | 数ヶ月以上かかるような計画に集中して取り組み続けることは難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ | 始めたことは、どんなことでも最後までやりとげる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ | 私は精魂傾けてものごとに取り組む | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

## 【現在の状況・学歴について】

**問10**　あなたの現在の状況について、**あてはまる番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

※大学進学や就職のため浪人し、予備校等に通っているなどの進学又は就職準備中の場合は「８　その他」を選択してください。

| | | |
|---|---|---|
| **1** | 在学していて、働いていない（「２」や「３」の選択肢のように働いていない） | 1～3 の方は 10-1 へ |
| **2** | 在学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている | |
| **3** | 在学しながら、就業（常勤の仕事）をしている | |
| **4** | 在学しておらず、就業（常勤の仕事）をしている | 4～8 の方は 10-2 へ |
| **5** | 在学しておらず、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている | |
| **6** | 在学も就業もしていない | |
| **7** | 公共職業能力開発施設等で訓練している<br>（海上技術学校、准看護師学校養成所などの教育訓練機関を含みます。） | |
| **8** | その他<br>（進学又は就職準備、病気やけがの療養中などです。） | |

**補問10-1**　在学している学校の種類はどれにあたりますか。**あてはまる番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

※“●●専門学校”は、多くの場合専修学校となります。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学院（専門職大学院を除く） | 専門職大学院 | 大学 | 短期大学 | 高等専門学校 | 専修学校・各種学校 | その他 |

**補問 10-2**　あなたの最終学歴について、**あてはまる番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

※「最終学歴」とは「最後に卒業した学校」です。やめた（中退した）学校は含みません。

※“●●専門学校”は、多くの場合専修学校となります。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学校 | 高等学校（中等教育学校後期課程を含みます） | 特別支援学校 | 専修学校・各種学校 | 高等専門学校 | 短期大学 | 大学 | 専門職大学院 | 大学院（専門職大学院を除く） | その他（外国の学校など） |

→ **補問 10-3**　あなたが最後に卒業した学校で学んでいた専門分野はどれにあたりますか。
**最も近い番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| **1** | 人文科学（文学、史学、哲学など） | **2** | 社会科学（法学、経済学、商学など） |
| **3** | 理学（数学、物理学、化学、生物学など） | **4** | 工学（機械、電気通信、土木建築、応用化学など） |
| **5** | 農学（農学、農芸化学、農業工学、獣医学など） | **6** | 保健（医学、歯学、薬学、看護学など） |
| **7** | 家政（家政学、食物学、被服学、児童学など） | **8** | 教育（教育学、小学校課程、中学校課程など） |
| **9** | 芸術（美術、デザイン、音楽など） | **10** | 国際関係（国際学、国際経営など） |
| **11** | その他 | | |

**※再度全員の方にお聞きします。**

**【学校をやめた経験について】**

**問 11**　あなたは、これまでに学校をやめた経験（中退した経験）がありますか。経験がある場合、**あてはまる学校の番号すべてに**〇をつけてください。

※“●●専門学校”は、多くの場合専修学校となります。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ない | 高等学校（中等教育学校後期課程を含みます） | 特別支援学校 | 専修学校・各種学校 | 高等専門学校 | 短期大学 | 大学 | 大学院 | その他（外国の学校など） |

**補問 11-1**　あなたが学校をやめた理由について、**あてはまる番号すべてに**〇をつけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 仕事に就きたかったため | 2 | 進路変更のため |
| 3 | 学業不振のため | 4 | 学校生活になじめなかったため |
| 5 | 病気やけがのため | 6 | 経済的な理由のため |
| 7 | 経済的な理由以外の家庭の事情のため | 8 | その他 |

**【仕事をやめた経験について】**

**問 12**　あなたは、これまでに仕事をやめた経験がありますか。**あてはまる番号 1 つに**〇をつけてください。

※在学しながら行っていたパート・アルバイト（非常勤の仕事）をやめた場合は含みません。

※転職して、すぐに次の仕事に就いた場合は含みません。

| 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|
| これまで働いたことがない | 仕事をやめた経験はない | 仕事をやめた経験がある |

**補問 12-1**　仕事をやめた理由について、**あてはまる番号すべてに**〇をつけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業所閉鎖・会社倒産・自営業主の廃業 | 2 | 解雇・人員整理 |
| 3 | 事業不振など先行き不安 | 4 | その他勤め先や事業の都合 |
| 5 | より良い条件の仕事を探すため | 6 | 起業のため |
| 7 | 結婚のため | 8 | 出産・育児のため |
| 9 | 介護・看護のため | 10 | 家事・通学のため |
| 11 | 健康上の理由のため | 12 | その他 |

**【職業について】**　**※現在就業していない方は、問 22 にお進みください**

**問 13**　現在のあなたの就業状況について、**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|
| 勤め（正規の社員・職員で常勤） | 勤め（非正規の社員・職員で常勤） | 勤め（パート・アルバイト） | 自営業・家業 | 内職 | その他 |

**問 14**　あなたはこれまで、転職（勤め先や勤務形態の変更等）を経験したことがありますか。
**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| 経験していない（最初の職である） | 1 回経験した | 2 回経験した | 3 回経験した | 4 回以上経験した |

**問 15**　あなたの現在のお仕事の内容（職種）について、**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | |
|---|---|
| 1 | 管理職（企業・官公庁における課長、部長、社長、経営者など） |
| 2 | 専門職・技術職（研究職、医師、看護師、技術者、法務・経営等の専門職、デザイナーなど） |
| 3 | 事務職（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業など） |
| 4 | 販売職（小売・卸売店主、店員、不動産売買、外勤のセールスなど） |
| 5 | サービス職（ウェイトレス、ホームヘルパー、塾講師、介護など） |
| 6 | 保安職（警察官、消防官、自衛官など） |
| 7 | 農林漁業職（米・野菜を作る、牛を育てる、林業、漁業など） |
| 8 | 生産工程の仕事（製品製造・組立、自動車整備、農水産物加工、食品加工など） |
| 9 | 輸送・機械運転職（船員、クレーン作業員など） |
| 10 | 建設・採掘職（建設作業員、大工、電気工事、土木作業員など） |
| 11 | 運搬・清掃・包装職（宅配便、新聞配達員、ハウスクリーニング、包装作業など） |

**問 16**　ふだんの 1 週間の労働時間で**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。
※「1 週間の労働時間」には、通勤時間、食事時間、休憩時間を含めないでください。
※現在、休業中の方は、「1　なし」に〇をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| なし | 20 時間未満 | 20 時間～40 時間未満 | 40 時間～60 時間未満 | 60 時間以上 |

**問 17**　あなたの働いて得た収入（税込み）についておたずねします。令和５年（2023 年）1 月から 12 月の 1 年間の金額について、**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。
※ボーナスも含めて、税金や社会保険料が引かれる前の金額でお考えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 50 万円未満 | 50 万円以上 100 万円未満 | 100 万円以上 150 万円未満 | 150 万円以上 200 万円未満 | 200 万円以上 250 万円未満 | 250 万円以上 300 万円未満 | 300 万円以上 350 万円未満 | 350 万円以上 400 万円未満 | 400 万円以上 450 万円未満 | 450 万円以上 500 万円未満 | 500 万円以上 |

**問 18**　あなたはいつまで就業先の企業等で働き続けたいですか。
**あてはまる番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|
| 定年・引退まで働き続けたい | 20 年は働き続けたい | 10 年は働き続けたい | 5 年は働き続けたい | 2・3 年は働き続けたい | すぐにでも退職したい |

**問 19**　あなたは、次のことについて現在どれくらい満足していますか。**それぞれについて、あてはまる番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

| | 満足している | どちらかといえば満足している | どちらともいえない | どちらかといえば不満である | 不満である |
|---|---|---|---|---|---|
| ①　現在の働き方（正社員・アルバイトなど） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②　会社の事業の内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③　あなたの仕事の内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④　給料 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤　労働時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥　休暇の日数・とりやすさ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦　職場の人間関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問 20**　あなたの現在の職場について、あてはまるものはありますか。**あてはまる番号<u>すべて</u>に○**をつけてください。

| | |
|---|---|
| 1　ほぼ毎日残業をしている | 2　社員数が恒常的に不足している |
| 3　いつも締め切り（納期）に追われている | 4　互いに助け合う雰囲気がある |
| 5　一人ひとりが独立して行う仕事が多い | 6　お互い連携しながら行う仕事が多い |
| 7　先輩が後輩を指導する雰囲気がある | 8　社員の希望で異動できる仕組みがある |
| 9　若手社員の仕事や生活についての相談相手を決めている | 10　将来の仕事について相談できる機会がある |
| 11　いずれもあてはまらない | |

**問 21**　あなたの現在の仕事や職場について、以下のことはどれくらいあてはまりますか。
**それぞれについて、あてはまる番号<u>１つ</u>に○**をつけてください。

| | とても あてはまる | やや あてはまる | あまり あてはまらない | まったく あてはまらない |
|---|---|---|---|---|
| ①　現在の仕事は、学校で学んだことが生かせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ②　現在の職場は、自分の能力を発揮できる | 1 | 2 | 3 | 4 |

**※再度全員の方にお聞きします。**

**【通っていた小学校について】**

**問 22**　あなたが通っていた小学校の種類について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。
※転校等があった場合には最も期間が長かった学校についてお答えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|
| 公立<br>（都道府県立、市立など） | 私立 | 国立 | その他<br>（外国の学校など） |

**問23**　あなたが小学6年生の時に住んでいたところはどのようなところでしたか。**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|
| 住宅の多い地域 | 商店の多い地域 | 工場の多い地域 | 田園・山間地域 | その他 | わからない・覚えていない |

**問24**　あなたが小学6年生の時のクラスの児童数について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 人以下 | 21～25 人 | 26～30 人 | 31～35 人 | 36～40 人 | 41 人以上 | わからない・覚えていない |

**問25**　あなたが小学6年生の時の学年のクラス数について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 クラス<br>（複式学級含む） | 2 クラス | 3 クラス | 4 クラス | 5 クラス | 6 クラス以上 | わからない・覚えていない |

**問26**　あなたが小学6年生の時、あなたが通っていた小学校では、次のことはどのような様子でしたか。それぞれについて、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| | そう思う | まあそう思う | あまりそう思わない | そう思わない | わからない・覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ① クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② クラスがうまくいかない時みんな心配した | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ クラスでは、もめごとが少なかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ クラスがばらばらになる雰囲気があった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ クラスでは、心から楽しめた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ クラスが気に入っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ 個人的な問題を安心して話せた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ 自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑨ クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑩ クラスは、勉強熱心だった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑪ クラスは、規則を守っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑫ クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問27**　あなたが小学6年生の時、あなたが通っていた小学校では、学校の授業において、次のようなことはどれくらいありましたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | よく あった | ときどき あった | あまり なかった | ほとんど なかった | わからない・覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ① パソコンやタブレット（iPad など）を使う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 観察・実験や調査などで考えを確かめる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 調べたり考えたりしたことを発表する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ テーマについて討論（話し合い）をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 学校の先生以外の人の話を聞く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ ドリルやプリントの問題を解く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ 確認テストや小テストを受ける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問28**　あなたが小学6年生の時、あなたは、通っていた小学校での生活をどのように考えていましたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | とても そう思う | まあそう思う | あまりそう 思わない | まったく そう思わない | わからない・覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ① ためになると思える授業がたくさんあった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 楽しいと思える授業がたくさんあった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 学校の勉強は将来役に立つと思った | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 授業の内容をよく理解できていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 先生との関係はうまくいっていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ 先生は信頼できた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問29**　あなたは、小学5年生の時に、塾や家庭教師、通信教育（添削教材やプリント教材などを使った通信学習）などを受けていましたか。**あてはまる番号すべてに〇**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| 学習塾 | 家庭教師 | 通信教育 | いずれも 受けていなかった | 覚えていない |

補問29-1、29-2へ　　補問29-1へ

**補問 29-1**　**学習塾や家庭教師、通信教育について、受けていた主な目的は何でしたか。**
**あてはまる番号１つ**に〇をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|
| 主に学校の勉強の補助・補習のため | 主に受験や進学のため | その他の目的のため | 覚えていない |

**補問 29-2**　**学習塾や家庭教師について、１週間に何日受けていましたか。**
**あてはまる番号１つ**に〇をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 週に1日 | 週に2日 | 週に3日 | 週に4日 | 週に5日 | 週に６日 | 週に7日 | 覚えていない |

## 【通っていた中学校について】

**問 30**　あなたが通っていた中学校の種類について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。
※転校等があった場合には最も期間が長かった学校についてお答えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|
| 公立<br>（都道府県立、市立など） | 私立 | 国立 | その他<br>（外国の学校など） |

**問31**　あなたが中学3年生の時のクラスの生徒数について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 人以下 | 21～25 人 | 26～30 人 | 31～35 人 | 36～40 人 | 41 人以上 | わからない・<br>覚えていない |

**問32**　あなたが中学3年生の時の学年のクラス数について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 クラス<br>（複式学級含む） | 2 クラス | 3・4 クラス | 5・6 クラス | 7・8 クラス | 9 クラス以上 | わからない・<br>覚えていない |

**問33**　あなたが中学3年生の時、あなたの成績は学年の中でどれくらいでしたか。**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上の方 | やや上の方 | 真ん中あたり | やや下の方 | 下の方 | わからない・<br>覚えていない |

**問34**　あなたは、中学3年生の時、次の教科が得意でしたか、それとも不得意でしたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| | 得意で<br>あった | 少し得意で<br>あった | どちらでも<br>なかった | あまり得意で<br>なかった | 得意で<br>なかった | わからない・<br>覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 国語 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ② 社会（地理歴史・公民） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③ 数学 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ④ 理科（物理・化学・生物・地学等） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑤ 外国語（英語等） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

**問 35**　あなたは、中学校で次の教科を女性の先生に教わっていましたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| | 女性の先生に<br>教わっていた | 女性の先生には<br>教わっていなかった | わからない・<br>覚えていない |
|---|---|---|---|
| ① 国語 | 1 | 2 | 3 |
| ② 社会（地理歴史・公民） | 1 | 2 | 3 |
| ③ 数学 | 1 | 2 | 3 |
| ④ 理科（物理・化学・生物・地学等） | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 外国語（英語等） | 1 | 2 | 3 |

**問 36**　あなたが通っていた中学校では、以下のようなことがありましたか。
**あてはまる番号すべてに〇**をつけてください。

| | |
|---|---|
| **1**　学校が荒れていた | **2**　遅刻者が多かった |
| **3**　校則が厳しかった | **4**　どれもあてはまらない |
| **5**　わからない・覚えていない | |

**問37**　あなたが中学3年生の時、あなたが通っていた中学校では、次のことはどのような様子でしたか。
**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | そう思う | まあ そう思う | あまり そう思わない | そう 思わない | わからない・ 覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ①　クラスの活動にみんな自分から進んで参加した | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②　クラスがうまくいかない時みんな心配した | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③　クラスでは、もめごとが少なかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④　クラスがばらばらになる雰囲気があった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤　クラスでは、心から楽しめた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥　クラスが気に入っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦　個人的な問題を安心して話せた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧　自分達の気持ちを気軽に言い合えた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑨　クラスのみんなは、授業中よく集中していた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑩　クラスは、勉強熱心だった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑪　クラスは、規則を守っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑫　クラスは先生の指示にすばやく従っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問38**　あなたが中学3年生の時、あなたが通っていた中学校では、学校の授業において、次のようなことはどれくらいありましたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | よく あった | ときどき あった | あまり なかった | ほとんど なかった | わからない・ 覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ①　パソコンやタブレット（iPad など）を使う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②　観察・実験や調査などで考えを確かめる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③　調べたり考えたりしたことを発表する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④　テーマについて討論（話し合い）をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤　学校の先生以外の人の話を聞く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥　ドリルやプリントの問題を解く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦　確認テストや小テストを受ける | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問39**　あなたが中学3年生の時、あなたは、通っていた中学校での生活をどのように考えていましたか。
**それぞれについて、あてはまる番号１つに〇**をつけてください。

| | とても そう思う | まあそう思う | あまりそう 思わない | まったく そう思わない | わからない・ 覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ①　ためになると思える授業がたくさんあった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ②　楽しいと思える授業がたくさんあった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③　学校の勉強は将来役に立つと思った | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④　授業の内容をよく理解できていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤　先生との関係はうまくいっていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥　先生は信頼できた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問 40**　あなたは、中学２年生の時に、塾や家庭教師、通信教育（添削教材やプリント教材などを使った通信学習）などを受けていましたか。**あてはまる番号すべてに〇**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| 学習塾 | 家庭教師 | 通信教育 | いずれも 受けていなかった | 覚えていない |

補問40-1、40-2へ　　補問40-1へ

**補問 40-1**　**学習塾や家庭教師、通信教育について、受けていた主な目的は何でしたか。**
**あてはまる番号１つ**に〇をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|
| 主に学校の勉強の補助・ 補習のため | 主に受験や進学のため | その他の目的のため | 覚えていない |

**補問 40-2**　**学習塾や家庭教師について、１週間に何日受けていましたか。**
**あてはまる番号１つ**に〇をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 週に1日 | 週に2日 | 週に3日 | 週に4日 | 週に5日 | 週に６日 | 週に7日 | 覚えていない |

## 【通っていた高等学校（高校）について】

**問 41**　あなたは高校に通った経験がありますか。

| 1　ある | 2　ない |
|---|---|

**※高校に通った経験がない方は、問 50 にお進みください**

**問 42**　あなたが通っていた高校の種類について、**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。
※転校等があった場合には最も期間が長かった学校についてお答えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|
| 公立 （都道府県立、市立など） | 私立 | 国立 | その他 （外国の学校など） |

**問 43**　あなたが通っていた高校の課程について、**あてはまる番号１つに〇**をつけてください。
※転校等があった場合には最も期間が長かった学校についてお答えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|
| 全日制 | 定時制 | 通信制 | その他 （外国の学校など） |

**問 44**　あなたが通っていた高校の学科について、**あてはまる番号１つに○**をつけてください。
※転校等があった場合には最も期間が長かった学校についてお答えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 普通科 | 工業科 | 商業科 | 農業・水産科 | 看護・福祉科 | 家政・調理科 | 情報科 | 総合学科 | 理数科 | 英語・外国語学科 | その他 |

**問45**　あなたが通っていた高校では、大学に進む人がどのくらいいましたか。**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|
| ほぼ全員 | ７～８割 | 半数くらい | ２～３割 | ほとんどいない | わからない・覚えていない |

**問46**　あなたが高校3年生の時、あなたの成績は学年の中でどれくらいでしたか。**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上の方 | やや上の方 | 真ん中あたり | やや下の方 | 下の方 | わからない・覚えていない |

**問47**　あなたは、高校3年生の時、次の教科が得意でしたか、それとも不得意でしたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| | 得意であった | 少し得意であった | どちらでもなかった | あまり得意でなかった | 得意でなかった | わからない・覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 国語 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ② 社会（地理歴史・公民） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③ 数学 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ④ 理科（物理・化学・生物・地学等） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑤ 外国語（英語等） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

**問48**　あなたは、高校で次の教科を女性の先生に教わっていましたか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| | 女性の先生に教わっていた | 女性の先生には教わっていなかった | わからない・覚えていない |
|---|---|---|---|
| ① 国語 | 1 | 2 | 3 |
| ② 社会（地理歴史・公民） | 1 | 2 | 3 |
| ③ 数学 | 1 | 2 | 3 |
| ④ 理科（物理・化学・生物・地学等） | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 外国語（英語等） | 1 | 2 | 3 |

**問 49**　あなたが通っていた高校では、以下のようなことがありましたか。**あてはまる番号すべてに○**をつけてください。

| | |
|---|---|
| 1　学校が荒れていた | 2　遅刻者が多かった |
| 3　校則が厳しかった | 4　どれもあてはまらない |
| 5　わからない・覚えていない | |

**※再度全員の方にお聞きします。**

**【家庭のこと、保護者のことなどについて】**

**問50** あなたは現在、母親・父親と同じ家に住んでいますか。**それぞれについて、あてはまる番号1つに○**をつけてください。

| | 母親／父親はいない | 同じ家に住んでいる | 単身赴任など一時的に別の家に住んでいる | 別の家に住んでいる |
|---|---|---|---|---|
| ① 母親 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 父親 | 1 | 2 | 3 | 4 |

**問51** あなたの母親・父親が最後に卒業した学校についておたずねします。**それぞれについて、あてはまる番号1つに○**をつけてください。

| | 中学校 | 高校 | 専修・専門学校 | 短大 | 大学・大学院 | その他 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 母親 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ② 父親 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

**問 52** あなたは今までに以下のような出来事を経験したことがありますか。**あてはまる番号すべてに○**をつけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 親が失業した／親が事業で失敗した | 2 | 親が逮捕された |
| 3 | 親が離婚した | 4 | 親が再婚した |
| 5 | 親が大きな事故にあった | 6 | 親が手術や長期療養を要する病気・ケガをした |
| 7 | 親が亡くなった | 8 | きょうだいや親しい友人が亡くなった |
| 9 | 自分が補導・逮捕された | 10 | 自分が離婚した |
| 11 | 自分が大きな事故にあった | 12 | 自分が手術や長期療養を要する病気・ケガをした |
| 13 | 自分が暴行・強盗・恐喝などの犯罪被害にあった | 14 | 自分が大きな災害にあった |
| 15 | 該当するものはない | | |

**問 53** あなたは今までに、学校での経験として以下のようなことを経験したことがありますか。**あてはまる番号すべてに○**をつけてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 自分が学校でいじめを受けた | 2 | 自分が学校でいじめをした（いじめに加担した） |
| 3 | 自分が小学生の時に不登校を経験した | 4 | 自分が中学生の時に不登校を経験した |
| 5 | 自分が高校生の時に不登校を経験した | 6 | 自分が高校生の時に留年した |
| 7 | 自分が大学・短大・専門学校などの学生の時に留年した | 8 | 該当するものはない |

**問54**　あなたが15歳（中学3年生）だった頃、あなたの育った環境（家庭や施設等）の雰囲気はいかがでしたか。**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|
| 暖かい雰囲気だった | どちらかというと暖かい雰囲気だった | どちらかというと暖かい雰囲気ではなかった | 暖かい雰囲気ではなかった | わからない・覚えていない |

**問55**　あなたが15歳（中学3年生）だった頃、あなたのお宅には本がどのくらいありましたか。**あてはまる番号１つに○**をつけてください。

※雑誌、マンガ、教科書は含めないでお答えください。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0～10 冊 | 11～25 冊 | 26～100 冊 | 101～200 冊 | 201～500 冊 | 501 冊以上 | わからない・覚えていない |

**問56**　あなたが中学生だったころのあなたの親・保護者は、次のことにどの程度あてはまりますか。**それぞれについて、あてはまる番号１つに○**をつけてください。

| | とても あてはまる | やや あてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない | わからない・覚えていない |
|---|---|---|---|---|---|
| ① あなたの学校での成績に関心を持っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② あなたの勉強がはかどるように気を使っていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ あなたの学校での授業参観やPTAの行事などに参加していた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ あなたの礼儀作法に厳しかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ あなたのことをよく理解していた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ あなたの将来に期待していた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ 親・保護者との関係はうまくいっていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ 親・保護者は信頼できた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**質問は以上で終了です。ありがとうございました。**

## 2.「若者の生活や意識に関する調査」集計表

### 問1　あなたの出生時に戸籍や出生届に記載された性別をお答えください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 男性 | 124 | 34.5 |
| 女性 | 234 | 65.2 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問2　配偶者はいますか。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| いる | 59 | 16.4 |
| いない（未婚・死別・離別のいずれか） | 298 | 83.0 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問3　お子さんはいますか。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| いる | 33 | 9.2 |
| いない | 322 | 89.7 |
| 無回答 | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問4　ここ最近のあなたの心の状態について教えてください。以下のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに◯をつけてください。

### 問4①明るく、楽しい気分で過ごした

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| まったくない | 12 | 3.3 |
| ほんのたまに | 52 | 14.5 |
| 半分以下の期間を | 74 | 20.6 |
| 半分以上の期間を | 102 | 28.4 |
| ほとんどいつも | 88 | 24.5 |
| いつも | 31 | 8.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問4②落ち着いた、リラックスした気分で過ごした

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| まったくない | 15 | 4.2 |
| ほんのたまに | 54 | 15.0 |
| 半分以下の期間を | 77 | 21.4 |
| 半分以上の期間を | 98 | 27.3 |
| ほとんどいつも | 82 | 22.8 |
| いつも | 32 | 8.9 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問4③意欲的で、活動的に過ごした

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| まったくない | 25 | 7.0 |
| ほんのたまに | 63 | 17.5 |
| 半分以下の期間を | 69 | 19.2 |
| 半分以上の期間を | 101 | 28.1 |
| ほとんどいつも | 72 | 20.1 |
| いつも | 26 | 7.2 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問4④ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| まったくない | 34 | 9.5 |
| ほんのたまに | 73 | 20.3 |
| 半分以下の期間を | 81 | 22.6 |
| 半分以上の期間を | 88 | 24.5 |
| ほとんどいつも | 56 | 15.6 |
| いつも | 27 | 7.5 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問4⑤日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| まったくない | 27 | 7.5 |
| ほんのたまに | 78 | 21.7 |
| 半分以下の期間を | 63 | 17.5 |
| 半分以上の期間を | 79 | 22.0 |
| ほとんどいつも | 73 | 20.3 |
| いつも | 38 | 10.6 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問5　ここ最近のあなたの体の健康状態についてお聞きします。全般的にみて、あなたの健康状態はおおむねどのような状態ですか。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とても良い | 55 | 15.3 |
| まあ良い | 108 | 30.1 |
| 普通 | 123 | 34.3 |
| あまり良くない | 58 | 16.2 |
| 良くない | 12 | 3.3 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問6　あなたは、次のことについて現在どれくらい満足していますか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問6①結婚生活**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 42 | 11.7 |
| どちらかといえば満足している | 21 | 5.8 |
| どちらともいえない | 4 | 1.1 |
| どちらかといえば不満である | 3 | 0.8 |
| 不満である | 2 | 0.6 |
| 非該当（結婚をしていない） | 285 | 79.4 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問6②友人関係**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 130 | 36.2 |
| どちらかといえば満足している | 142 | 39.6 |
| どちらともいえない | 55 | 15.3 |
| どちらかといえば不満である | 11 | 3.1 |
| 不満である | 5 | 1.4 |
| 非該当（友人はいない） | 16 | 4.5 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問6③あなたの親との関係**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 182 | 50.7 |
| どちらかといえば満足している | 111 | 30.9 |
| どちらともいえない | 43 | 12.0 |
| どちらかといえば不満である | 11 | 3.1 |
| 不満である | 9 | 2.5 |
| 非該当（親はいない） | 2 | 0.6 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問6④あなたの子との関係**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 30 | 8.4 |
| どちらかといえば満足している | 4 | 1.1 |
| どちらともいえない | 1 | 0.3 |
| 不満である | 1 | 0.3 |
| 非該当（子はいない） | 321 | 89.4 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問6⑤生活全般**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 62 | 17.3 |
| どちらかといえば満足している | 176 | 49.0 |
| どちらともいえない | 74 | 20.6 |
| どちらかといえば不満である | 32 | 8.9 |
| 不満である | 10 | 2.8 |
| 無回答 | 5 | 1.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問7　以下のことはあなたにどれくらいあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

問7①人が困っているときは進んで助けている

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 89 | 24.8 |
| どちらかといえばあてはまる | 223 | 62.1 |
| どちらかといえばあてはまらない | 37 | 10.3 |
| あてはまらない | 10 | 2.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問7②人の役に立つ人間になりたいと思う

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 173 | 48.2 |
| どちらかといえばあてはまる | 150 | 41.8 |
| どちらかといえばあてはまらない | 24 | 6.7 |
| あてはまらない | 12 | 3.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問7③今住んでいる地域の行事に参加している

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 11 | 3.1 |
| どちらかといえばあてはまる | 34 | 9.5 |
| どちらかといえばあてはまらない | 88 | 24.5 |
| あてはまらない | 226 | 63.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問7④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 40 | 11.1 |
| どちらかといえばあてはまる | 139 | 38.7 |
| どちらかといえばあてはまらない | 121 | 33.7 |
| あてはまらない | 59 | 16.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問7⑤自分と違う意見について考えるのは楽しい

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 90 | 25.1 |
| どちらかといえばあてはまる | 159 | 44.3 |
| どちらかといえばあてはまらない | 88 | 24.5 |
| あてはまらない | 22 | 6.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問7⑥将来の自分の仕事や生活に希望がある

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 73 | 20.3 |
| どちらかといえばあてはまる | 131 | 36.5 |
| どちらかといえばあてはまらない | 90 | 25.1 |
| あてはまらない | 65 | 18.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問7⑦普段の生活の中で幸せな気持ちになることがよくある

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 98 | 27.3 |
| どちらかといえばあてはまる | 174 | 48.5 |
| どちらかといえばあてはまらない | 69 | 19.2 |
| あてはまらない | 18 | 5.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問7⑧あなたの良いところを認めてくれる人がいる

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| あてはまる | 183 | 51.0 |
| どちらかといえばあてはまる | 124 | 34.5 |
| どちらかといえばあてはまらない | 40 | 11.1 |
| あてはまらない | 12 | 3.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

## 問8　現在のあなたの自分に対する自信について教えてください。以下のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

### 問8①色々な良い素質を持っている

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 57 | 15.9 |
| ややあてはまる | 122 | 34.0 |
| どちらともいえない | 89 | 24.8 |
| あまりあてはまらない | 69 | 19.2 |
| まったくあてはまらない | 21 | 5.8 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問8②物事を人並みには、うまくやれる

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 77 | 21.4 |
| ややあてはまる | 139 | 38.7 |
| どちらともいえない | 72 | 20.1 |
| あまりあてはまらない | 48 | 13.4 |
| まったくあてはまらない | 22 | 6.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問8③自分には、自慢できるところがあまりない

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 55 | 15.3 |
| ややあてはまる | 91 | 25.3 |
| どちらともいえない | 91 | 25.3 |
| あまりあてはまらない | 89 | 24.8 |
| まったくあてはまらない | 32 | 8.9 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問8④自分に対して肯定的である**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 57 | 15.9 |
| ややあてはまる | 111 | 30.9 |
| どちらともいえない | 83 | 23.1 |
| あまりあてはまらない | 79 | 22.0 |
| まったくあてはまらない | 28 | 7.8 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問8⑤だいたいにおいて、自分に満足している**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 56 | 15.6 |
| ややあてはまる | 104 | 29.0 |
| どちらともいえない | 80 | 22.3 |
| あまりあてはまらない | 85 | 23.7 |
| まったくあてはまらない | 34 | 9.5 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問8⑥もっと自分自身を尊敬できるようになりたい**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 129 | 35.9 |
| ややあてはまる | 128 | 35.7 |
| どちらともいえない | 58 | 16.2 |
| あまりあてはまらない | 29 | 8.1 |
| まったくあてはまらない | 15 | 4.2 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問9　現在のあなたのがまん強さについて教えてください。以下のことについて、自分以外の人と比べてどうかを基準とし、それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問9①新しいアイディアや計画によって、それまで取り組んでいたことから注意がそれることがある**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 24 | 6.7 |
| かなりあてはまる | 79 | 22.0 |
| 少しあてはまる | 149 | 41.5 |
| あまりあてはまらない | 87 | 24.2 |
| まったくあてはまらない | 18 | 5.0 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問9②困難があっても、私はやる気を失わない**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 23 | 6.4 |
| かなりあてはまる | 69 | 19.2 |
| 少しあてはまる | 125 | 34.8 |
| あまりあてはまらない | 119 | 33.1 |
| まったくあてはまらない | 23 | 6.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問9③あるアイディアや計画に一時的に夢中になっても、あとで興味を失うことがある

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 51 | 14.2 |
| かなりあてはまる | 95 | 26.5 |
| 少しあてはまる | 123 | 34.3 |
| あまりあてはまらない | 75 | 20.9 |
| まったくあてはまらない | 15 | 4.2 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問9④私は頑張り屋だ

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 57 | 15.9 |
| かなりあてはまる | 92 | 25.6 |
| 少しあてはまる | 116 | 32.3 |
| あまりあてはまらない | 68 | 18.9 |
| まったくあてはまらない | 25 | 7.0 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問9⑤目標を決めても、後から変えてしまうことがよくある

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 34 | 9.5 |
| かなりあてはまる | 86 | 24.0 |
| 少しあてはまる | 140 | 39.0 |
| あまりあてはまらない | 73 | 20.3 |
| まったくあてはまらない | 26 | 7.2 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問9⑥数ヶ月以上かかるような計画に集中して取り組み続けることは難しい

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 42 | 11.7 |
| かなりあてはまる | 100 | 27.9 |
| 少しあてはまる | 101 | 28.1 |
| あまりあてはまらない | 93 | 25.9 |
| まったくあてはまらない | 23 | 6.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問9⑦始めたことは、どんなことでも最後までやりとげる

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 32 | 8.9 |
| かなりあてはまる | 84 | 23.4 |
| 少しあてはまる | 132 | 36.8 |
| あまりあてはまらない | 97 | 27.0 |
| まったくあてはまらない | 14 | 3.9 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問9⑧私は精魂傾けてものごとに取り組む

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 非常にあてはまる | 32 | 8.9 |
| かなりあてはまる | 92 | 25.6 |
| 少しあてはまる | 137 | 38.2 |
| あまりあてはまらない | 78 | 21.7 |
| まったくあてはまらない | 20 | 5.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問10　あなたの現在の状況について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 在学していて、働いていない（「２」や「３」の選択肢のように働いていない） | 7 | 1.9 |
| 在学しながら、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている | 7 | 1.9 |
| 在学しながら、就業（常勤の仕事）をしている | 6 | 1.7 |
| 在学しておらず、就業（常勤の仕事）をしている | 255 | 71.0 |
| 在学しておらず、パート・アルバイト（非常勤の仕事）をしている | 33 | 9.2 |
| 在学も就業もしていない | 17 | 4.7 |
| 公共職業能力開発施設等で訓練している（海上技術学校、准看護師学校養成所などの教育訓練機関を含みます。） | 1 | 0.3 |
| その他（進学又は就職準備、病気やけがの療養中などです。） | 15 | 4.2 |
| 無回答 | 18 | 5.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 補問10-1　在学している学校の種類はどれにあたりますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 大学院（専門職大学院を除く） | 6 | 30.0 |
| 専門職大学院 | 1 | 5.0 |
| 大学 | 10 | 50.0 |
| 専修学校・各種学校 | 2 | 10.0 |
| その他 | 1 | 5.0 |
| 合計 | 20 | 100.0 |

**補問10-2　あなたの最終学歴について、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 中学校 | 4 | 1.2 |
| 高等学校（中等教育学校後期課程を含みます） | 53 | 16.5 |
| 特別支援学校 | 1 | 0.3 |
| 専修学校・各種学校 | 40 | 12.5 |
| 高等専門学校 | 12 | 3.7 |
| 短期大学 | 22 | 6.9 |
| 大学 | 166 | 51.7 |
| 専門職大学院 | 2 | 0.6 |
| 大学院（専門職大学院を除く） | 18 | 5.6 |
| その他（外国の学校など） | 1 | 0.3 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 321 | 100.0 |

**補問10-3　あなたが最後に卒業した学校で学んでいた専門分野はどれにあたりますか。最も近い番号1つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 人文科学（文学、史学、哲学など） | 22 | 10.0 |
| 社会科学（法学、経済学、商学など） | 37 | 16.7 |
| 理学（数学、物理学、化学、生物学など） | 5 | 2.3 |
| 工学（機械、電気通信、土木建築、応用化学など） | 32 | 14.5 |
| 農学（農学、農芸化学、農業工学、獣医学など） | 6 | 2.7 |
| 保健（医学、歯学、薬学、看護学など） | 37 | 16.7 |
| 家政（家政学、食物学、被服学、児童学など） | 14 | 6.3 |
| 教育（教育学、小学校課程、中学校課程など） | 20 | 9.0 |
| 芸術（美術、デザイン、音楽など） | 13 | 5.9 |
| 国際関係（国際学、国際経営など） | 13 | 5.9 |
| その他 | 21 | 9.5 |
| 無回答 | 1 | 0.5 |
| 合計 | 221 | 100.0 |

**問11　あなたは、これまでに学校をやめた経験（中退した経験）がありますか。経験がある場合、あてはまる学校の番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| ない | 324 | 90.3% |
| 高等学校（中等教育学校後期課程を含みます） | 7 | 1.9% |
| 専修学校・各種学校 | 3 | 0.8% |
| 高等専門学校 | 1 | 0.3% |
| 短期大学 | 1 | 0.3% |
| 大学 | 13 | 3.6% |
| 大学院 | 1 | 0.3% |
| その他（外国の学校など） | 1 | 0.3% |
| 無回答 | 9 | 2.5% |
| 合計 | 359 | |

**補問11-1　あなたが学校をやめた理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 仕事に就きたかったため | 1 | 3.8% |
| 進路変更のため | 4 | 15.4% |
| 学業不振のため | 10 | 38.5% |
| 学校生活になじめなかったため | 8 | 30.8% |
| 病気やけがのため | 1 | 3.8% |
| 経済的な理由のため | 5 | 19.2% |
| 経済的な理由以外の家庭の事情のため | 1 | 3.8% |
| その他 | 7 | 26.9% |
| 合計 | 26 | |

**問12　あなたは、これまでに仕事をやめた経験がありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| これまで働いたことがない | 19 | 5.3 |
| 仕事をやめた経験はない | 221 | 61.6 |
| 仕事をやめた経験がある | 113 | 31.5 |
| 無回答 | 6 | 1.7 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**補問12-1　仕事をやめた理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 事業所閉鎖・会社倒産・自営業主の廃業 | 5 | 4.4% |
| 解雇・人員整理 | 4 | 3.5% |
| 事業不振など先行き不安 | 16 | 14.2% |
| その他勤め先や事業の都合 | 6 | 5.3% |
| より良い条件の仕事を探すため | 62 | 54.9% |
| 起業のため | 1 | 0.9% |
| 結婚のため | 7 | 6.2% |
| 出産・育児のため | 9 | 8.0% |
| 介護・看護のため | 1 | 0.9% |
| 家事・通学のため | 2 | 1.8% |
| 健康上の理由のため | 31 | 27.4% |
| その他 | 34 | 30.1% |
| 合計 | 113 | |

**問13　現在のあなたの就業状況について、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 勤め(正規の社員・職員で常勤) | 235 | 79.9 |
| 勤め(非正規の社員・職員で常勤) | 18 | 6.1 |
| 勤め(パート・アルバイト) | 31 | 10.5 |
| 自営業・家業 | 7 | 2.4 |
| その他 | 2 | 0.7 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問14　あなたはこれまで、転職（勤め先や勤務形態の変更等）を経験したことがありますか。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 経験していない（最初の職である） | 198 | 67.3 |
| 1回経験した | 52 | 17.7 |
| 2回経験した | 26 | 8.8 |
| 3回経験した | 5 | 1.7 |
| 4回以上経験した | 12 | 4.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問15　あなたの現在のお仕事の内容（職種）について、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 管理職（企業・官公庁における課長、部長、社長、経営者など） | 1 | 0.3 |
| 専門職・技術職（研究職、医師、看護師、技術者、法務・経営等の専門職、デザイナーなど） | 127 | 43.2 |
| 事務職（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業など） | 64 | 21.8 |
| 販売職（小売・卸売店主、店員、不動産売買、外勤のセールスなど） | 30 | 10.2 |
| サービス職（ウェイトレス、ホームヘルパー、塾講師、介護など） | 34 | 11.6 |
| 保安職（警察官、消防官、自衛官など） | 2 | 0.7 |
| 農林漁業職（米・野菜を作る、牛を育てる、林業、漁業など） | 2 | 0.7 |
| 生産工程の仕事（製品製造・組立、自動車整備、農水産物加工、食品加工など） | 17 | 5.8 |
| 輸送・機械運転職（船員、クレーン作業員など） | 3 | 1.0 |
| 建設・採掘職（建設作業員、大工、電気工事、土木作業員など） | 4 | 1.4 |
| 運搬・清掃・包装職（宅配便、新聞配達員、ハウスクリーニング、包装作業など） | 7 | 2.4 |
| 無回答 | 3 | 1.0 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問16　ふだんの1週間の労働時間であてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| なし | 2 | 0.7 |
| 20時間未満 | 14 | 4.8 |
| 20時間～40時間未満 | 74 | 25.2 |
| 40時間～60時間未満 | 185 | 62.9 |
| 60時間以上 | 18 | 6.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問17　あなたの働いて得た収入（税込み）についておたずねします。令和５年（2023年）1月から12月の1年間の金額について、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 50万円未満 | 6 | 2.0 |
| 50万円以上100万円未満 | 10 | 3.4 |
| 100万円以上150万円未満 | 13 | 4.4 |
| 150万円以上200万円未満 | 21 | 7.1 |
| 200万円以上250万円未満 | 33 | 11.2 |
| 250万円以上300万円未満 | 42 | 14.3 |
| 300万円以上350万円未満 | 47 | 16.0 |
| 350万円以上400万円未満 | 51 | 17.3 |
| 400万円以上450万円未満 | 38 | 12.9 |
| 450万円以上500万円未満 | 11 | 3.7 |
| 500万円以上 | 21 | 7.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問18　あなたはいつまで就業先の企業等で働き続けたいですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 定年・引退まで働き続けたい | 49 | 16.7 |
| 20年は働き続けたい | 12 | 4.1 |
| 10年は働き続けたい | 18 | 6.1 |
| 5年は働き続けたい | 68 | 23.1 |
| 2・3年は働き続けたい | 81 | 27.6 |
| すぐにでも退職したい | 64 | 21.8 |
| 無回答 | 2 | 0.7 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問19　あなたは、次のことについて現在どれくらい満足していますか。それぞれについて、あてはまる番号１つに◯をつけてください。**

**問19①現在の働き方（正社員・アルバイトなど）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 96 | 32.7 |
| どちらかといえば満足している | 98 | 33.3 |
| どちらともいえない | 44 | 15.0 |
| どちらかといえば不満である | 40 | 13.6 |
| 不満である | 15 | 5.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問19②会社の事業の内容**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 56 | 19.0 |
| どちらかといえば満足している | 118 | 40.1 |
| どちらともいえない | 76 | 25.9 |
| どちらかといえば不満である | 32 | 10.9 |
| 不満である | 11 | 3.7 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

### 問19③あなたの仕事の内容

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 55 | 18.7 |
| どちらかといえば満足している | 114 | 38.8 |
| どちらともいえない | 71 | 24.1 |
| どちらかといえば不満である | 38 | 12.9 |
| 不満である | 15 | 5.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

### 問19④給料

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 29 | 9.9 |
| どちらかといえば満足している | 64 | 21.8 |
| どちらともいえない | 69 | 23.5 |
| どちらかといえば不満である | 71 | 24.1 |
| 不満である | 60 | 20.4 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

### 問19⑤労働時間

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 66 | 22.4 |
| どちらかといえば満足している | 91 | 31.0 |
| どちらともいえない | 47 | 16.0 |
| どちらかといえば不満である | 55 | 18.7 |
| 不満である | 34 | 11.6 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

### 問19⑥休暇の日数・とりやすさ

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 103 | 35.0 |
| どちらかといえば満足している | 90 | 30.6 |
| どちらともいえない | 33 | 11.2 |
| どちらかといえば不満である | 29 | 9.9 |
| 不満である | 37 | 12.6 |
| 無回答 | 2 | 0.7 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

### 問19⑦職場の人間関係

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 満足している | 88 | 29.9 |
| どちらかといえば満足している | 106 | 36.1 |
| どちらともいえない | 52 | 17.7 |
| どちらかといえば不満である | 29 | 9.9 |
| 不満である | 17 | 5.8 |
| 無回答 | 2 | 0.7 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問20　あなたの現在の職場について、あてはまるものはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| ほぼ毎日残業をしている | 104 | 35.4% |
| 社員数が恒常的に不足している | 139 | 47.3% |
| いつも締め切り（納期）に追われている | 56 | 19.0% |
| 互いに助け合う雰囲気がある | 156 | 53.1% |
| 一人ひとりが独立して行う仕事が多い | 80 | 27.2% |
| お互い連携しながら行う仕事が多い | 164 | 55.8% |
| 先輩が後輩を指導する雰囲気がある | 114 | 38.8% |
| 社員の希望で異動できる仕組みがある | 58 | 19.7% |
| 若手社員の仕事や生活についての相談相手を決めている | 36 | 12.2% |
| 将来の仕事について相談できる機会がある | 55 | 18.7% |
| いずれもあてはまらない | 8 | 2.7% |
| 無回答 | 2 | 0.7% |
| 合計 | 294 | |

**問21　あなたの現在の仕事や職場について、以下のことはどれくらいあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。**

**問21①現在の仕事は、学校で学んだことが生かせる**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 72 | 24.5 |
| ややあてはまる | 78 | 26.5 |
| あまりあてはまらない | 79 | 26.9 |
| まったくあてはまらない | 63 | 21.4 |
| 無回答 | 2 | 0.7 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問21②現在の職場は、自分の能力を発揮できる**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 61 | 20.7 |
| ややあてはまる | 158 | 53.7 |
| あまりあてはまらない | 58 | 19.7 |
| まったくあてはまらない | 16 | 5.4 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 294 | 100.0 |

**問22　あなたが通っていた小学校の種類について、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 公立（都道府県立、市立など） | 338 | 94.2 |
| 私立 | 14 | 3.9 |
| 国立 | 5 | 1.4 |
| その他（外国の学校など） | 1 | 0.3 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問23　あなたが小学6年生の時に住んでいたところはどのようなところでしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 住宅の多い地域 | 283 | 78.8 |
| 商店の多い地域 | 4 | 1.1 |
| 工場の多い地域 | 4 | 1.1 |
| 田園・山間地域 | 60 | 16.7 |
| その他 | 3 | 0.8 |
| わからない・覚えていない | 4 | 1.1 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問24　あなたが小学6年生の時のクラスの児童数について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 20人以下 | 16 | 4.5 |
| 21～25人 | 35 | 9.7 |
| 26～30人 | 96 | 26.7 |
| 31～35人 | 92 | 25.6 |
| 36～40人 | 96 | 26.7 |
| 41人以上 | 10 | 2.8 |
| わからない・覚えていない | 14 | 3.9 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問25　あなたが小学6年生の時の学年のクラス数について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1クラス（複式学級含む） | 36 | 10.0 |
| 2クラス | 91 | 25.3 |
| 3クラス | 108 | 30.1 |
| 4クラス | 74 | 20.6 |
| 5クラス | 23 | 6.4 |
| 6クラス以上 | 16 | 4.5 |
| わからない・覚えていない | 10 | 2.8 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問26　あなたが小学6年生の時、あなたが通っていた小学校では、次のことはどのような様子でしたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。

問26①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 56 | 15.6 |
| まあそう思う | 167 | 46.5 |
| あまりそう思わない | 57 | 15.9 |
| そう思わない | 28 | 7.8 |
| わからない・覚えていない | 51 | 14.2 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26②クラスがうまくいかない時みんな心配した

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 29 | 8.1 |
| まあそう思う | 122 | 34.0 |
| あまりそう思わない | 87 | 24.2 |
| そう思わない | 52 | 14.5 |
| わからない・覚えていない | 69 | 19.2 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26③クラスでは、もめごとが少なかった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 44 | 12.3 |
| まあそう思う | 124 | 34.5 |
| あまりそう思わない | 85 | 23.7 |
| そう思わない | 71 | 19.8 |
| わからない・覚えていない | 35 | 9.7 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26④クラスがばらばらになる雰囲気があった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 14 | 3.9 |
| まあそう思う | 54 | 15.0 |
| あまりそう思わない | 122 | 34.0 |
| そう思わない | 128 | 35.7 |
| わからない・覚えていない | 41 | 11.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑤クラスでは、心から楽しめた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 74 | 20.6 |
| まあそう思う | 154 | 42.9 |
| あまりそう思わない | 61 | 17.0 |
| そう思わない | 51 | 14.2 |
| わからない・覚えていない | 19 | 5.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑥クラスが気に入っていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 79 | 22.0 |
| まあそう思う | 140 | 39.0 |
| あまりそう思わない | 56 | 15.6 |
| そう思わない | 55 | 15.3 |
| わからない・覚えていない | 29 | 8.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑦個人的な問題を安心して話せた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 35 | 9.7 |
| まあそう思う | 97 | 27.0 |
| あまりそう思わない | 84 | 23.4 |
| そう思わない | 94 | 26.2 |
| わからない・覚えていない | 49 | 13.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 50 | 13.9 |
| まあそう思う | 120 | 33.4 |
| あまりそう思わない | 71 | 19.8 |
| そう思わない | 72 | 20.1 |
| わからない・覚えていない | 46 | 12.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 41 | 11.4 |
| まあそう思う | 172 | 47.9 |
| あまりそう思わない | 65 | 18.1 |
| そう思わない | 39 | 10.9 |
| わからない・覚えていない | 42 | 11.7 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑩クラスは、勉強熱心だった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 33 | 9.2 |
| まあそう思う | 124 | 34.5 |
| あまりそう思わない | 93 | 25.9 |
| そう思わない | 58 | 16.2 |
| わからない・覚えていない | 50 | 13.9 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑪クラスは、規則を守っていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 51 | 14.2 |
| まあそう思う | 186 | 51.8 |
| あまりそう思わない | 67 | 18.7 |
| そう思わない | 25 | 7.0 |
| わからない・覚えていない | 30 | 8.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問26⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 44 | 12.3 |
| まあそう思う | 175 | 48.7 |
| あまりそう思わない | 71 | 19.8 |
| そう思わない | 33 | 9.2 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27　あなたが小学6年生の時、あなたが通っていた小学校では、学校の授業において、次のようなことはどれくらいありましたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。

問27①パソコンやタブレット（iPadなど）を使う

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 3 | 0.8 |
| ときどきあった | 57 | 15.9 |
| あまりなかった | 68 | 18.9 |
| ほとんどなかった | 214 | 59.6 |
| わからない・覚えていない | 16 | 4.5 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27②観察・実験や調査などで考えを確かめる

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 59 | 16.4 |
| ときどきあった | 197 | 54.9 |
| あまりなかった | 51 | 14.2 |
| ほとんどなかった | 23 | 6.4 |
| わからない・覚えていない | 27 | 7.5 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27③調べたり考えたりしたことを発表する

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 76 | 21.2 |
| ときどきあった | 201 | 56.0 |
| あまりなかった | 40 | 11.1 |
| ほとんどなかった | 18 | 5.0 |
| わからない・覚えていない | 23 | 6.4 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27④テーマについて討論（話し合い）をする

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 52 | 14.5 |
| ときどきあった | 170 | 47.4 |
| あまりなかった | 74 | 20.6 |
| ほとんどなかった | 30 | 8.4 |
| わからない・覚えていない | 31 | 8.6 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27⑤学校の先生以外の人の話を聞く

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 24 | 6.7 |
| ときどきあった | 171 | 47.6 |
| あまりなかった | 103 | 28.7 |
| ほとんどなかった | 32 | 8.9 |
| わからない・覚えていない | 28 | 7.8 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27⑥ドリルやプリントの問題を解く

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 282 | 78.6 |
| ときどきあった | 53 | 14.8 |
| あまりなかった | 6 | 1.7 |
| ほとんどなかった | 2 | 0.6 |
| わからない・覚えていない | 15 | 4.2 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問27⑦確認テストや小テストを受ける

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 230 | 64.1 |
| ときどきあった | 96 | 26.7 |
| あまりなかった | 15 | 4.2 |
| ほとんどなかった | 2 | 0.6 |
| わからない・覚えていない | 15 | 4.2 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問28　あなたが小学6年生の時、あなたは、通っていた小学校での生活をどのように考えていましたか。

問28①ためになると思える授業がたくさんあった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 28 | 7.8 |
| まあそう思う | 162 | 45.1 |
| あまりそう思わない | 90 | 25.1 |
| まったくそう思わない | 25 | 7.0 |
| わからない・覚えていない | 54 | 15.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問28②楽しいと思える授業がたくさんあった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 53 | 14.8 |
| まあそう思う | 150 | 41.8 |
| あまりそう思わない | 84 | 23.4 |
| まったくそう思わない | 39 | 10.9 |
| わからない・覚えていない | 33 | 9.2 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問28③学校の勉強は将来役に立つと思った

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 36 | 10.0 |
| まあそう思う | 135 | 37.6 |
| あまりそう思わない | 105 | 29.2 |
| まったくそう思わない | 49 | 13.6 |
| わからない・覚えていない | 34 | 9.5 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問28④授業の内容をよく理解できていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 96 | 26.7 |
| まあそう思う | 150 | 41.8 |
| あまりそう思わない | 59 | 16.4 |
| まったくそう思わない | 31 | 8.6 |
| わからない・覚えていない | 23 | 6.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問28⑤先生との関係はうまくいっていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 95 | 26.5 |
| まあそう思う | 168 | 46.8 |
| あまりそう思わない | 43 | 12.0 |
| まったくそう思わない | 31 | 8.6 |
| わからない・覚えていない | 22 | 6.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問28⑥先生は信頼できた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 92 | 25.6 |
| まあそう思う | 155 | 43.2 |
| あまりそう思わない | 53 | 14.8 |
| まったくそう思わない | 38 | 10.6 |
| わからない・覚えていない | 21 | 5.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問29　あなたは、小学5年生の時に、塾や家庭教師、通信教育（添削教材やプリント教材などを使った通信学習）などを受けていましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学習塾 | 113 | 31.5% |
| 家庭教師 | 6 | 1.7% |
| 通信教育 | 82 | 22.8% |
| いずれも受けていなかった | 155 | 43.2% |
| 覚えていない | 19 | 5.3% |
| 無回答 | 1 | 0.3% |
| 合計 | 359 | |

### 補問29-1　学習塾や家庭教師、通信教育について、受けていた主な目的は何でしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 主に学校の勉強の補助・補習のため | 121 | 65.4 |
| 主に受験や進学のため | 49 | 26.5 |
| その他の目的のため | 9 | 4.9 |
| 覚えていない | 6 | 3.2 |
| 合計 | 185 | 100.0 |

補問29-2　学習塾や家庭教師について、1週間に何日受けていましたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 週に1日 | 15 | 13.0 |
| 週に2日 | 52 | 45.2 |
| 週に3日 | 18 | 15.7 |
| 週に4日 | 11 | 9.6 |
| 週に5日 | 4 | 3.5 |
| 週に7日 | 1 | 0.9 |
| 覚えていない | 14 | 12.2 |
| 合計 | 115 | 100.0 |

問30　あなたが通っていた中学校の種類について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 公立（都道府県立、市立など） | 308 | 85.8 |
| 私立 | 38 | 10.6 |
| 国立 | 8 | 2.2 |
| その他（外国の学校など） | 3 | 0.8 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問31　あなたが中学3年生の時のクラスの生徒数について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 20人以下 | 7 | 1.9 |
| 21～25人 | 15 | 4.2 |
| 26～30人 | 70 | 19.5 |
| 31～35人 | 110 | 30.6 |
| 36～40人 | 118 | 32.9 |
| 41人以上 | 14 | 3.9 |
| わからない・覚えていない | 25 | 7.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問32　あなたが中学3年生の時の学年のクラス数について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1クラス（複式学級含む） | 8 | 2.2 |
| 2クラス | 22 | 6.1 |
| 3・4クラス | 128 | 35.7 |
| 5・6クラス | 104 | 29.0 |
| 7・8クラス | 64 | 17.8 |
| 9クラス以上 | 19 | 5.3 |
| わからない・覚えていない | 12 | 3.3 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問33　あなたが中学3年生の時、あなたの成績は学年の中でどれくらいでしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 上の方 | 79 | 22.0 |
| やや上の方 | 81 | 22.6 |
| 真ん中あたり | 96 | 26.7 |
| やや下の方 | 50 | 13.9 |
| 下の方 | 39 | 10.9 |
| わからない・覚えていない | 14 | 3.9 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問34　あなたは、中学3年生の時、次の教科が得意でしたか、それとも不得意でしたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問34①国語**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 105 | 29.2 |
| 少し得意であった | 94 | 26.2 |
| どちらでもなかった | 65 | 18.1 |
| あまり得意でなかった | 56 | 15.6 |
| 得意でなかった | 33 | 9.2 |
| わからない・覚えていない | 5 | 1.4 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問34②社会（地理歴史・公民）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 82 | 22.8 |
| 少し得意であった | 84 | 23.4 |
| どちらでもなかった | 67 | 18.7 |
| あまり得意でなかった | 64 | 17.8 |
| 得意でなかった | 56 | 15.6 |
| わからない・覚えていない | 5 | 1.4 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問34③数学**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 62 | 17.3 |
| 少し得意であった | 64 | 17.8 |
| どちらでもなかった | 58 | 16.2 |
| あまり得意でなかった | 66 | 18.4 |
| 得意でなかった | 105 | 29.2 |
| わからない・覚えていない | 3 | 0.8 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問34④理科（物理・化学・生物・地学等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 60 | 16.7 |
| 少し得意であった | 75 | 20.9 |
| どちらでもなかった | 74 | 20.6 |
| あまり得意でなかった | 75 | 20.9 |
| 得意でなかった | 70 | 19.5 |
| わからない・覚えていない | 4 | 1.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問34⑤外国語（英語等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 70 | 19.5 |
| 少し得意であった | 69 | 19.2 |
| どちらでもなかった | 57 | 15.9 |
| あまり得意でなかった | 67 | 18.7 |
| 得意でなかった | 92 | 25.6 |
| わからない・覚えていない | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問35　あなたは、中学校で次の教科を女性の先生に教わっていましたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問35①国語**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 232 | 64.6 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 76 | 21.2 |
| わからない・覚えていない | 49 | 13.6 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問35②社会（地理歴史・公民）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 77 | 21.4 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 241 | 67.1 |
| わからない・覚えていない | 40 | 11.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問35③数学**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 94 | 26.2 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 226 | 63.0 |
| わからない・覚えていない | 37 | 10.3 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問35④理科（物理・化学・生物・地学等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 92 | 25.6 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 224 | 62.4 |
| わからない・覚えていない | 42 | 11.7 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問35⑤外国語（英語等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 251 | 69.9 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 72 | 20.1 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.0 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問36　あなたが通っていた中学校では、以下のようなことがありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学校が荒れていた | 88 | 24.5% |
| 遅刻者が多かった | 33 | 9.2% |
| 校則が厳しかった | 106 | 29.5% |
| どれもあてはまらない | 140 | 39.0% |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.0% |
| 無回答 | 4 | 1.1% |
| 合計 | 359 | |

**問37　あなたが中学3年生の時、あなたが通っていた中学校では、次のことはどのような様子でしたか。**

**問37①クラスの活動にみんな自分から進んで参加した**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 49 | 13.6 |
| まあそう思う | 162 | 45.1 |
| あまりそう思わない | 80 | 22.3 |
| そう思わない | 34 | 9.5 |
| わからない・覚えていない | 31 | 8.6 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問37②クラスがうまくいかない時みんな心配した**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 22 | 6.1 |
| まあそう思う | 140 | 39.0 |
| あまりそう思わない | 91 | 25.3 |
| そう思わない | 56 | 15.6 |
| わからない・覚えていない | 46 | 12.8 |
| 無回答 | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37③クラスでは、もめごとが少なかった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 48 | 13.4 |
| まあそう思う | 131 | 36.5 |
| あまりそう思わない | 95 | 26.5 |
| そう思わない | 49 | 13.6 |
| わからない・覚えていない | 30 | 8.4 |
| 無回答 | 6 | 1.7 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37④クラスがばらばらになる雰囲気があった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 26 | 7.2 |
| まあそう思う | 67 | 18.7 |
| あまりそう思わない | 130 | 36.2 |
| そう思わない | 97 | 27.0 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.0 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑤クラスでは、心から楽しめた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 61 | 17.0 |
| まあそう思う | 147 | 40.9 |
| あまりそう思わない | 68 | 18.9 |
| そう思わない | 59 | 16.4 |
| わからない・覚えていない | 21 | 5.8 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑥クラスが気に入っていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 69 | 19.2 |
| まあそう思う | 136 | 37.9 |
| あまりそう思わない | 62 | 17.3 |
| そう思わない | 66 | 18.4 |
| わからない・覚えていない | 23 | 6.4 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑦個人的な問題を安心して話せた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 42 | 11.7 |
| まあそう思う | 90 | 25.1 |
| あまりそう思わない | 96 | 26.7 |
| そう思わない | 100 | 27.9 |
| わからない・覚えていない | 28 | 7.8 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑧自分達の気持ちを気軽に言い合えた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 41 | 11.4 |
| まあそう思う | 125 | 34.8 |
| あまりそう思わない | 82 | 22.8 |
| そう思わない | 79 | 22.0 |
| わからない・覚えていない | 29 | 8.1 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑨クラスのみんなは、授業中よく集中していた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 29 | 8.1 |
| まあそう思う | 167 | 46.5 |
| あまりそう思わない | 88 | 24.5 |
| そう思わない | 43 | 12.0 |
| わからない・覚えていない | 29 | 8.1 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑩クラスは、勉強熱心だった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 32 | 8.9 |
| まあそう思う | 124 | 34.5 |
| あまりそう思わない | 116 | 32.3 |
| そう思わない | 47 | 13.1 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.0 |
| 無回答 | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑪クラスは、規則を守っていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 44 | 12.3 |
| まあそう思う | 171 | 47.6 |
| あまりそう思わない | 71 | 19.8 |
| そう思わない | 39 | 10.9 |
| わからない・覚えていない | 30 | 8.4 |
| 無回答 | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問37⑫クラスは先生の指示にすばやく従っていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| そう思う | 46 | 12.8 |
| まあそう思う | 162 | 45.1 |
| あまりそう思わない | 76 | 21.2 |
| そう思わない | 37 | 10.3 |
| わからない・覚えていない | 33 | 9.2 |
| 無回答 | 5 | 1.4 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問38　あなたが中学3年生の時、あなたが通っていた中学校では、学校の授業において、次のようなことはどれくらいありましたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。

問38①パソコンやタブレット（iPadなど）を使う

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 9 | 2.5 |
| ときどきあった | 74 | 20.6 |
| あまりなかった | 75 | 20.9 |
| ほとんどなかった | 172 | 47.9 |
| わからない・覚えていない | 26 | 7.2 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問38②観察・実験や調査などで考えを確かめる

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 44 | 12.3 |
| ときどきあった | 183 | 51.0 |
| あまりなかった | 68 | 18.9 |
| ほとんどなかった | 31 | 8.6 |
| わからない・覚えていない | 30 | 8.4 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問38③調べたり考えたりしたことを発表する

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 57 | 15.9 |
| ときどきあった | 171 | 47.6 |
| あまりなかった | 67 | 18.7 |
| ほとんどなかった | 31 | 8.6 |
| わからない・覚えていない | 30 | 8.4 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問38④テーマについて討論（話し合い）をする

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 47 | 13.1 |
| ときどきあった | 150 | 41.8 |
| あまりなかった | 89 | 24.8 |
| ほとんどなかった | 36 | 10.0 |
| わからない・覚えていない | 33 | 9.2 |
| 無回答 | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問38⑤学校の先生以外の人の話を聞く

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 26 | 7.2 |
| ときどきあった | 153 | 42.6 |
| あまりなかった | 99 | 27.6 |
| ほとんどなかった | 42 | 11.7 |
| わからない・覚えていない | 35 | 9.7 |
| 無回答 | 4 | 1.1 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問38⑥ドリルやプリントの問題を解く

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 196 | 54.6 |
| ときどきあった | 114 | 31.8 |
| あまりなかった | 19 | 5.3 |
| ほとんどなかった | 7 | 1.9 |
| わからない・覚えていない | 20 | 5.6 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問38⑦確認テストや小テストを受ける

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| よくあった | 212 | 59.1 |
| ときどきあった | 112 | 31.2 |
| あまりなかった | 13 | 3.6 |
| ほとんどなかった | 3 | 0.8 |
| わからない・覚えていない | 16 | 4.5 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問39　あなたが中学3年生の時、あなたは、通っていた中学校での生活をどのように考えていましたか。

### 問39①ためになると思える授業がたくさんあった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 39 | 10.9 |
| まあそう思う | 169 | 47.1 |
| あまりそう思わない | 94 | 26.2 |
| まったくそう思わない | 29 | 8.1 |
| わからない・覚えていない | 25 | 7.0 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問39②楽しいと思える授業がたくさんあった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 46 | 12.8 |
| まあそう思う | 120 | 33.4 |
| あまりそう思わない | 128 | 35.7 |
| まったくそう思わない | 37 | 10.3 |
| わからない・覚えていない | 25 | 7.0 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問39③学校の勉強は将来役に立つと思った

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 43 | 12.0 |
| まあそう思う | 153 | 42.6 |
| あまりそう思わない | 96 | 26.7 |
| まったくそう思わない | 41 | 11.4 |
| わからない・覚えていない | 23 | 6.4 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問39④授業の内容をよく理解できていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 61 | 17.0 |
| まあそう思う | 164 | 45.7 |
| あまりそう思わない | 79 | 22.0 |
| まったくそう思わない | 36 | 10.0 |
| わからない・覚えていない | 16 | 4.5 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問39⑤先生との関係はうまくいっていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 82 | 22.8 |
| まあそう思う | 163 | 45.4 |
| あまりそう思わない | 50 | 13.9 |
| まったくそう思わない | 39 | 10.9 |
| わからない・覚えていない | 22 | 6.1 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問39⑥先生は信頼できた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもそう思う | 86 | 24.0 |
| まあそう思う | 147 | 40.9 |
| あまりそう思わない | 54 | 15.0 |
| まったくそう思わない | 44 | 12.3 |
| わからない・覚えていない | 25 | 7.0 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問40　あなたは、中学2年生の時に、塾や家庭教師、通信教育（添削教材やプリント教材などを使った通信学習）などを受けていましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学習塾 | 165 | 46.0% |
| 家庭教師 | 10 | 2.8% |
| 通信教育 | 36 | 10.0% |
| いずれも受けていなかった | 141 | 39.3% |
| 覚えていない | 16 | 4.5% |
| 無回答 | 4 | 1.1% |
| 合計 | 359 | |

補問40-1　学習塾や家庭教師、通信教育について、受けていた主な目的は何でしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 主に学校の勉強の補助・補習のため | 72 | 36.4 |
| 主に受験や進学のため | 124 | 62.6 |
| その他の目的のため | 2 | 1.0 |
| 合計 | 198 | 100.0 |

補問40-2　学習塾や家庭教師について、1週間に何日受けていましたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 週に1日 | 22 | 12.9 |
| 週に2日 | 79 | 46.5 |
| 週に3日 | 46 | 27.1 |
| 週に4日 | 5 | 2.9 |
| 週に5日 | 3 | 1.8 |
| 週に6日 | 1 | 0.6 |
| 週に7日 | 1 | 0.6 |
| 覚えていない | 13 | 7.6 |
| 合計 | 170 | 100.0 |

問41　あなたは高校に通った経験がありますか。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| ある | 354 | 98.6 |
| ない | 4 | 1.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

問42　あなたが通っていた高校の種類について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 公立（都道府県立、市立など） | 240 | 67.8 |
| 私立 | 103 | 29.1 |
| 国立 | 6 | 1.7 |
| その他（外国の学校など） | 3 | 0.8 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

問43　あなたが通っていた高校の課程について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 全日制 | 336 | 94.9 |
| 定時制 | 7 | 2.0 |
| 通信制 | 3 | 0.8 |
| その他（外国の学校など） | 2 | 0.6 |
| 無回答 | 6 | 1.7 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問44　あなたが通っていた高校の学科について、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 普通科 | 267 | 75.4 |
| 工業科 | 14 | 4.0 |
| 商業科 | 16 | 4.5 |
| 農業・水産科 | 7 | 2.0 |
| 看護・福祉科 | 6 | 1.7 |
| 家政・調理科 | 7 | 2.0 |
| 情報科 | 2 | 0.6 |
| 総合学科 | 10 | 2.8 |
| 理数科 | 6 | 1.7 |
| 英語・外国語学科 | 8 | 2.3 |
| その他 | 11 | 3.1 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問45　あなたが通っていた高校では、大学に進む人がどのくらいいましたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| ほぼ全員 | 142 | 40.1 |
| ７～８割 | 86 | 24.3 |
| 半数くらい | 56 | 15.8 |
| ２～３割 | 27 | 7.6 |
| ほとんどいない | 23 | 6.5 |
| わからない・覚えていない | 20 | 5.6 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問46　あなたが高校3年生の時、あなたの成績は学年の中でどれくらいでしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 上の方 | 63 | 17.8 |
| やや上の方 | 81 | 22.9 |
| 真ん中あたり | 93 | 26.3 |
| やや下の方 | 54 | 15.3 |
| やや下の方 | 51 | 14.4 |
| わからない・覚えていない | 11 | 3.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問47　あなたは、高校3年生の時、次の教科が得意でしたか、それとも不得意でしたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問47①国語**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 95 | 26.8 |
| 少し得意であった | 83 | 23.4 |
| どちらでもなかった | 75 | 21.2 |
| あまり得意でなかった | 51 | 14.4 |
| 得意でなかった | 42 | 11.9 |
| わからない・覚えていない | 8 | 2.3 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問47②社会（地理歴史・公民）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 74 | 20.9 |
| 少し得意であった | 72 | 20.3 |
| どちらでもなかった | 87 | 24.6 |
| あまり得意でなかった | 49 | 13.8 |
| 得意でなかった | 64 | 18.1 |
| わからない・覚えていない | 8 | 2.3 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問47③数学**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 52 | 14.7 |
| 少し得意であった | 59 | 16.7 |
| どちらでもなかった | 47 | 13.3 |
| あまり得意でなかった | 70 | 19.8 |
| 得意でなかった | 119 | 33.6 |
| わからない・覚えていない | 7 | 2.0 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問47④理科（物理・化学・生物・地学等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 43 | 12.1 |
| 少し得意であった | 75 | 21.2 |
| どちらでもなかった | 72 | 20.3 |
| あまり得意でなかった | 80 | 22.6 |
| 得意でなかった | 75 | 21.2 |
| わからない・覚えていない | 9 | 2.5 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問47⑤外国語（英語等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 得意であった | 50 | 14.1 |
| 少し得意であった | 67 | 18.9 |
| どちらでもなかった | 71 | 20.1 |
| あまり得意でなかった | 80 | 22.6 |
| 得意でなかった | 79 | 22.3 |
| わからない・覚えていない | 7 | 2.0 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問48　あなたは、高校で次の教科を女性の先生に教わっていましたか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問48①国語**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 209 | 59.0 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 109 | 30.8 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.2 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問48②社会（地理歴史・公民）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 68 | 19.2 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 250 | 70.6 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.2 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問48③数学**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 75 | 21.2 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 240 | 67.8 |
| わからない・覚えていない | 38 | 10.7 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問48④理科（物理・化学・生物・地学等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 87 | 24.6 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 223 | 63.0 |
| わからない・覚えていない | 44 | 12.4 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問48⑤外国語（英語等）**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性の先生に教わっていた | 204 | 57.6 |
| 女性の先生には教わっていなかった | 108 | 30.5 |
| わからない・覚えていない | 41 | 11.6 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 354 | 100.0 |

**問49　あなたが通っていた高校では、以下のようなことがありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学校が荒れていた | 31 | 8.8% |
| 遅刻者が多かった | 39 | 11.0% |
| 校則が厳しかった | 134 | 37.9% |
| どれもあてはまらない | 172 | 48.6% |
| わからない・覚えていない | 15 | 4.2% |
| 合計 | 354 | |

**問50　あなたは現在、母親・父親と同じ家に住んでいますか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問50①母親**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 母親はいない | 10 | 2.8 |
| 同じ家に住んでいる | 140 | 39.0 |
| 単身赴任など一時的に別の家に住んでいる | 7 | 1.9 |
| 別の家に住んでいる | 200 | 55.7 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問50②父親**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 父親はいない | 30 | 8.4 |
| 同じ家に住んでいる | 108 | 30.1 |
| 単身赴任など一時的に別の家に住んでいる | 20 | 5.6 |
| 別の家に住んでいる | 195 | 54.3 |
| 無回答 | 5 | 1.4 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問51　あなたの母親・父親が最後に卒業した学校についておたずねします。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問51①母親**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 中学校 | 11 | 3.1 |
| 高校 | 126 | 35.1 |
| 専修・専門学校 | 61 | 17.0 |
| 短大 | 66 | 18.4 |
| 大学・大学院 | 63 | 17.5 |
| その他 | 1 | 0.3 |
| わからない | 29 | 8.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 無効回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問51②父親**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 中学校 | 19 | 5.3 |
| 高校 | 116 | 32.3 |
| 専修・専門学校 | 30 | 8.4 |
| 短大 | 12 | 3.3 |
| 大学・大学院 | 143 | 39.8 |
| その他 | 1 | 0.3 |
| わからない | 35 | 9.7 |
| 無回答 | 3 | 0.8 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問52　あなたは今までに以下のような出来事を経験したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 親が失業した／親が事業で失敗した | 29 | 8.1% |
| 親が離婚した | 67 | 18.7% |
| 親が再婚した | 22 | 6.1% |
| 親が大きな事故にあった | 9 | 2.5% |
| 親が手術や長期療養を要する病気・ケガをした | 83 | 23.1% |
| 親が亡くなった | 14 | 3.9% |
| きょうだいや親しい友人が亡くなった | 20 | 5.6% |
| 自分が補導・逮捕された | 12 | 3.3% |
| 自分が離婚した | 1 | 0.3% |
| 自分が大きな事故にあった | 8 | 2.2% |
| 自分が手術や長期療養を要する病気・ケガをした | 38 | 10.6% |
| 自分が暴行・強盗・恐喝などの犯罪被害にあった | 7 | 1.9% |
| 自分が大きな災害にあった | 13 | 3.6% |
| 該当するものはない | 165 | 46.0% |
| 無回答 | 6 | 1.7% |
| 合計 | 359 | |

**問53　あなたは今までに、学校での経験として以下のようなことを経験したことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 自分が学校でいじめを受けた | 126 | 35.1% |
| 自分が学校でいじめをした（いじめに加担した） | 44 | 12.3% |
| 自分が小学生の時に不登校を経験した | 11 | 3.1% |
| 自分が中学生の時に不登校を経験した | 22 | 6.1% |
| 自分が高校生の時に不登校を経験した | 11 | 3.1% |
| 自分が高校生の時に留年した | 1 | 0.3% |
| 自分が大学・短大・専門学校などの学生の時に留年した | 25 | 7.0% |
| 該当するものはない | 188 | 52.4% |
| 無回答 | 7 | 1.9% |
| 合計 | 359 | |

**問54　あなたが15歳（中学3年生）だった頃、あなたの育った環境（家庭や施設等）の雰囲気はいかがでしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 暖かい雰囲気だった | 152 | 42.3 |
| どちらかというと暖かい雰囲気だった | 116 | 32.3 |
| どちらかというと暖かい雰囲気ではなかった | 34 | 9.5 |
| 暖かい雰囲気ではなかった | 34 | 9.5 |
| わからない・覚えていない | 21 | 5.8 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問55　あなたが15歳（中学3年生）だった頃、あなたのお宅には本がどのくらいありましたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 0～10冊 | 117 | 32.6 |
| 11～25冊 | 78 | 21.7 |
| 26～100冊 | 75 | 20.9 |
| 101～200冊 | 26 | 7.2 |
| 201～500冊 | 18 | 5.0 |
| 501冊以上 | 7 | 1.9 |
| わからない・覚えていない | 36 | 10.0 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問56　あなたが中学生だったころのあなたの親・保護者は、次のことにどの程度あてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。**

**問56①あなたの学校での成績に関心を持っていた**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 133 | 37.0 |
| ややあてはまる | 145 | 40.4 |
| あまりあてはまらない | 48 | 13.4 |
| まったくあてはまらない | 21 | 5.8 |
| わからない・覚えていない | 11 | 3.1 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問56②あなたの勉強がはかどるように気を使っていた**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 104 | 29.0 |
| ややあてはまる | 129 | 35.9 |
| あまりあてはまらない | 74 | 20.6 |
| まったくあてはまらない | 34 | 9.5 |
| わからない・覚えていない | 17 | 4.7 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

**問56③あなたの学校での授業参観やPTAの行事などに参加していた**

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 141 | 39.3 |
| ややあてはまる | 123 | 34.3 |
| あまりあてはまらない | 55 | 15.3 |
| まったくあてはまらない | 22 | 6.1 |
| わからない・覚えていない | 17 | 4.7 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問56④あなたの礼儀作法に厳しかった

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 92 | 25.6 |
| ややあてはまる | 133 | 37.0 |
| あまりあてはまらない | 89 | 24.8 |
| まったくあてはまらない | 31 | 8.6 |
| わからない・覚えていない | 13 | 3.6 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問56⑤あなたのことをよく理解していた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 104 | 29.0 |
| ややあてはまる | 148 | 41.2 |
| あまりあてはまらない | 56 | 15.6 |
| まったくあてはまらない | 29 | 8.1 |
| わからない・覚えていない | 21 | 5.8 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問56⑥あなたの将来に期待していた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 132 | 36.8 |
| ややあてはまる | 127 | 35.4 |
| あまりあてはまらない | 52 | 14.5 |
| まったくあてはまらない | 21 | 5.8 |
| わからない・覚えていない | 26 | 7.2 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問56⑦親・保護者との関係はうまくいっていた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 153 | 42.6 |
| ややあてはまる | 122 | 34.0 |
| あまりあてはまらない | 46 | 12.8 |
| まったくあてはまらない | 28 | 7.8 |
| わからない・覚えていない | 9 | 2.5 |
| 無回答 | 1 | 0.3 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

### 問56⑧親・保護者は信頼できた

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもあてはまる | 174 | 48.5 |
| ややあてはまる | 106 | 29.5 |
| あまりあてはまらない | 37 | 10.3 |
| まったくあてはまらない | 33 | 9.2 |
| わからない・覚えていない | 7 | 1.9 |
| 無回答 | 2 | 0.6 |
| 合計 | 359 | 100.0 |

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託業務として、株式会社浜銀総合研究所が実施した令和５年度「公的統計調査等を活用した教育施策の改善の推進するための取組」の成果をとりまとめたものです。